

第6次大桑村総合計画策定のための
住民アンケート調査結果報告書

令和5年3月
大桑村

目 次

I	調査の概要及び回答者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
(4)	数値の基本的な取扱いについて	2
2	回答者の属性	3
(1)	性別	3
(2)	年齢	3
(3)	職業	3
(4)	業種	4
(5)	就学先・勤務先	4
(6)	居住年数	4
(7)	居住地区	5
II	調査結果	6
1	むらへの愛着度と定住意向などについて	6
(1)	むらへの愛着度について	6
(2)	むらの魅力について	8
(3)	これからの定住意向について	10
(4)	住みたくない主な理由について	12
2	むらの現状と今後の取組について	14
(1)	むらの現状に関する満足度	14
(2)	今後の取組の重要度	26
(3)	満足度と重要度の相関（優先度）	38
(4)	今後のむらづくりの特色について	41
3	防災体制について	43
(1)	今後、力を入れるべき防災対策について	43
4	参画・協働について	45
(1)	村民参画・協働のむらづくりの推進について	45
5	コミュニティ活動について	47
(1)	コミュニティ活動等への参加状況・参加意向について	47
(2)	今後参加したい活動について	49
6	日頃の行動などについて（日常的に生活の中で行っていること）	52
(1)	健康増進のための取組について	52
(2)	週1回以上のスポーツ活動について	53
(3)	環境に配慮した生活について	54

(4) ごみ減量化のための3R運動について.....	55
(5) 村内の商店での買物について.....	56
(6) 災害時の避難場所について.....	57
(7) 「広報おおくわ」について.....	58
(8) 村のホームページについて.....	59
7 日頃の行動などについて（定期的に参加している取組や活動など）.....	60
(1) 村の講座等による生涯学習活動について.....	60
(2) 地域福祉活動への参加について.....	61
(3) 防火・防災訓練への参加.....	62
(4) 身近な地域での防犯活動への参加について.....	63
(5) 地元の道路・河川や公園などの維持管理について.....	64
8 新型コロナウイルス感染症について.....	65
(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと・心配ごとについて.....	65
(2) 新型コロナウイルス感染症の影響に関して、重点的に実施してほしい施策について.....	67
9 村のデジタル化の推進について.....	69
(1) 大桑村の行政情報の入手方法について.....	69
(2) 行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待について.....	71
(3) マイナンバーカードの取得について.....	73
(4) マイナンバーカード利用への期待について.....	74
(5) デジタル化の進展による影響について.....	76
10 SDGsについて.....	89
(1) SDGsの認知について.....	89

I 調査の概要及び回答者の属性

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、第6次大桑村総合計画の策定にあたって、村への愛着度やこれからの定住意向をはじめ、村の現状に関する満足度やこれからの取組の重要度、むらづくりの特色など、村民の意識構造の実態を把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	16歳以上の住民
配布数	1,650
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送による配布・回収及びWeb回答
調査時期	令和4年12月
調査地域	村内全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	1,650
有効回収数	637
有効回収率	38.6%

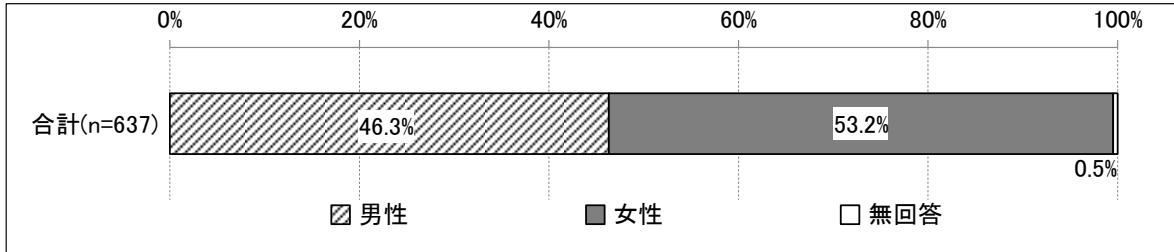
(4) 数値の基本的な取扱いについて

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ②基数となるべき実数は、“ $n = \text{〇〇〇}$ ”として掲載し、各比率は n を100%として算出しています。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ④文中、グラフ中の選択肢の文言は作図等の都合により一部簡略化する場合があります。

2 回答者の属性

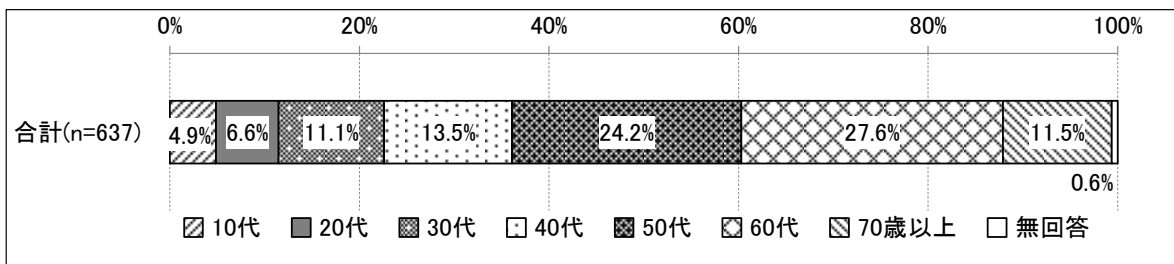
(1) 性別

回答者の性別は、「男性」が46.3%、「女性」が53.2%となっています。



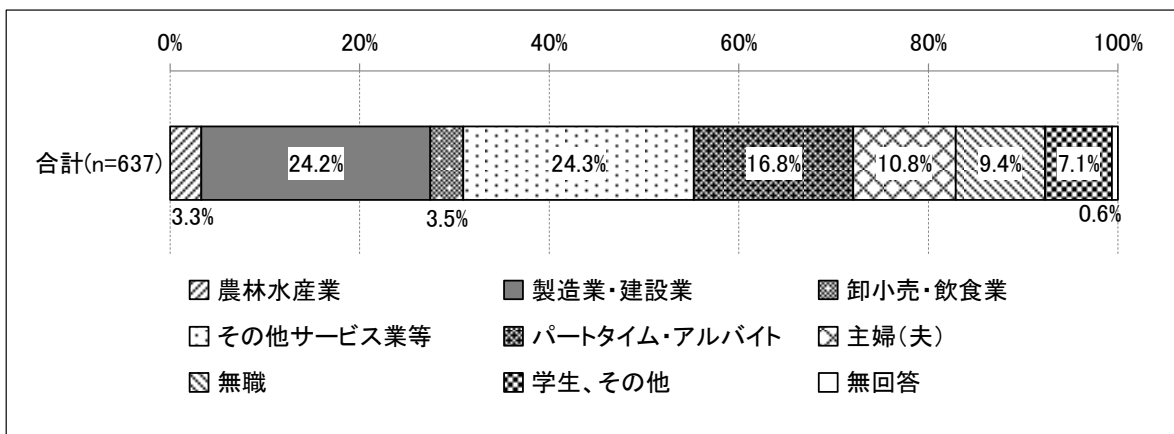
(2) 年齢

回答者の年齢は、「60代」が27.6%と最も高く、次いで「50代」(24.2%)、「40代」(13.5%)、「70歳以上」(11.5%)、「30代」(11.1%)、「20代」(6.6%)、「10代」(4.9%)となっています。



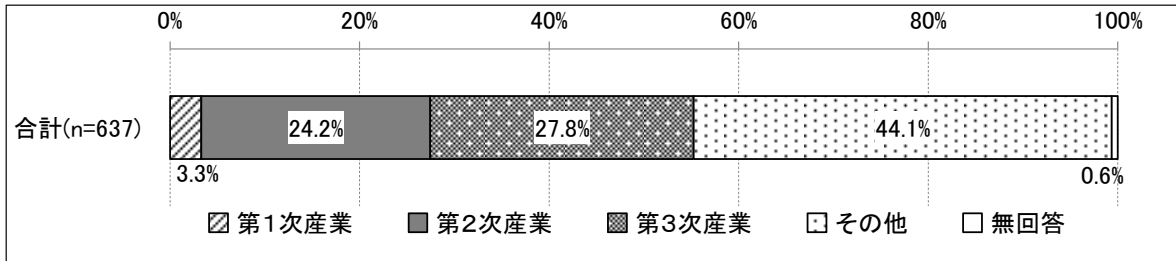
(3) 職業

回答者の職業は、「その他サービス業等（公務員を含む）」が24.3%と最も高く、次いで「製造業・建設業」(24.2%)、「パートタイム・アルバイト」(16.8%)、「主婦（夫）」(10.8%)、「無職」(9.4%)、「学生、その他」(7.1%)、「卸小売・飲食業」(3.5%)、「農林水産業」(3.3%)となっています。



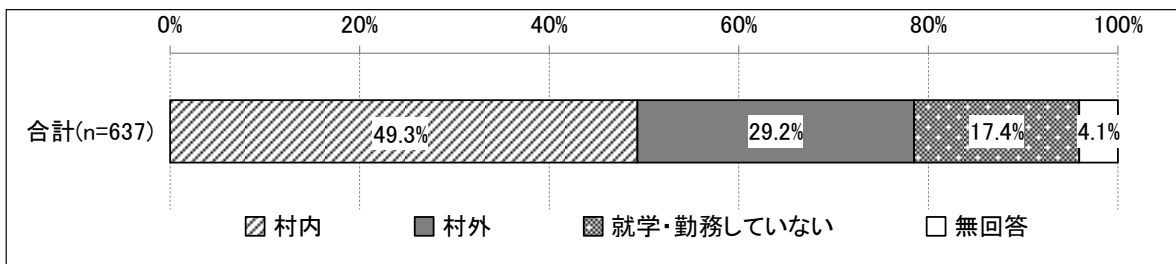
(4) 業種

回答者の業種は、「その他」が44.1%と最も高く、次いで「第3次産業」(27.8%)、「第2次産業」(24.2%)、「第1次産業」(3.3%)となっています。



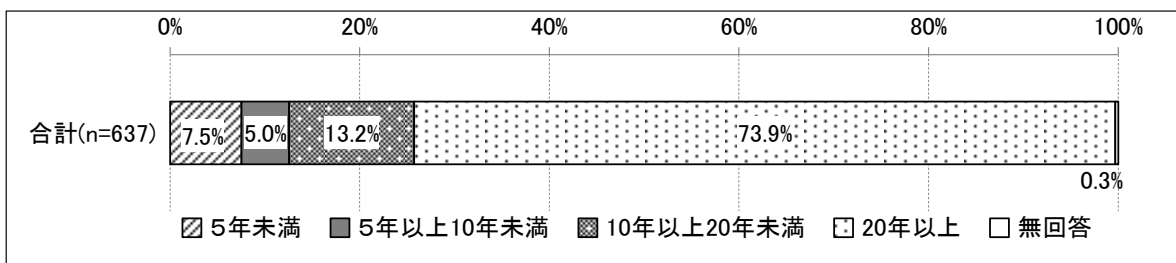
(5) 就学先・勤務先

回答者の就学先・勤務先は、「村内」が49.3%と最も高く、次いで「村外」(29.2%)、「就学・勤務していない」(17.4%)となっています。



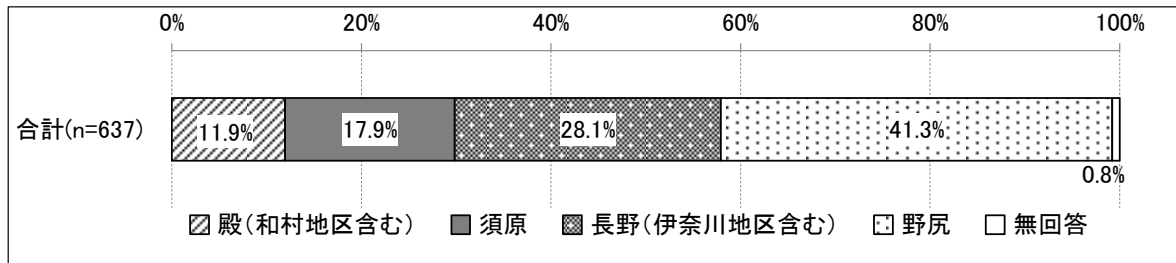
(6) 居住年数

回答者の居住年数は、「20年以上」が73.9%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」(13.2%)、「5年未満」(7.5%)、「5年以上10年未満」(5.0%)となっています。



(7) 居住地区

回答者の居住地区は、「野尻」が41.3%と最も高く、次いで「長野(伊奈川地区含む)」(28.1%)、「須原」(17.9%)、「殿(和村地区含む)」(11.9%)となっています。



Ⅱ 調査結果

Ⅰ むらへの愛着度と定住意向などについて

(1) むらへの愛着度について

問2 あなたは、大桑村に対して「自分のむら」としての愛着をどの程度感じていますか。

- “愛着を感じている”が68.0%、一方、“愛着を感じていない”が8.5%。

村民の村に対する愛着度を把握するため、「とても愛着を感じている」「どちらかというとな愛着を感じている」「どちらともいえない」「あまり愛着を感じていない」「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらいました。

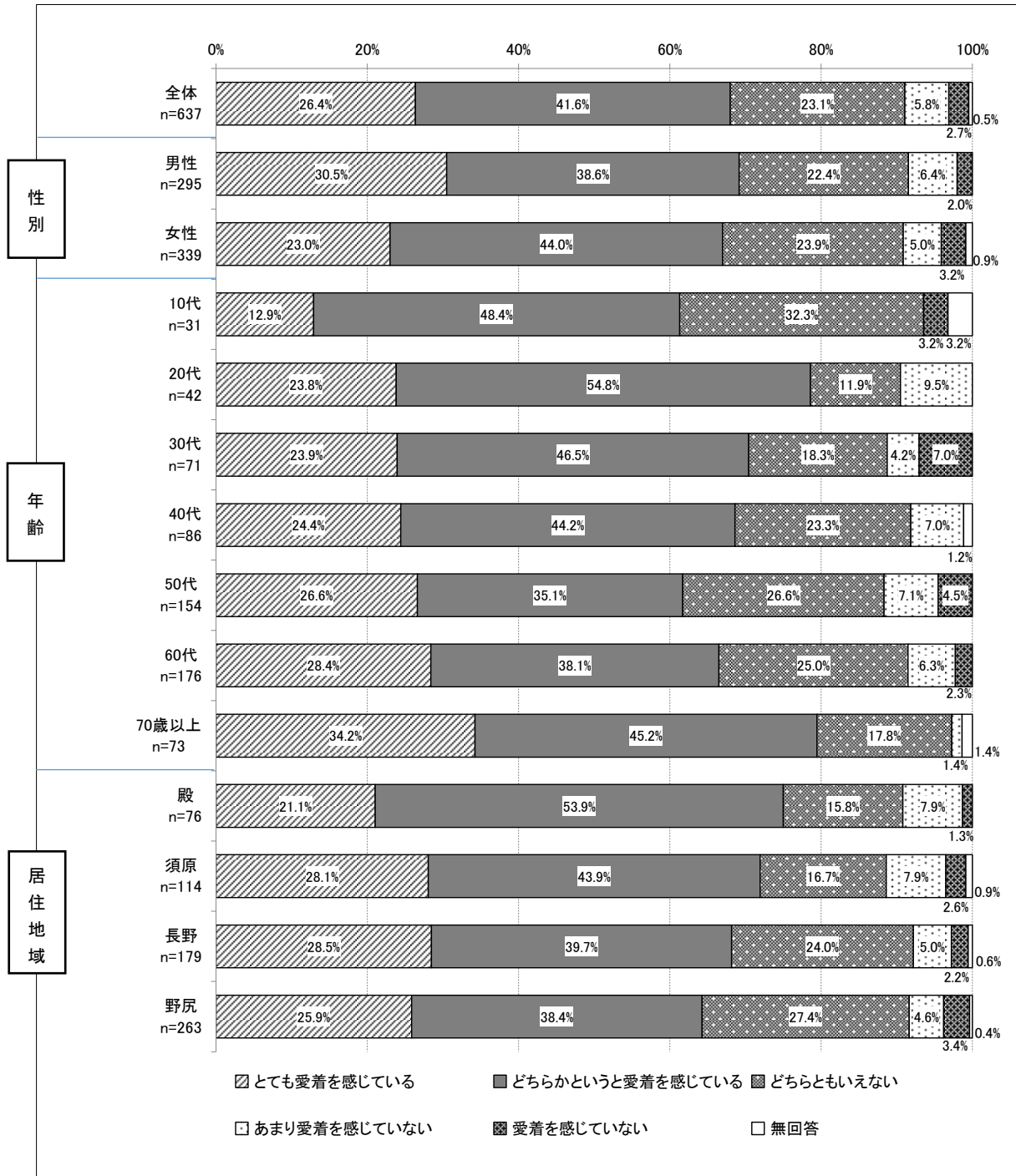
その結果、「どちらかというとな愛着を感じている」と答えた人(41.6%)が最も多く、これに「とても愛着を感じている」(26.4%)をあわせた“愛着を感じている”という人が68.0%となっています。これに対し、“愛着を感じていない”という人(「あまり愛着を感じていない」(5.8%)と「愛着を感じていない」(2.7%)の合計)は8.5%にとどまり、村への愛着度は高いといえます。

属性別で“愛着を感じている”率をみると、性別では、男性が69.1%、女性が67.0%となっており、男性がわずかに女性を上回っています。

年齢別では、“愛着を感じている”率が70歳以上(79.4%)、20代(78.6%)では8割近くあり、他の年代と比較して高くなっています。

居住地域別では、殿(和村地区含む)(75.0%)で愛着度が最も高く、次いで須原(72.0%)、長野(伊奈川地区含む)(68.2%)、野尻(64.3%)の順となっています。

むらへの愛着度について（全体・性別・年齢・居住地）



(2) むらの魅力について

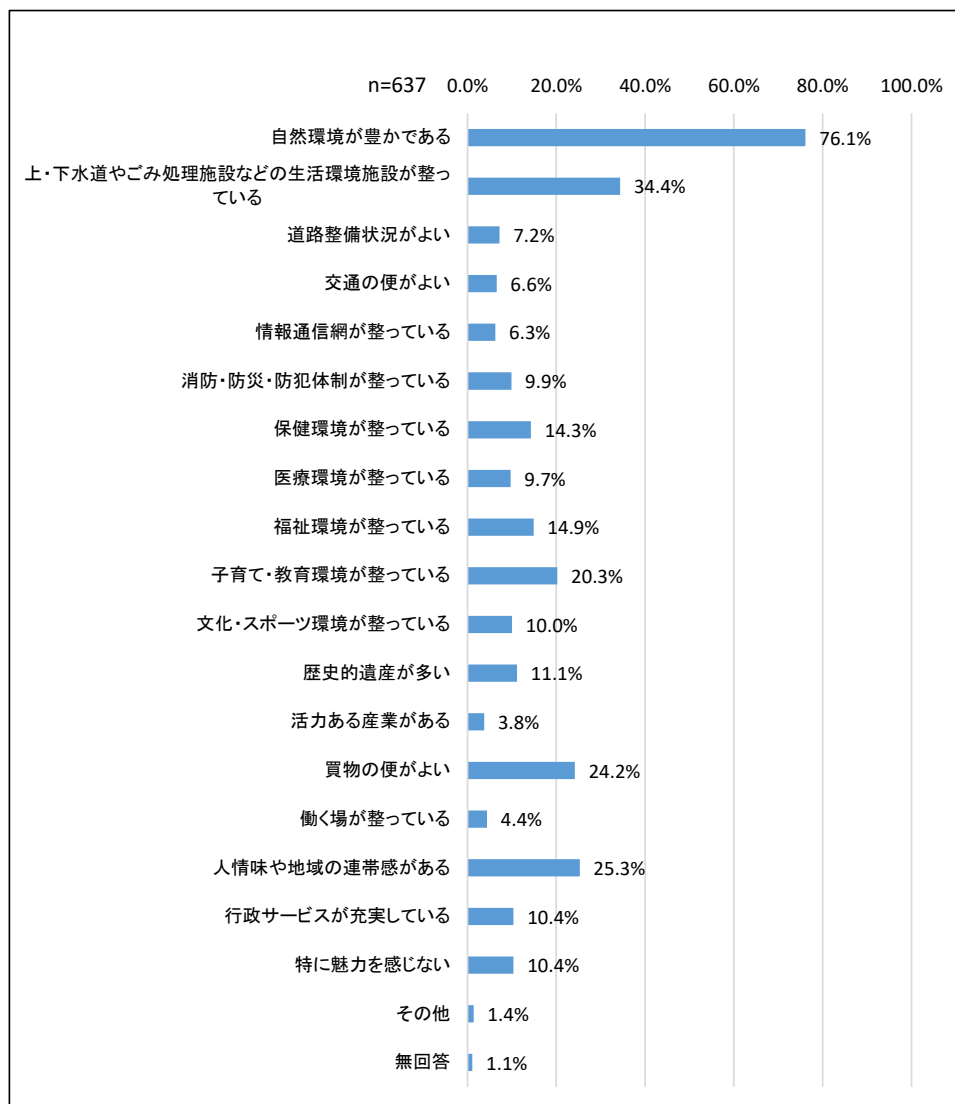
問3 あなたは、大桑村はどのようなところが魅力だと思いますか。【複数回答】

- 「自然環境が豊かである」が第1位。次いで「上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」の順。

大桑村の魅力についてたずねたところ、「自然環境が豊かである」(76.1%)が第1位に挙げられ、次いで「上・下水道やごみ処理施設などの生活環境施設が整っている」(34.4%)、「人情味や地域の連帯感がある」(25.3%)と続いています。

属性別でも、すべての層で「自然環境が豊かである」が全体と同様に第1位に挙げられています。

むらの魅力について（全体／複数回答）



むらの魅力について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		自然環境が豊かである 76.1%	生活環境施設が整っている 34.4%	人情味や地域の連帯感がある 25.3%
性別	男性	自然環境が豊かである 72.2%	生活環境施設が整っている 39.0%	人情味や地域の連帯感がある 25.4%
	女性	自然環境が豊かである 79.4%	生活環境施設が整っている 30.4%	買物の便がよい 26.5%
年齢	10代	自然環境が豊かである 87.1%	人情味や地域の連帯感がある 25.8%	生活環境施設が整っている 19.4%
	20代	自然環境が豊かである 83.3%	人情味や地域の連帯感がある 33.3%	子育て・教育環境が整っている 31.0%
	30代	自然環境が豊かである 78.9%	子育て・教育環境が整っている 33.8%	買物の便がよい 22.5%
	40代	自然環境が豊かである 76.7%	買物の便がよい 32.6%	子育て・教育環境が整っている 25.6%
	50代	自然環境が豊かである 77.3%	生活環境施設が整っている 33.1%	買物の便がよい 25.3%
	60代	自然環境が豊かである 70.5%	生活環境施設が整っている 38.1%	人情味や地域の連帯感がある 29.5%
	70歳以上	自然環境が豊かである 74.0%	生活環境施設が整っている 72.6%	福祉環境が整っている 41.1%
居住地域	殿	自然環境が豊かである 84.2%	買物の便がよい 35.5%	生活環境施設が整っている 25.0%
	須原	自然環境が豊かである 74.6%	買物の便がよい 38.6%	生活環境施設が整っている 34.2%
	長野	自然環境が豊かである 76.0%	生活環境施設が整っている 36.9%	買物の便がよい 28.5%
	野尻	自然環境が豊かである 74.9%	生活環境施設が整っている 35.7%	人情味や地域の連帯感がある 28.1%

(3) これからの定住意向について

問4 あなたは、これからも大桑村に住みたいと思いますか。



- “住みたい” が64.2%、“住みたくない” が7.8%。

村民のこれからの定住意向を探るため、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」「どちらともいえない」「どちらかといえば住みたくない」「住みたくない」の中から1つを選んでもらいました。

その結果、「住みたい」と答えた人(36.9%)が最も多く、これに「どちらかといえば住みたい」(27.3%)をあわせた“住みたい”という人が64.2%となっています。

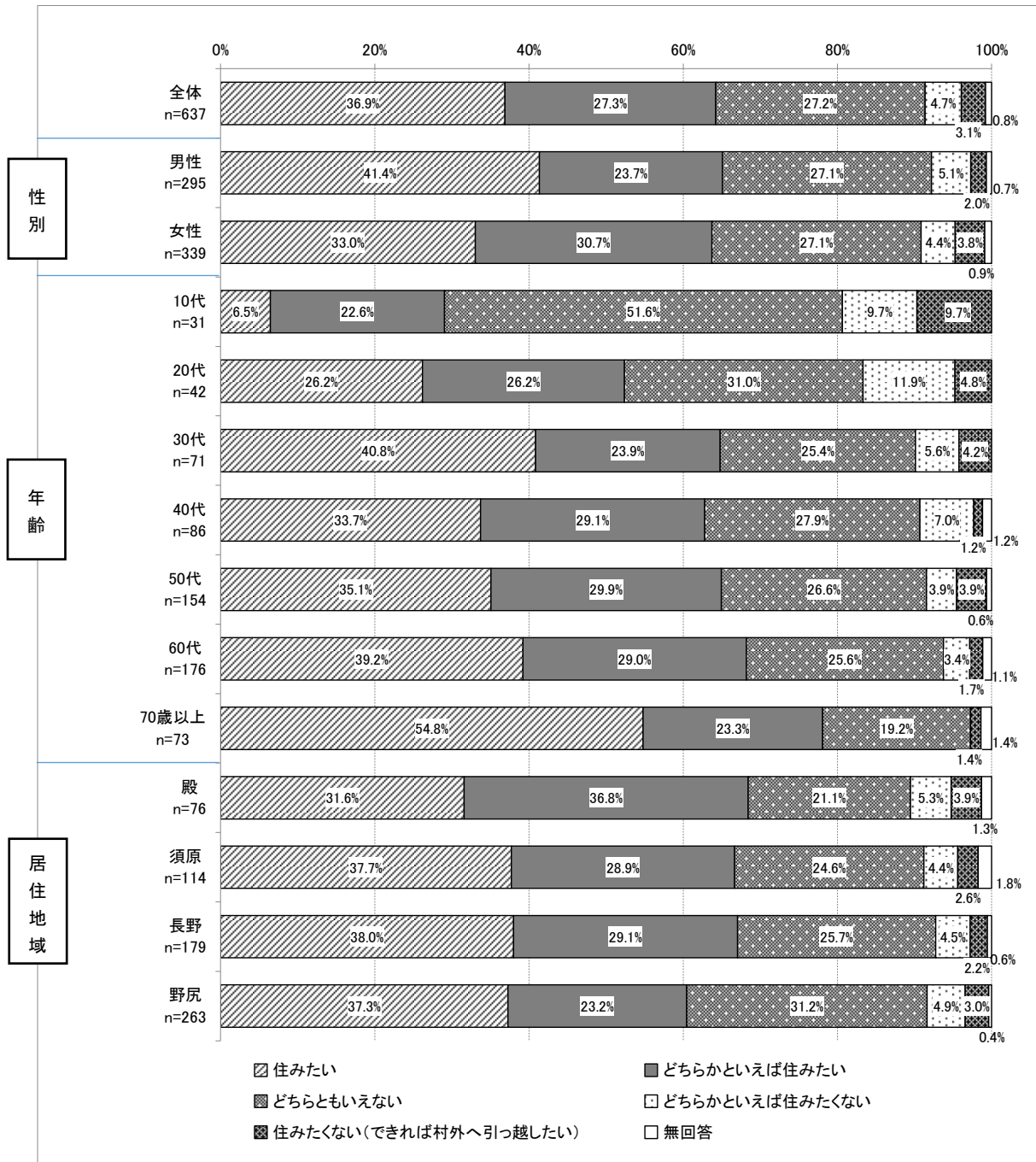
これに対し、“住みたくない”という人(「どちらかといえば住みたくない」4.7%と「住みたくない」3.1%の合計)は7.8%にとどまり、“住みたい”と“住みたくない”を比較すると、定住意向は強いといえます。

属性別で“住みたい”率をみると、性別では、男性(65.1%)が女性(63.7%)をわずかに上回っています。

年齢別では、概ね年齢層が高くなるにつれて“住みたい”率が高くなる傾向があり、70歳以上では78.1%と高くなっています。一方、10代では3割を下回っています。

居住地域別では、“住みたい”率に大きな差はみられず、殿(和村地区含む)で68.4%、長野(伊奈川地区含む)で67.1%、須原で66.6%、野尻で60.5%となっています。

これからの定住意向について（全体・性別・年齢・居住地区）



(4) 住みたくない主な理由について

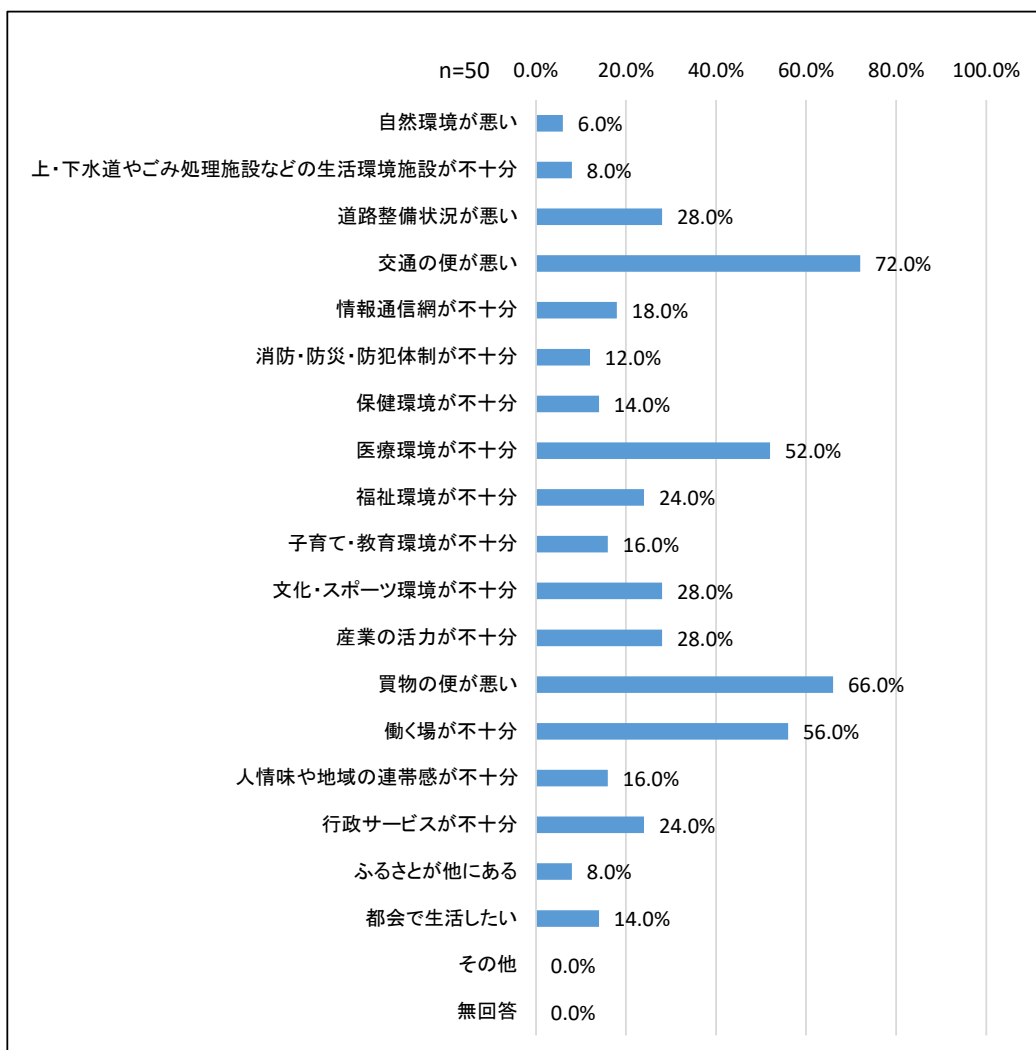
問4付問 大桑村に住みたくない主な理由はなんですか。
(問4で“住みたくない”と回答した人のみ)【複数回答】

- 「交通の便が悪い」が第1位。次いで「買物の便が悪い」、「働く場が不十分」の順。

問4で“住みたくない”と回答した50人(全体の7.8%)に、住みたくない主な理由についてたずねたところ、「交通の便が悪い」(72.0%)が第1位に挙げられ、次いで「買物の便が悪い」(66.0%)、「働く場が不十分」(56.0%)が続いています。

これを属性別でも、「交通の便が悪い」、「買物の便が悪い」、「働く場が不十分」が概ね上位に挙げられています。

住みたくない主な理由について(全体/複数回答)



住みたくない主な理由（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		交通の便が悪い 72.0%	買物の便が悪い 66.0%	働く場が不十分 56.0%
性別	男性	交通の便が悪い 76.2%	買物の便が悪い 61.9%	働く場が不十分 57.1%
	女性	交通の便が悪い/買物の便が悪い 67.9%	働く場が不十分 57.1%	医療環境が不十分 53.6%
年齢	10代	交通の便が悪い/買物の便が悪い 100.0%	働く場が不十分 83.3%	医療環境が不十分 66.7%
	20代	交通の便が悪い/買物の便が悪い 71.4%	医療環境が不十分/働く場が不十分 42.9%	子育て・教育環境が不十分/文化・スポーツ環境が不十分/都会で生活したい 28.6%
	30代	交通の便が悪い 85.7%	買物の便が悪い/働く場が不十分 71.4%	道路整備状況が悪い/情報通信網が不十分 57.1%
	40代	働く場が不十分 71.4%	交通の便が悪い/医療環境が不十分/買物の便が悪い 42.9%	道路整備状況が悪い/文化・スポーツ環境が不十分 28.6%
	50代	交通の便が悪い 75.0%	買物の便が悪い 66.7%	医療環境が不十分/働く場が不十分 58.3%
	60代	交通の便が悪い 66.7%	医療環境が不十分/買物の便が悪い 55.6%	働く場が不十分 33.3%
	70歳以上	消防・防災・防犯体制が不十分 100.0%	—	—
居住地域	殿	交通の便が悪い/買物の便が悪い 57.1%	医療環境が不十分/産業の活力が不十分/働く場が不十分 42.9%	道路整備状況が悪い/福祉環境が不十分/子育て・教育環境が不十分/文化・スポーツ環境が不十分 28.6%
	須原	交通の便が悪い/働く場が不十分 75.0%	買物の便が悪い 62.5%	医療環境が不十分 50.0%
	長野	交通の便が悪い 75.0%	医療環境が不十分/働く場が不十分 58.3%	買物の便が悪い 50.0%
	野尻	買物の便が悪い 81.0%	交通の便が悪い 71.4%	働く場が不十分 57.1%

2 むらの現状と今後の取組について

(1) むらの現状に関する満足度

問5 大桑村では、第5次大桑村総合計画後期基本計画(令和元年度～令和5年度)に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めています。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(1) あなたは、以下の項目について、現在どの程度満足していますか。



- 満足度が最も高い項目は「上水道の整備状況」。次いで「下水道等の整備状況」、「ごみ処理・リサイクル等の状況」の順。
- 満足度が最も低い項目は「公共交通の状況(鉄道の利便性向上等)」。次いで「観光振興の状況」、「農業振興の状況」の順。

むらの現状について、現在どの程度満足しているかを把握するため、生活基盤分野、教育・文化分野、産業分野、保健・医療・福祉分野、協働・行財政分野の5分野43項目を設定し、項目ごとに「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点(満足度:最高点10点、中間点0点、最低点-10点)を算出しました。

その結果、満足度評価が最も高い項目は「上水道の整備状況」(4.23点)となっており、次いで第2位が「下水道等の整備状況」(3.79点)、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」(2.87点)、以下、「保健サービス提供体制」(2.30点)、「子育て支援体制(学習の場の提供、保育体制の充実等)」(1.78点)と続いています。

一方、満足度評価の低い項目は、第1位が「公共交通の状況(鉄道の利便性向上等)」(-2.32点)、次いで第2位が「観光振興の状況」(-1.25点)、第3位が「農業振興の状況」(-1.02点)、以下、「林業振興の状況」「住宅施策の状況」(-0.75点)と続いています。

全体的にみると、満足度はプラス評価が大部分を占めていますが、一方で産業分野のすべての項目で満足度評価がマイナスとなっています。また、満足度がプラス評価の項目が32項目、マイナス評価の項目が11項目となっています。

これを居住地域別でみると、次のとおりとなっています。

■居住地域別

<p>殿地域（和村地区含む）</p>
<p>満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」（3.67点）、第2位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（2.87点）、第3位が「下水道等の整備状況」（2.57点）となっています。 一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」（-2.60点）、第2位が「観光振興の状況」（-1.82点）、第3位が「農業振興の状況」（-1.71点）となっています。 43項目のうち、プラス評価の項目が29項目、マイナス評価の項目が14項目でした。</p>
<p>須原地域</p>
<p>満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」（4.34点）、第2位が「下水道等の整備状況」（4.24点）、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（2.35点）となっています。 一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」（-2.79点）、第2位が「観光振興の状況」（-1.42点）、第3位が「住宅施策の状況」（-1.15点）となっています。 43項目のうち、プラス評価の項目が32項目、マイナス評価の項目が11項目でした。</p>
<p>長野地域（伊奈川地区含む）</p>
<p>満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」（4.83点）、第2位が「下水道等の整備状況」（4.40点）、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（2.87点）となっています。 一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」（-2.46点）、第2位が「観光振興の状況」（-1.31点）、第3位が「農業振興の状況」（-1.24点）となっています。 43項目のうち、プラス評価の項目が32項目、マイナス評価の項目が11項目でした。</p>
<p>野尻地域</p>
<p>満足度の上位3項目は、第1位が「上水道の整備状況」（3.92点）、第2位が「下水道等の整備状況」（3.51点）、第3位が「ごみ処理・リサイクル等の状況」（3.03点）となっています。 一方、下位3項目は、第1位が「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」（-1.94点）、第2位が「観光振興の状況」（-1.02点）、第3位が「商業振興の状況」（-0.98点）となっています。 43項目のうち、プラス評価の項目が31項目、マイナス評価の項目が12項目でした。</p>

※加重平均値の算出方法

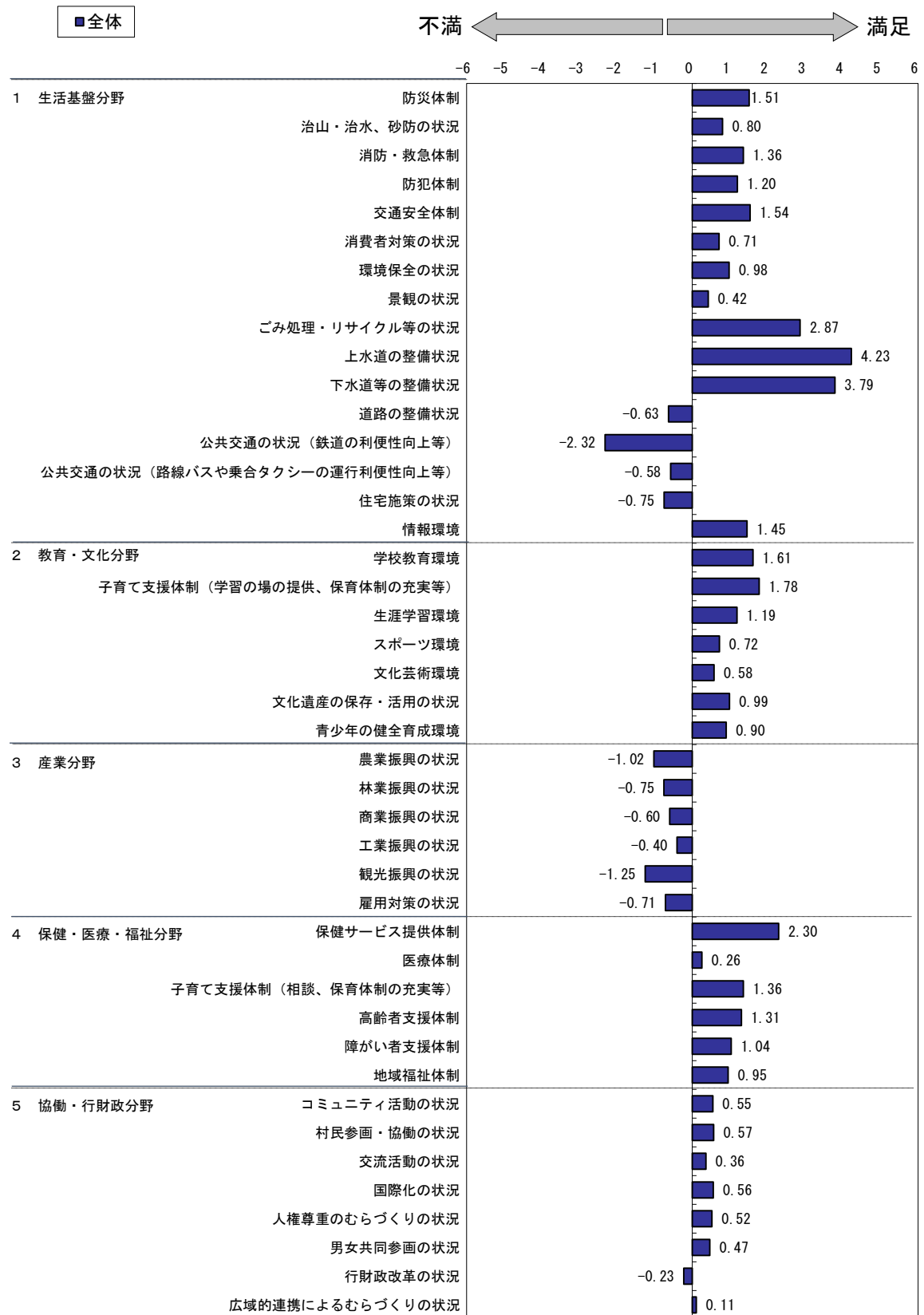
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（満足度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{matrix} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらかといえば不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{matrix}}{\begin{matrix} \text{「満足している」「どちらかとい} \\ \text{えば満足している」「どちら} \\ \text{ともいえない」「どちらかとい} \\ \text{えば不満である」「不満である」} \\ \text{の回答者数} \end{matrix}}$$

この算出方法により、評価点（満足度）は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高いと考えられ、逆に-10点に近くなるほど評価が低いと考えられる。

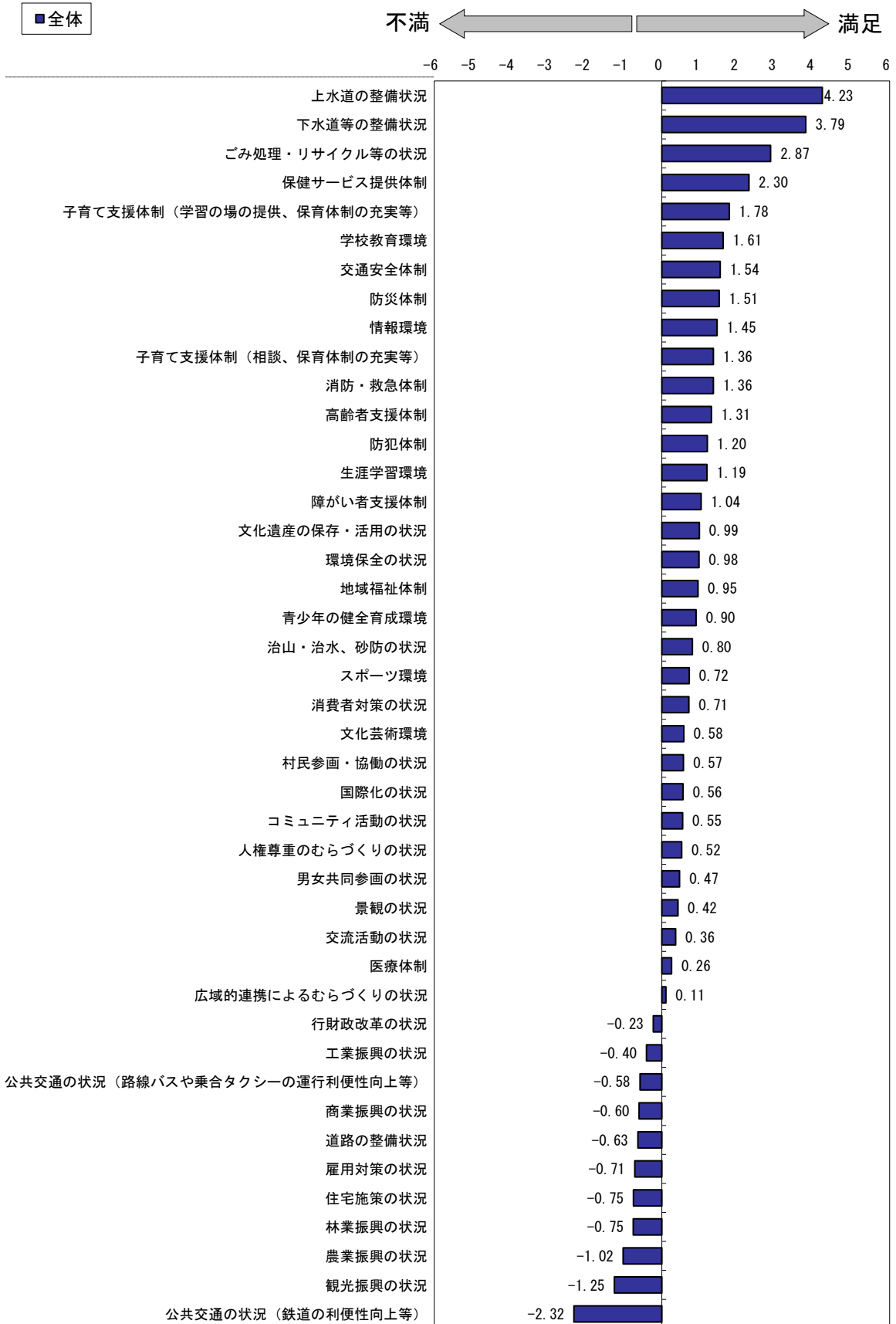
むらの現状に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



むらの現状に関する満足度（全体・評価点順）

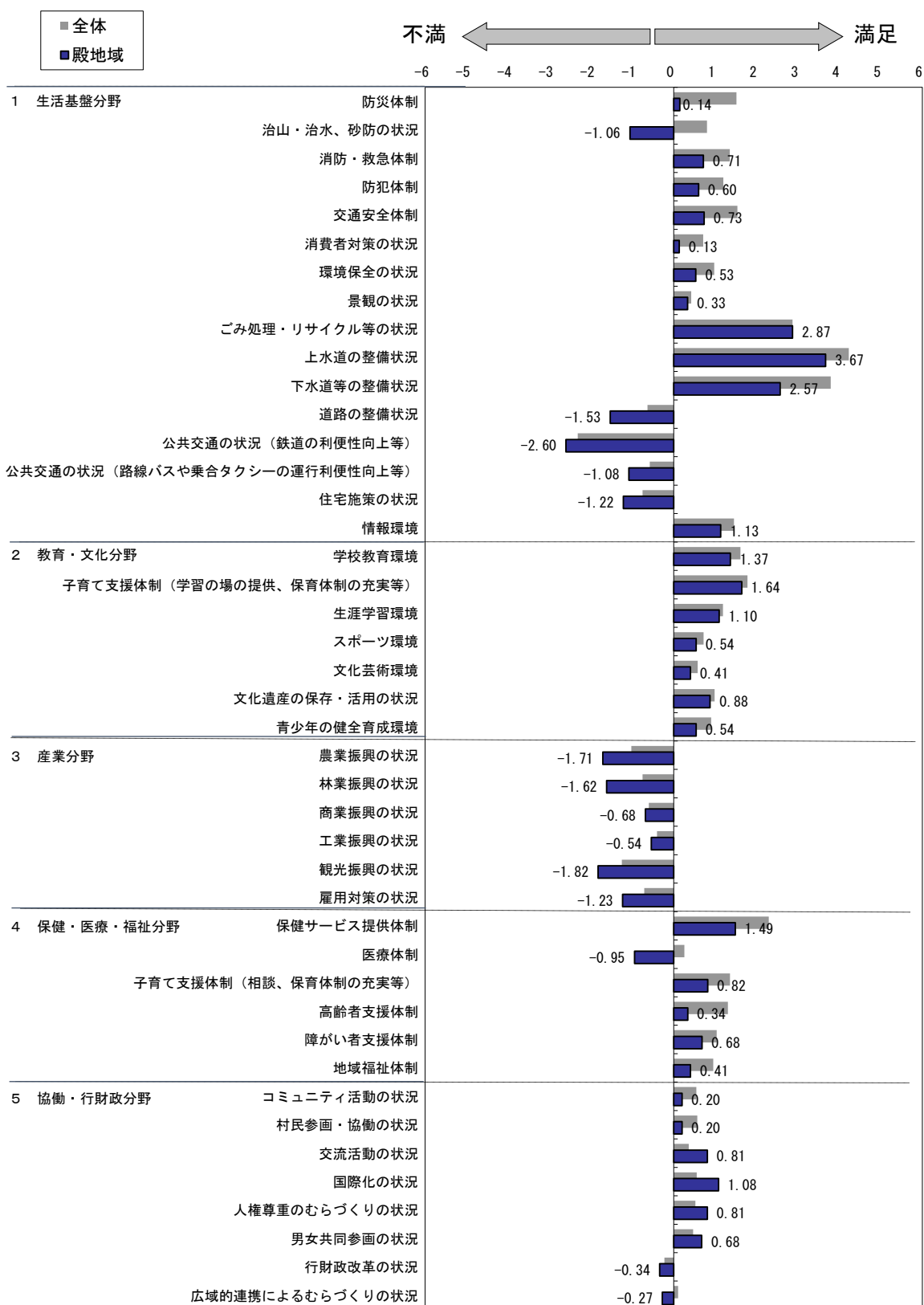
（単位：評価点）



むらの現状に関する満足度（居住地域別）

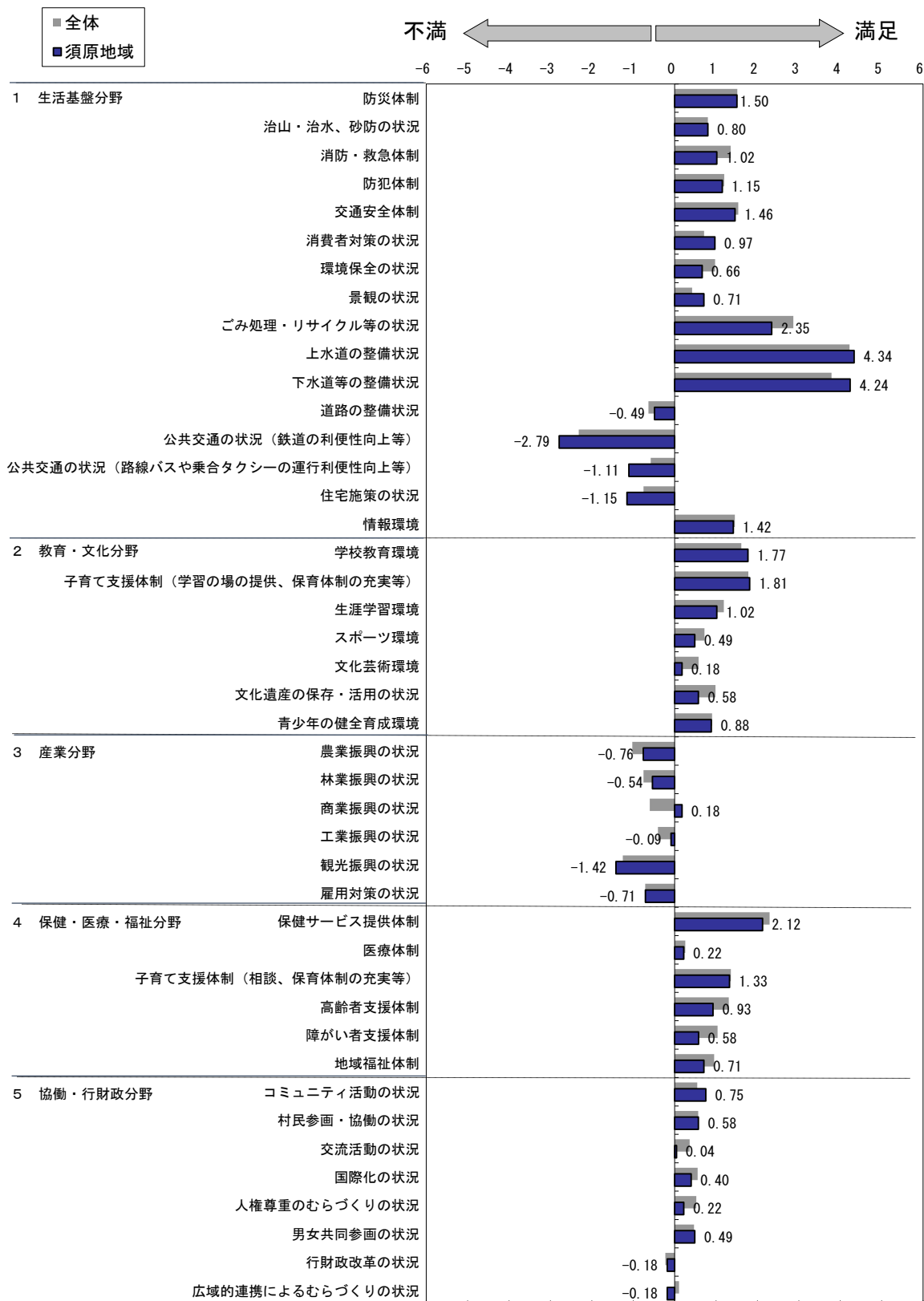
殿地域（和村地区含む）

（単位：評価点）



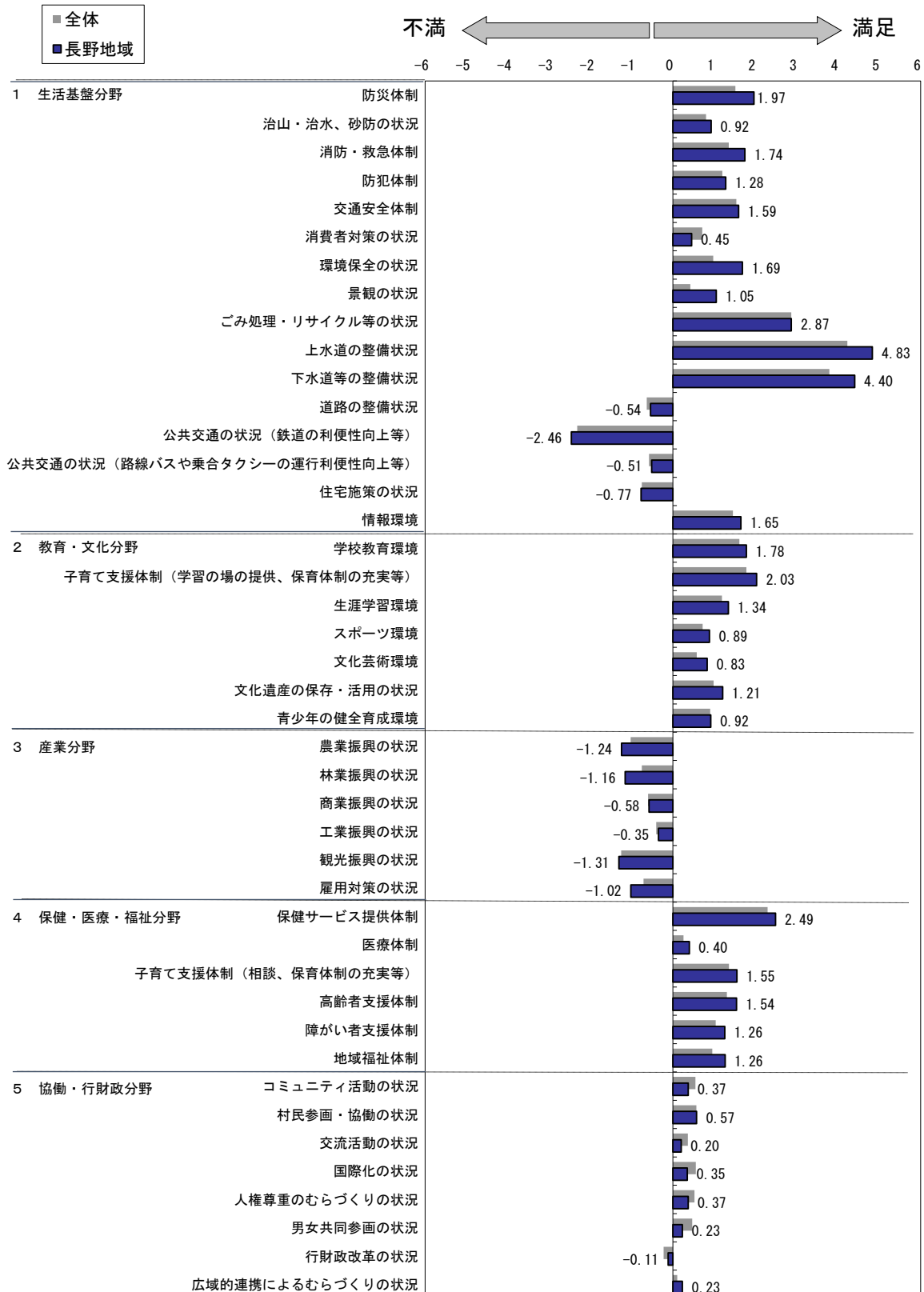
須原地域

(単位：評価点)



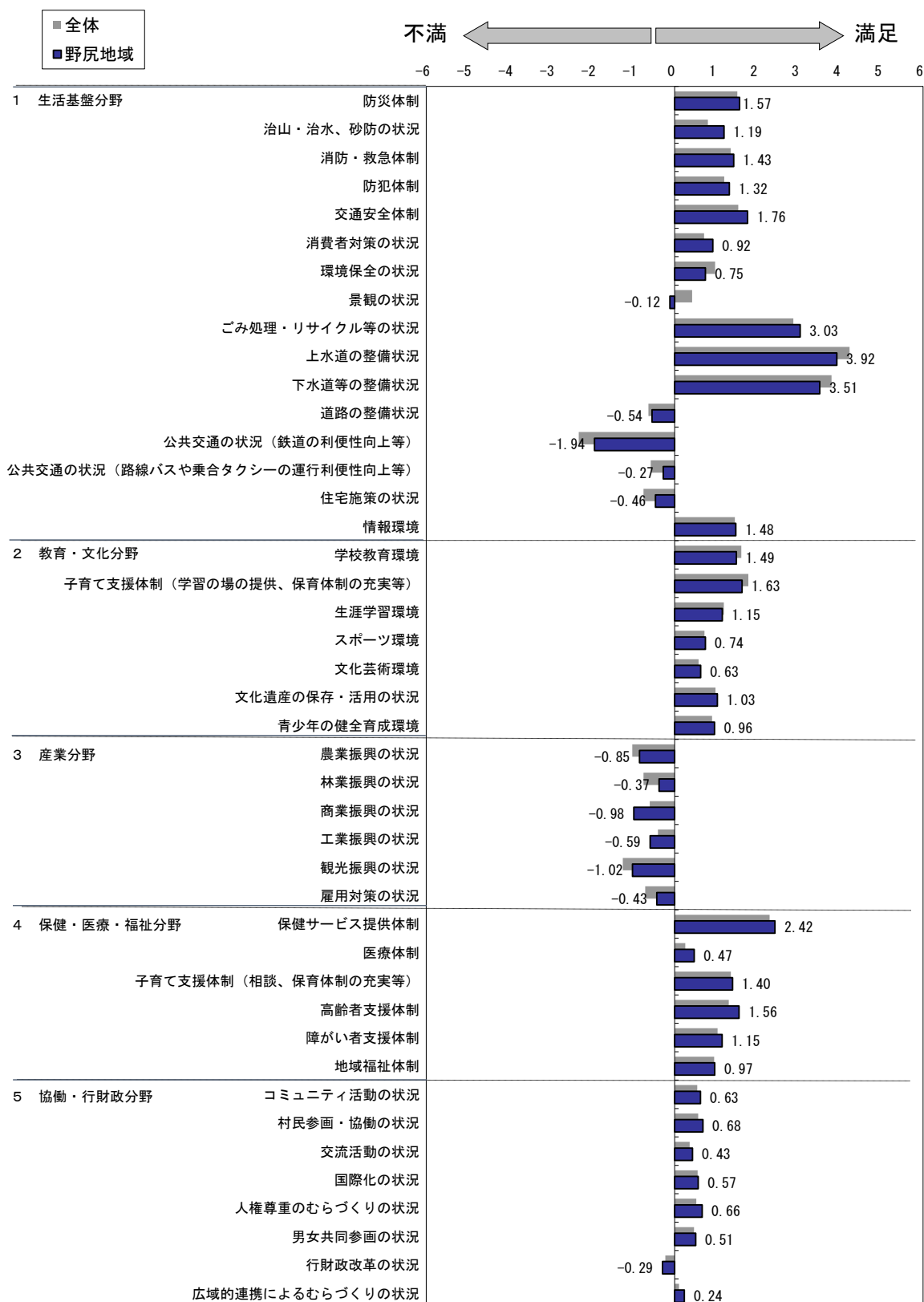
長野地域（伊奈川地区含む）

（単位：評価点）



野尻地域

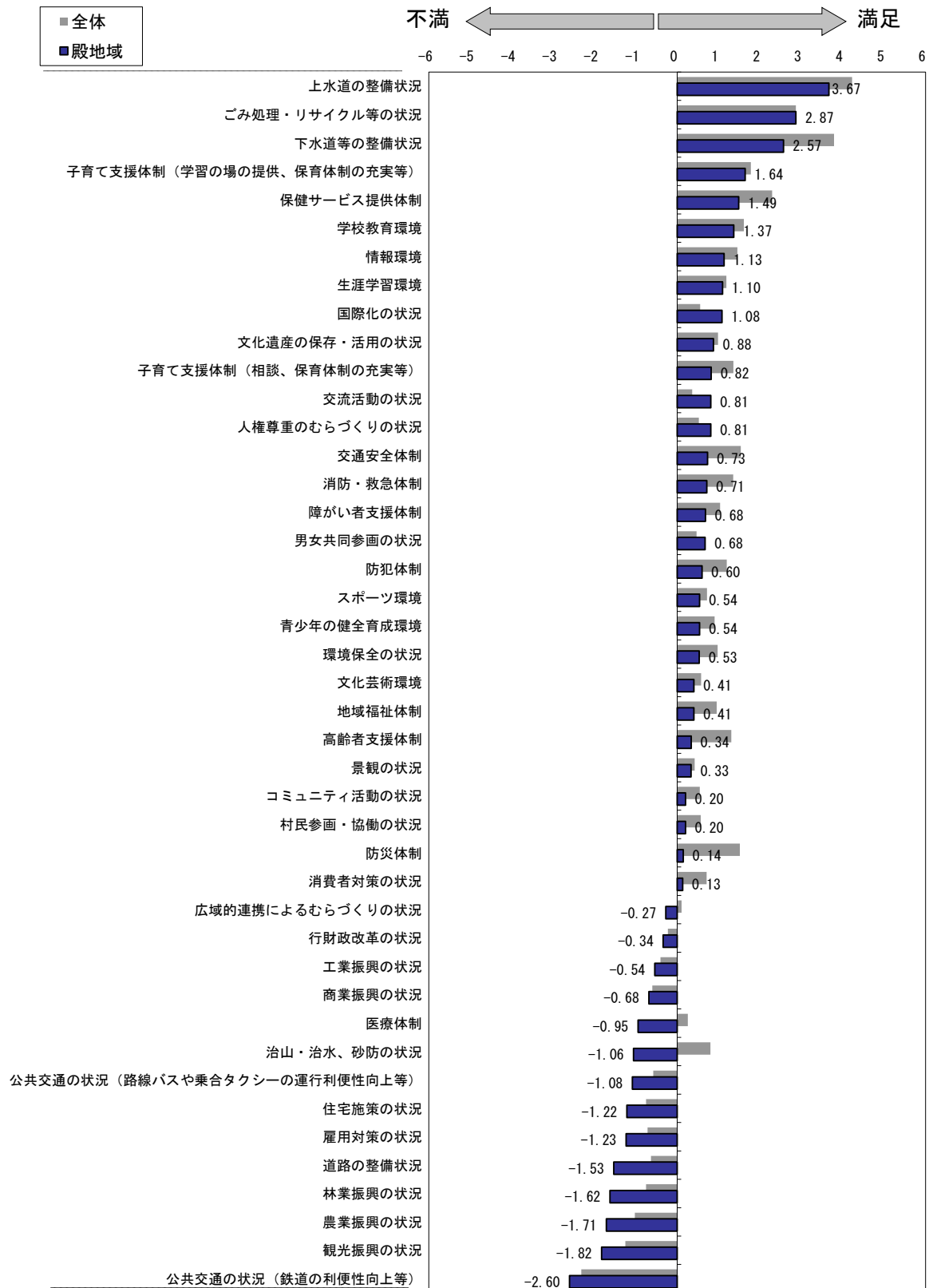
(単位：評価点)



むらの現状に関する満足度（居住地域別・評価点順）

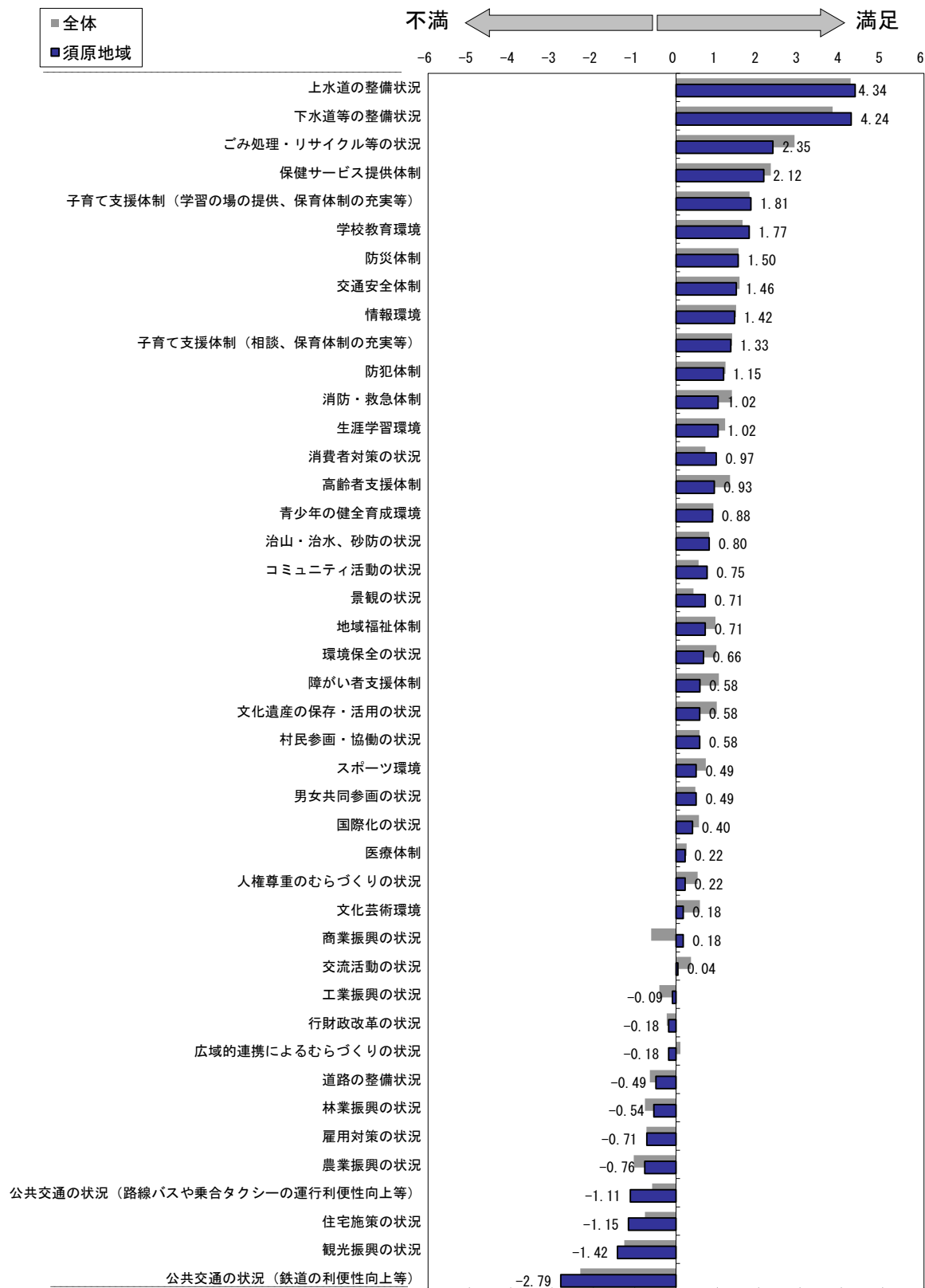
殿地域（和村地区含む）

（単位：評価点）



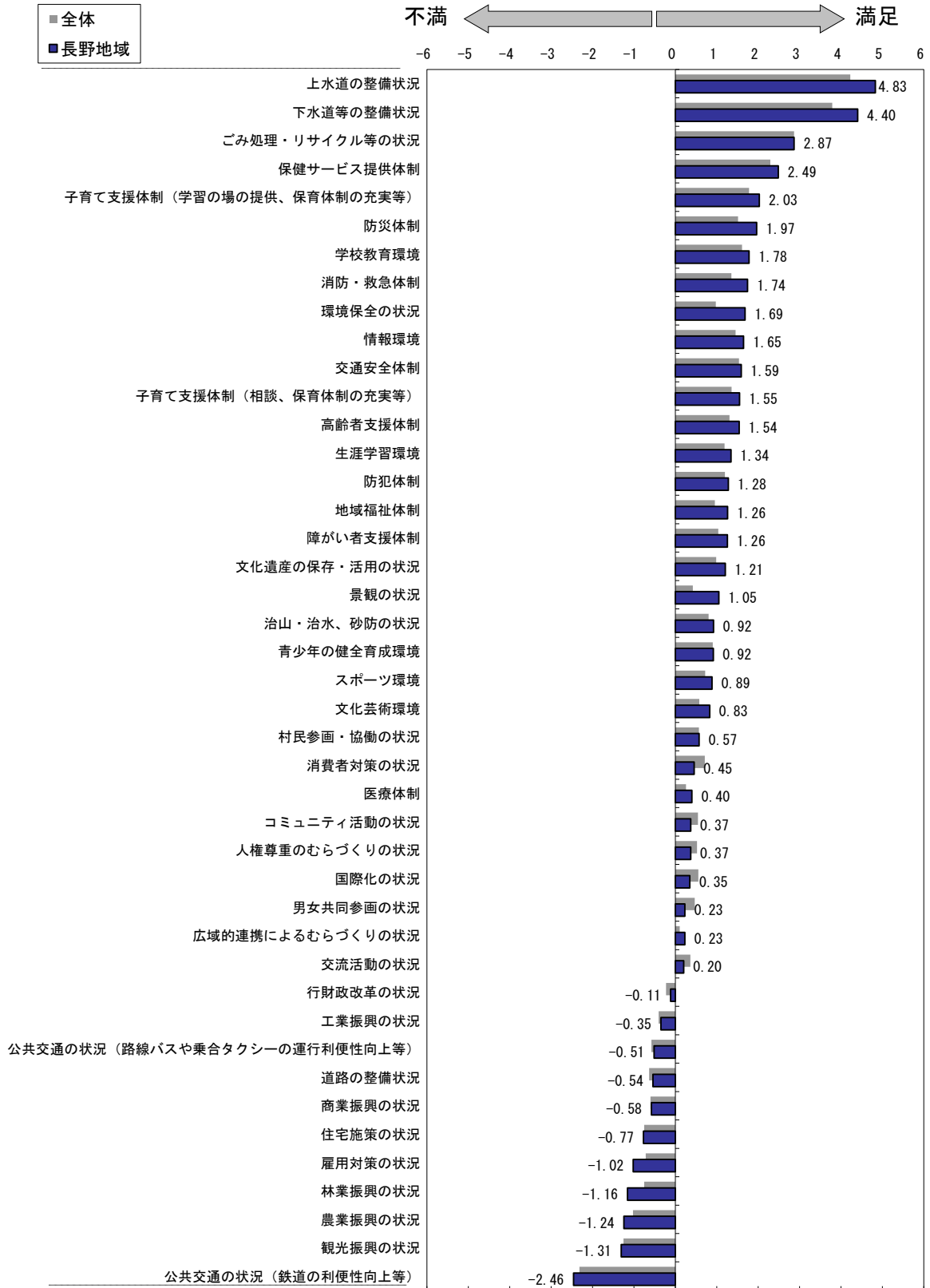
須原地域

(単位：評価点)



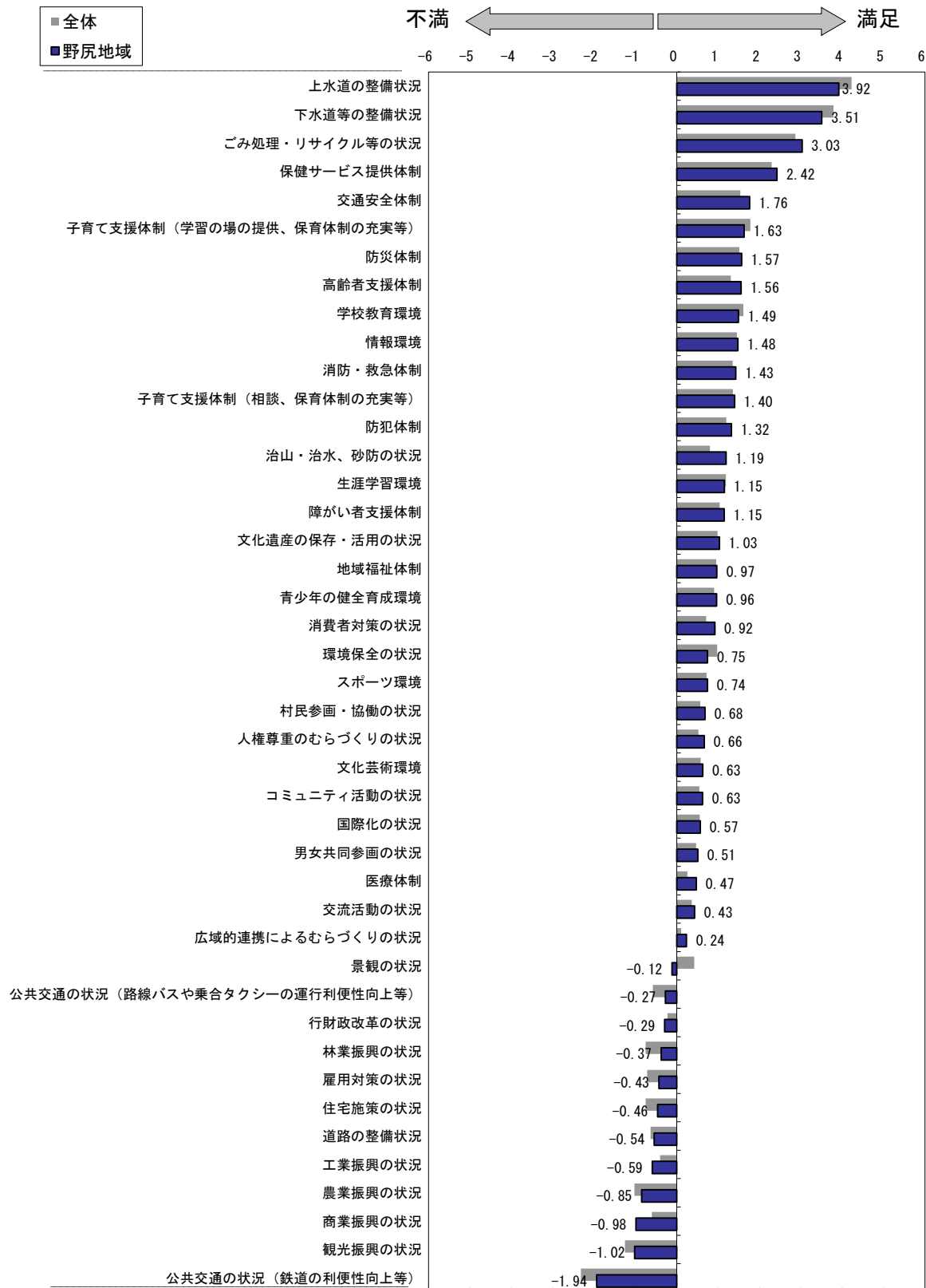
長野地域（伊奈川地区含む）

（単位：評価点）



野尻地域

(単位：評価点)



(2) 今後の取組の重要度

問5 大桑村では、第5次大桑村総合計画後期基本計画（令和元年度～令和5年度）に基づき、各分野にわたる様々な施策を進めています。以下の項目についての現状の満足度と、今後の重要度をおたずねします。

(2) あなたは、以下の項目について、今後どの程度重視していますか。

- 重要度が最も高い項目は「治山・治水、砂防の状況」。次いで「防災体制」、「医療体制」、「消防・救急体制」、「上水道の整備状況」の順。

むらの今後の取組について、今後どの程度重視しているかを把握するため、満足度と同じ5分野43項目について、「重視している」「やや重視している」「どちらともいえない」「あまり重視していない」「重視していない」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点（重要度：最高点10点、中間点0点、最低点-10点）を算出しました。

その結果、重要度評価が最も高い項目は「治山・治水、砂防の状況」（5.70点）となっており、次いで第2位が「防災体制」（5.48点）、第3位が「医療体制」（5.38点）、以下、「消防・救急体制」（5.22点）、「上水道の整備状況」（4.98点）と続いています。

これら上位項目をみると、第3位の「医療体制」は保健・医療・福祉分野となっていますが、そのほかは主に生活基盤分野が上位に挙げられており、特に防災関係の項目が多くなっています。

また、これを居住地域別でみると、次のとおりとなっています。

■居住地域別

殿地域（和村地区含む）
重要度の上位3項目は、第1位が「防災体制」（6.06点）、第2位が「治山・治水、砂防の状況」（5.97点）、第3位が「消防・救急体制」（5.77点）となっています。
須原地域
重要度の上位3項目は、第1位が「防災体制」（5.67点）、第2位が「治山・治水、砂防の状況」「医療体制」（5.49点）となっています。
長野地域（伊奈川地区含む）
重要度の上位3項目は、第1位が「治山・治水、砂防の状況」（5.71点）、第2位が「医療体制」（5.60点）、第3位が「上水道の整備状況」（5.20点）となっています。
野尻地域
重要度の上位3項目は、第1位が「治山・治水、砂防の状況」（5.67点）、第2位が「防災体制」（5.49点）、第3位が「医療体制」（5.30点）となっています。

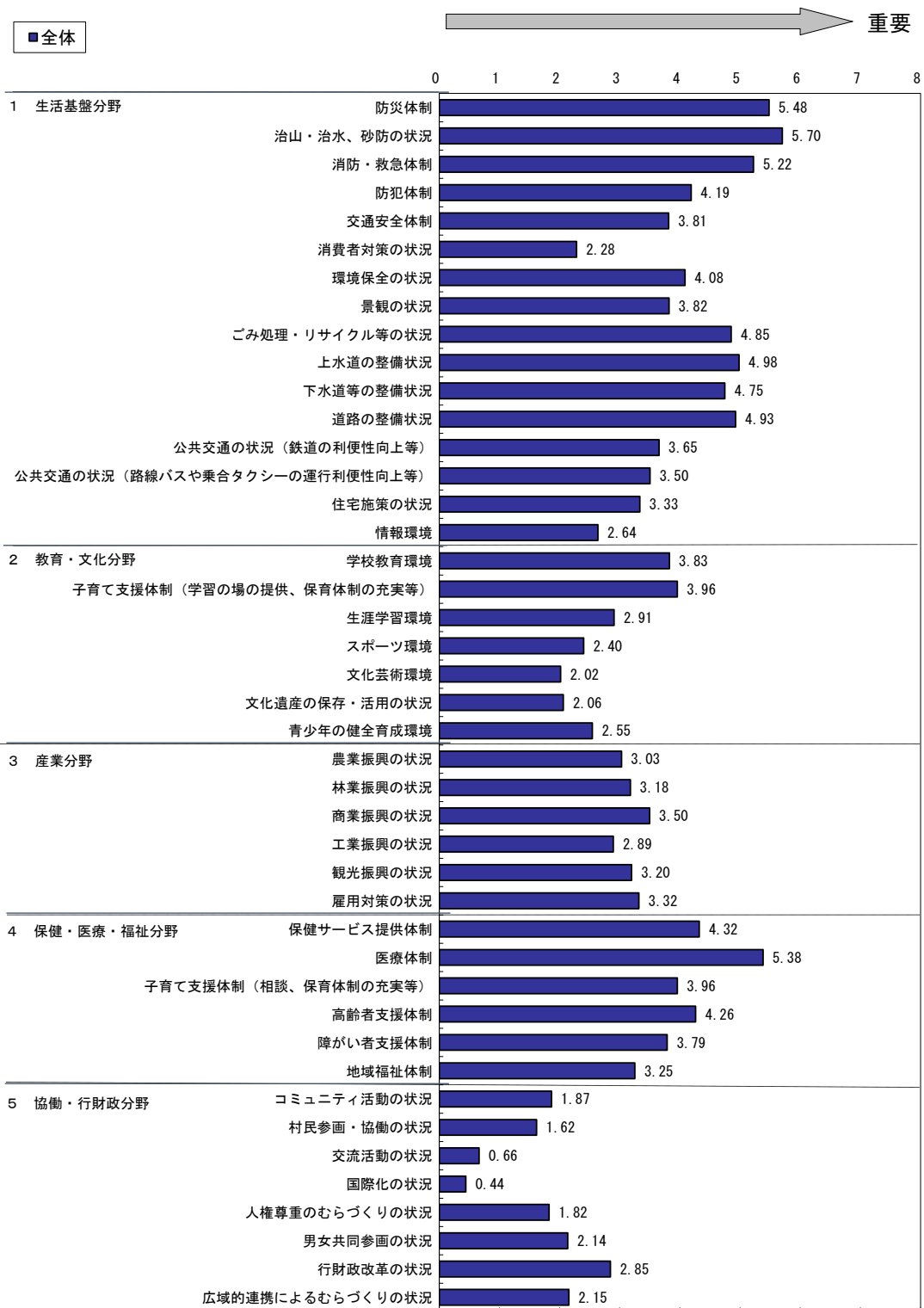
※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点（重要度）を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left(\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{点} \end{array} \right)}{\left(\begin{array}{l} \text{「重視している」「やや重視し} \\ \text{ている」「どちらともいえない」} \\ \text{「あまり重視していない」「重} \\ \text{視していない」の回答者数} \end{array} \right)}$$

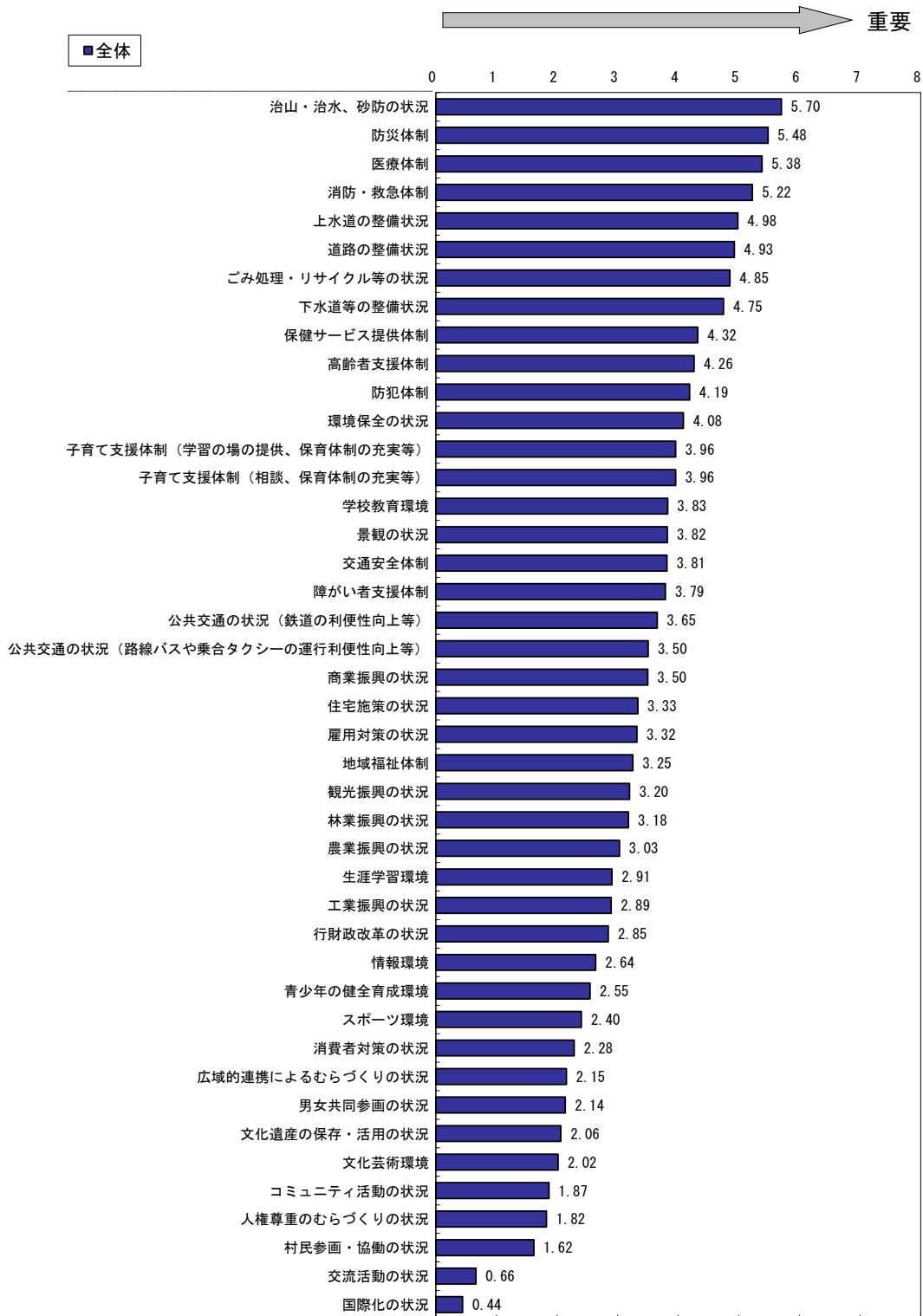
今後の取組の重要度（全体）

（単位：評価点）



今後の取組の重要度（全体・評価点順）

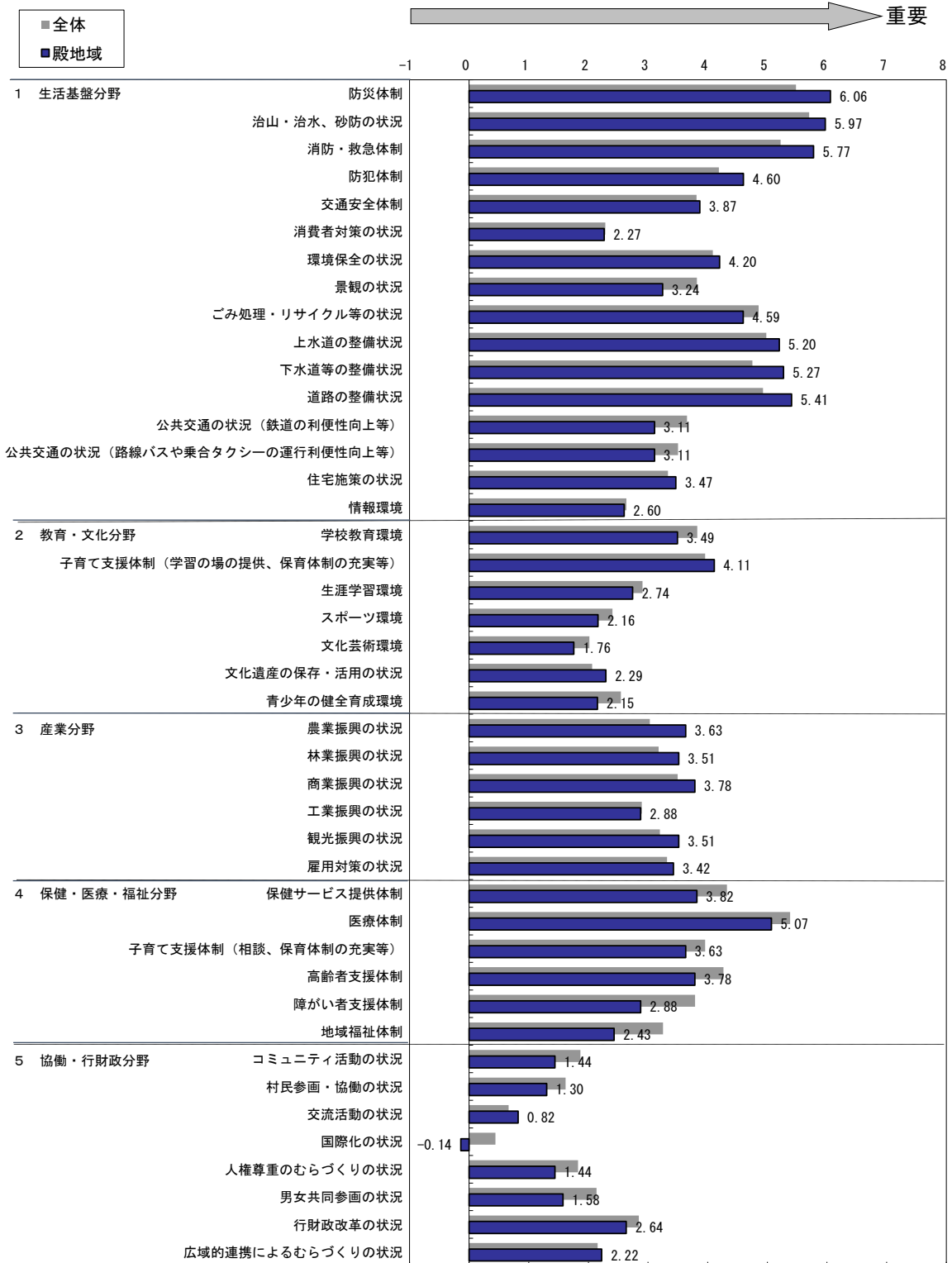
（単位：評価点）



今後の取組の重要度（居住地域別）

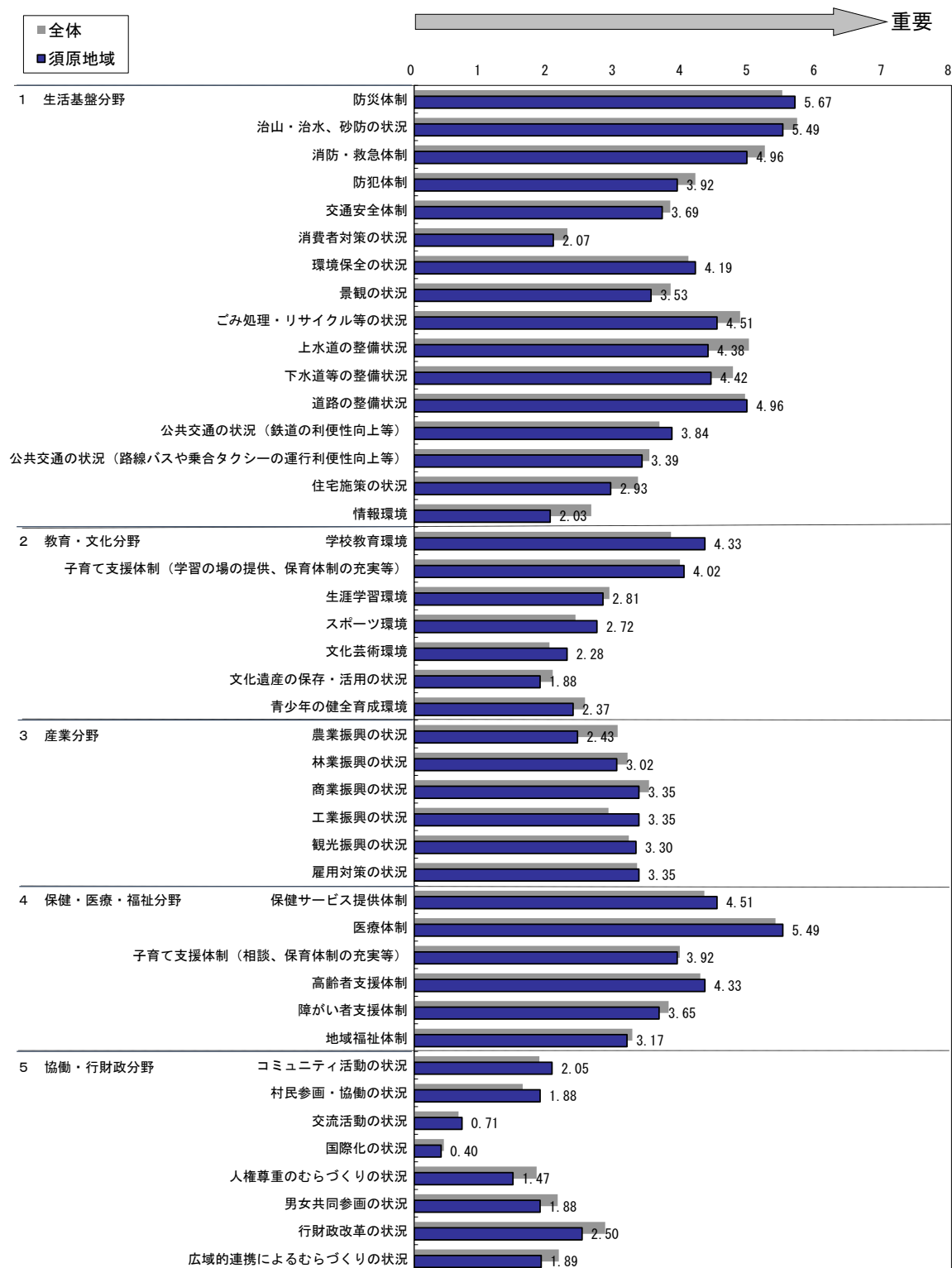
殿地域（和村地区含む）

（単位：評価点）



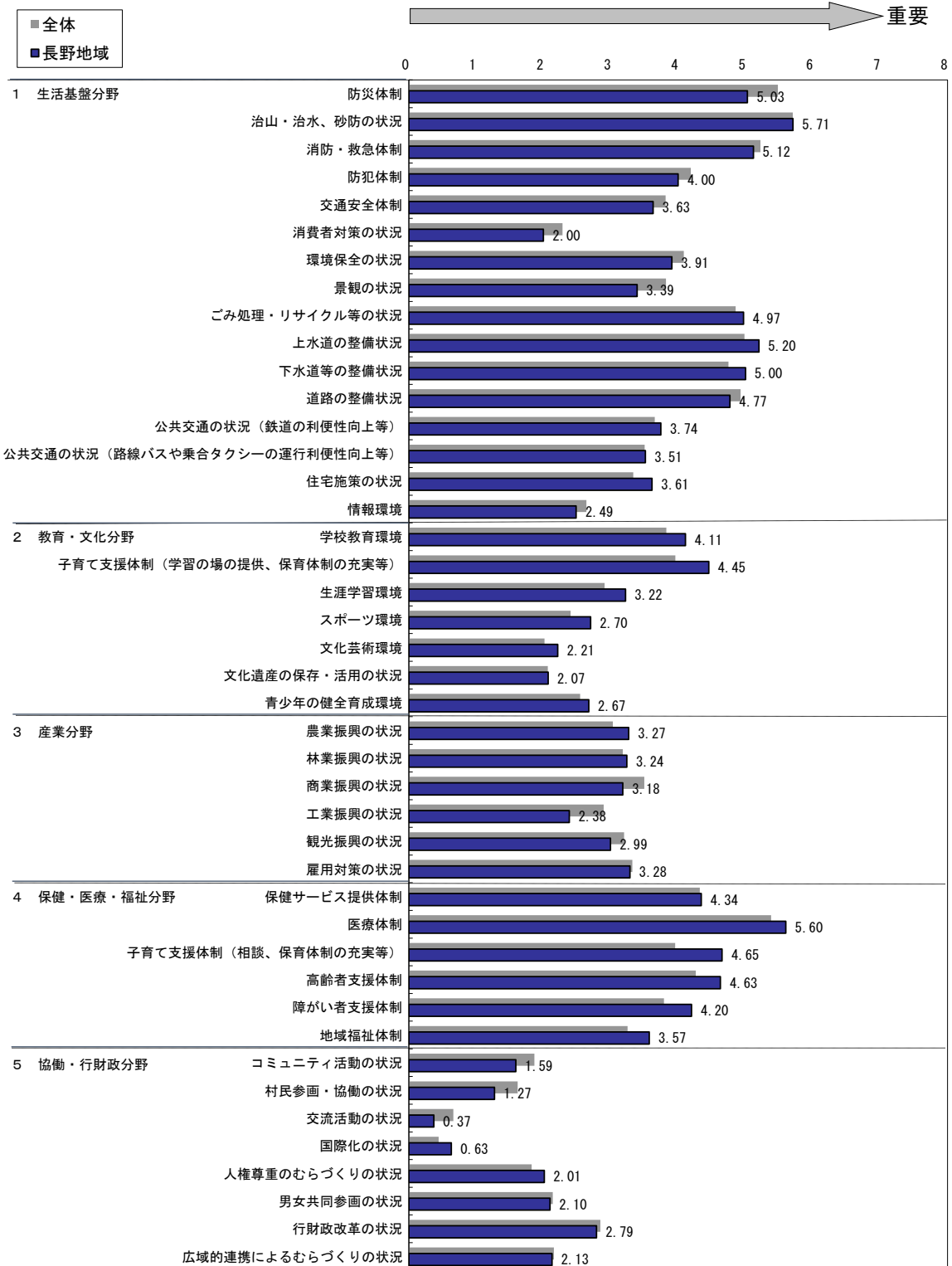
須原地域

(単位：評価点)



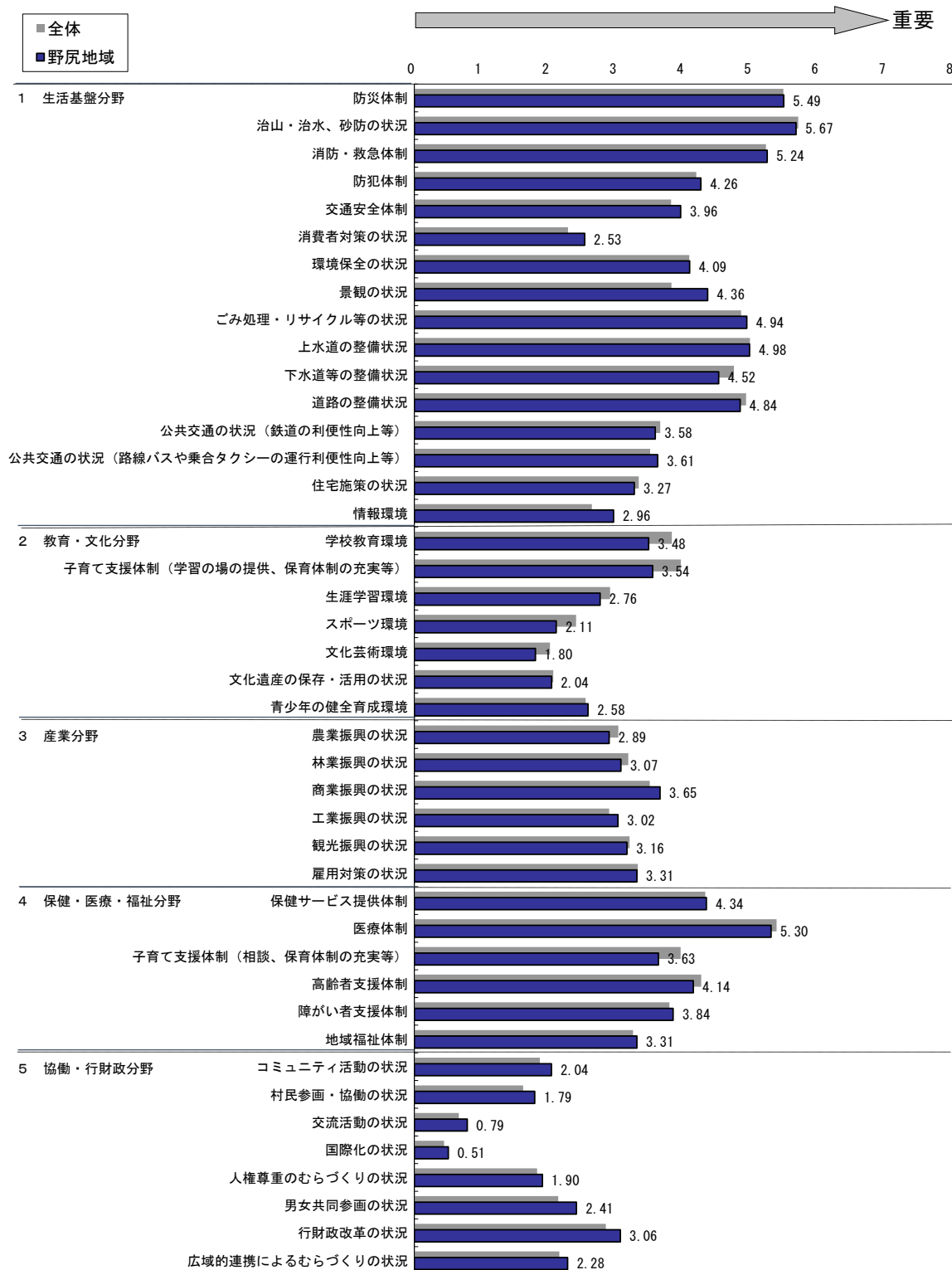
長野地域（伊奈川地区含む）

（単位：評価点）



野尻地域

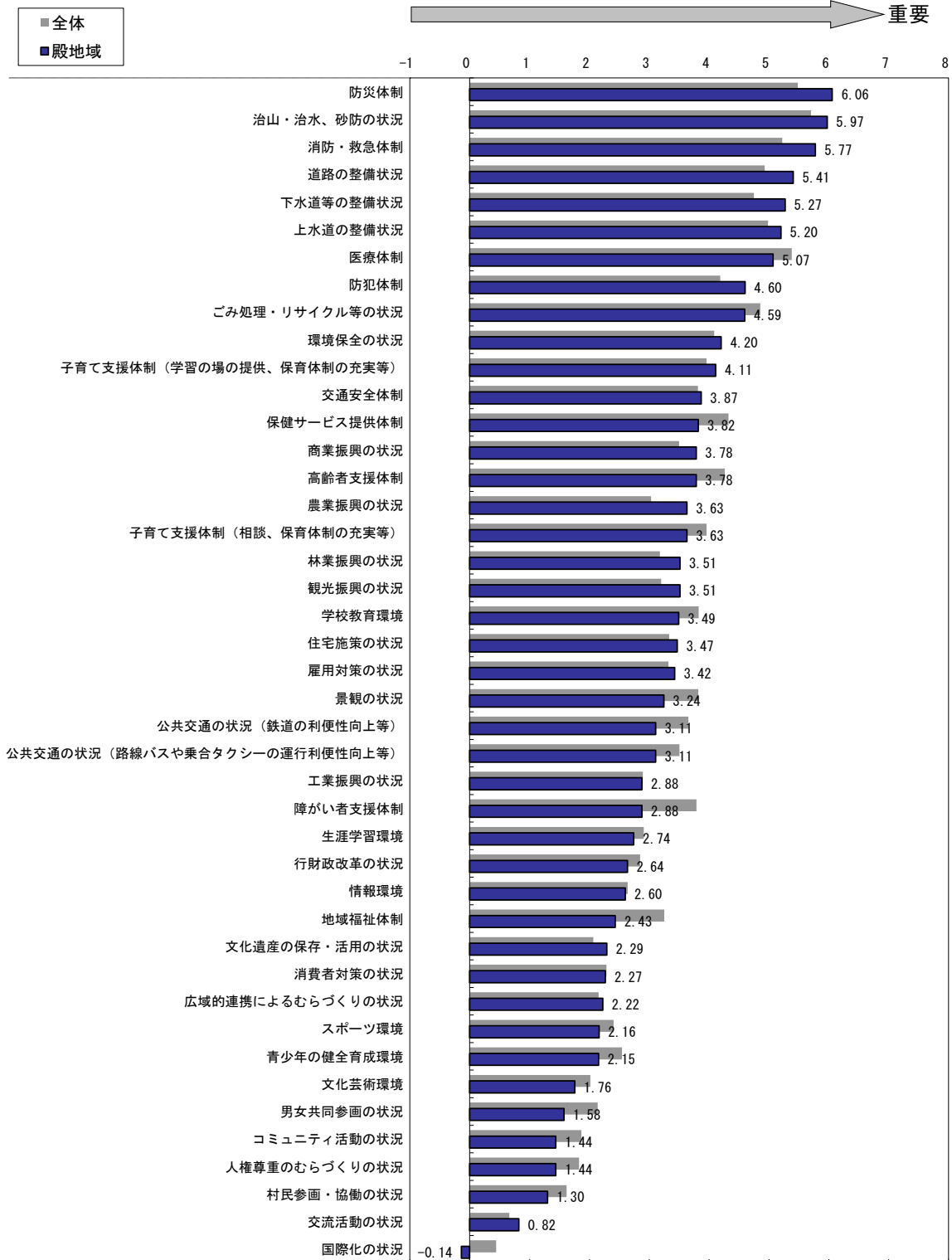
(単位：評価点)



今後の取組の重要度（居住地域別・評価点順）

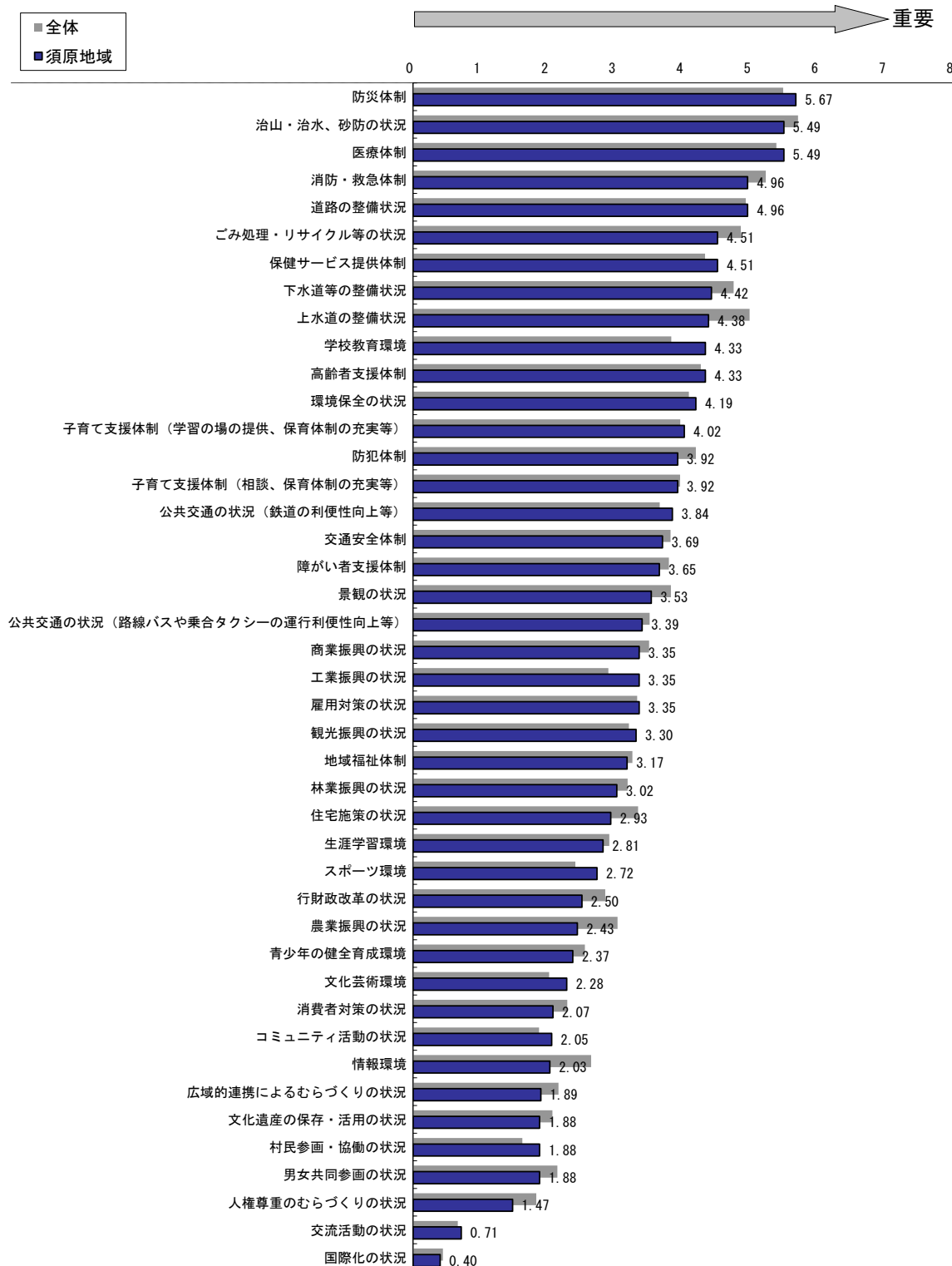
殿地域（和村地区含む）

（単位：評価点）



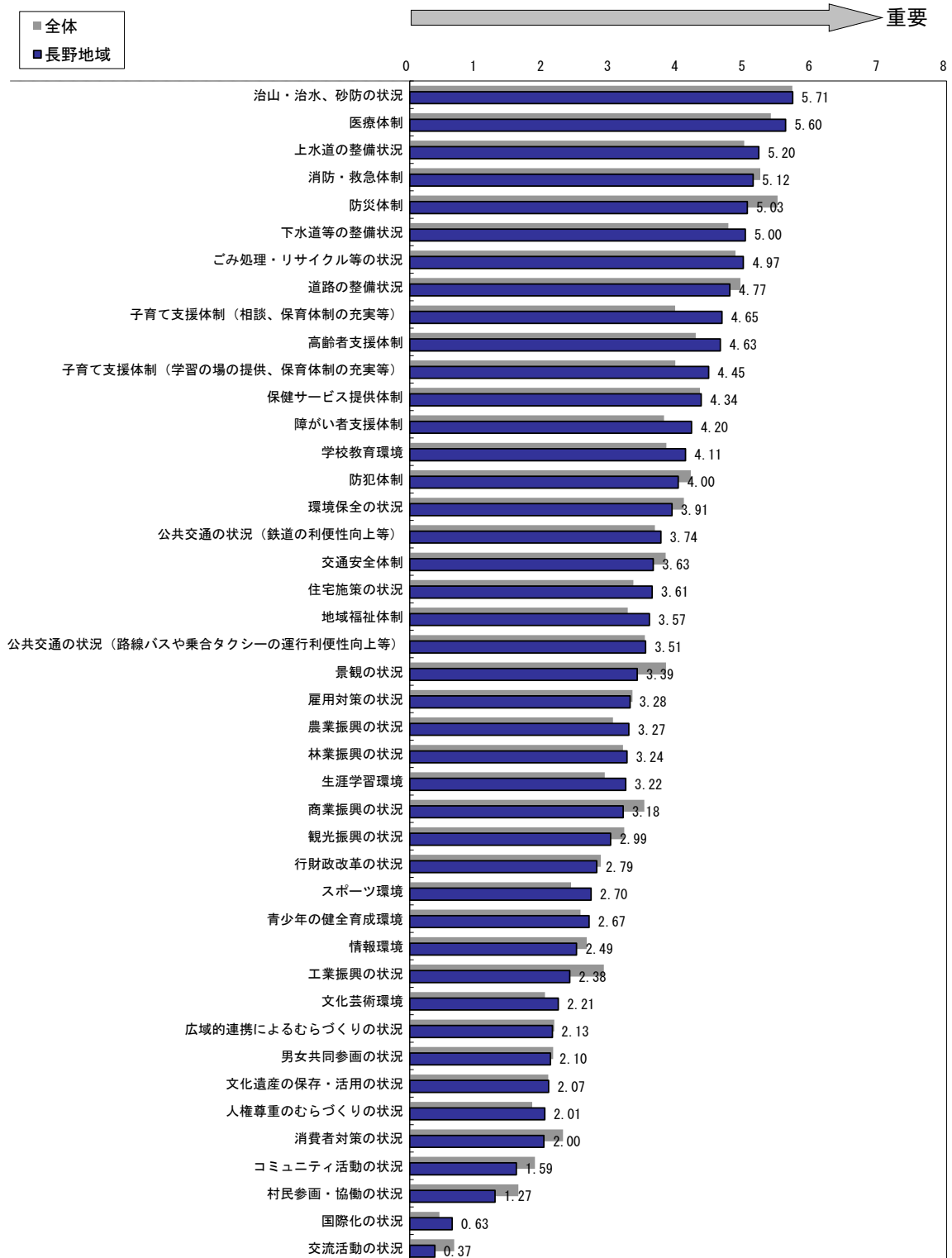
須原地域

(単位：評価点)



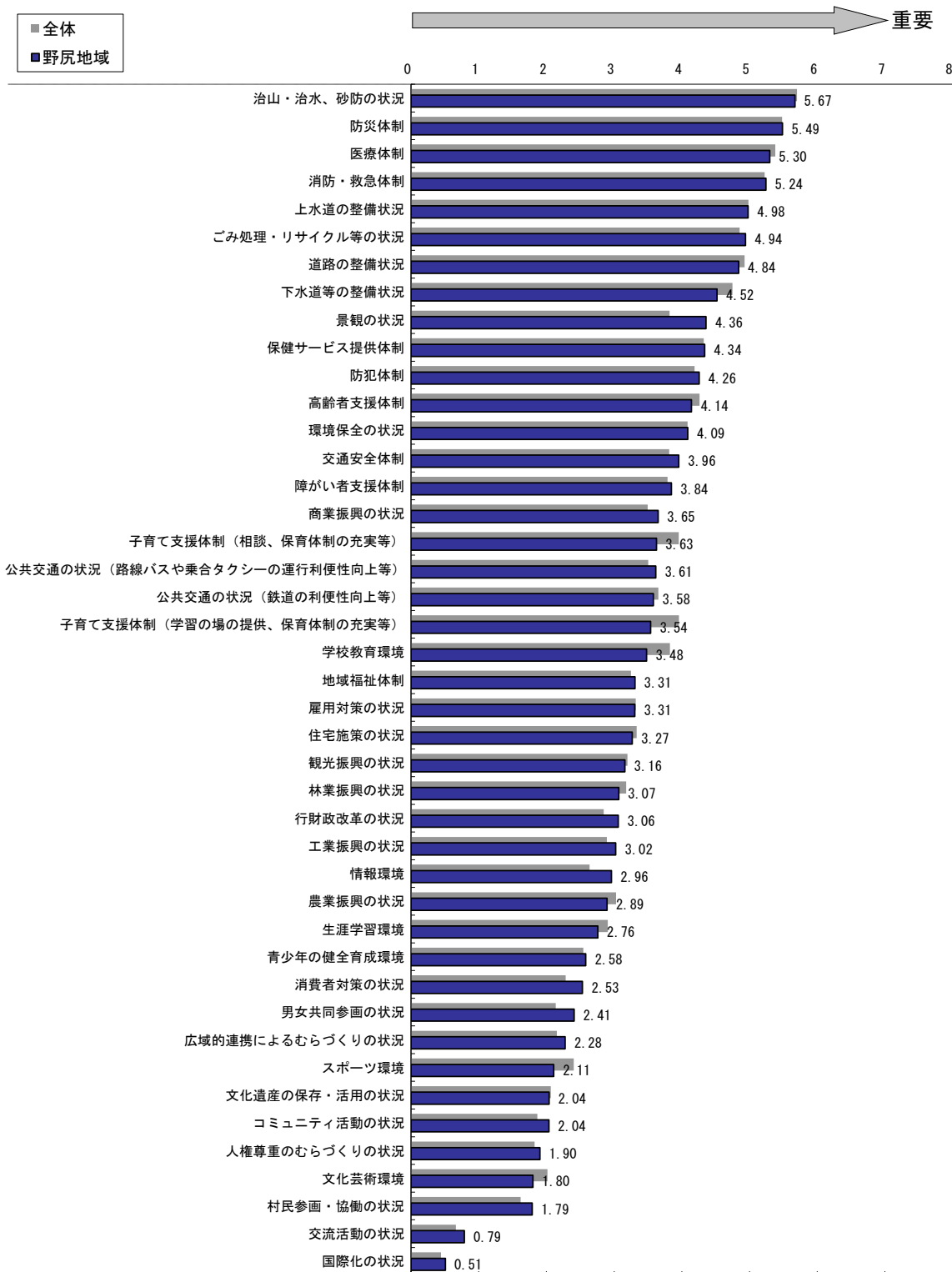
長野地域（伊奈川地区含む）

（単位：評価点）



野尻地域

(単位：評価点)



(3) 満足度と重要度の相関（優先度）

- 満足度と重要度の相関からみた優先度が最も高い項目は「道路の整備状況」。次いで「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」、「医療体制」、「治山・治水、砂防の状況」、「観光振興の状況」の順。

これまでみてきた満足度と重要度の分析結果を踏まえ、今後優先的に取り組むべき施策項目を抽出するため、満足度評価と重要度評価を相関させ、優先度を算出しました。

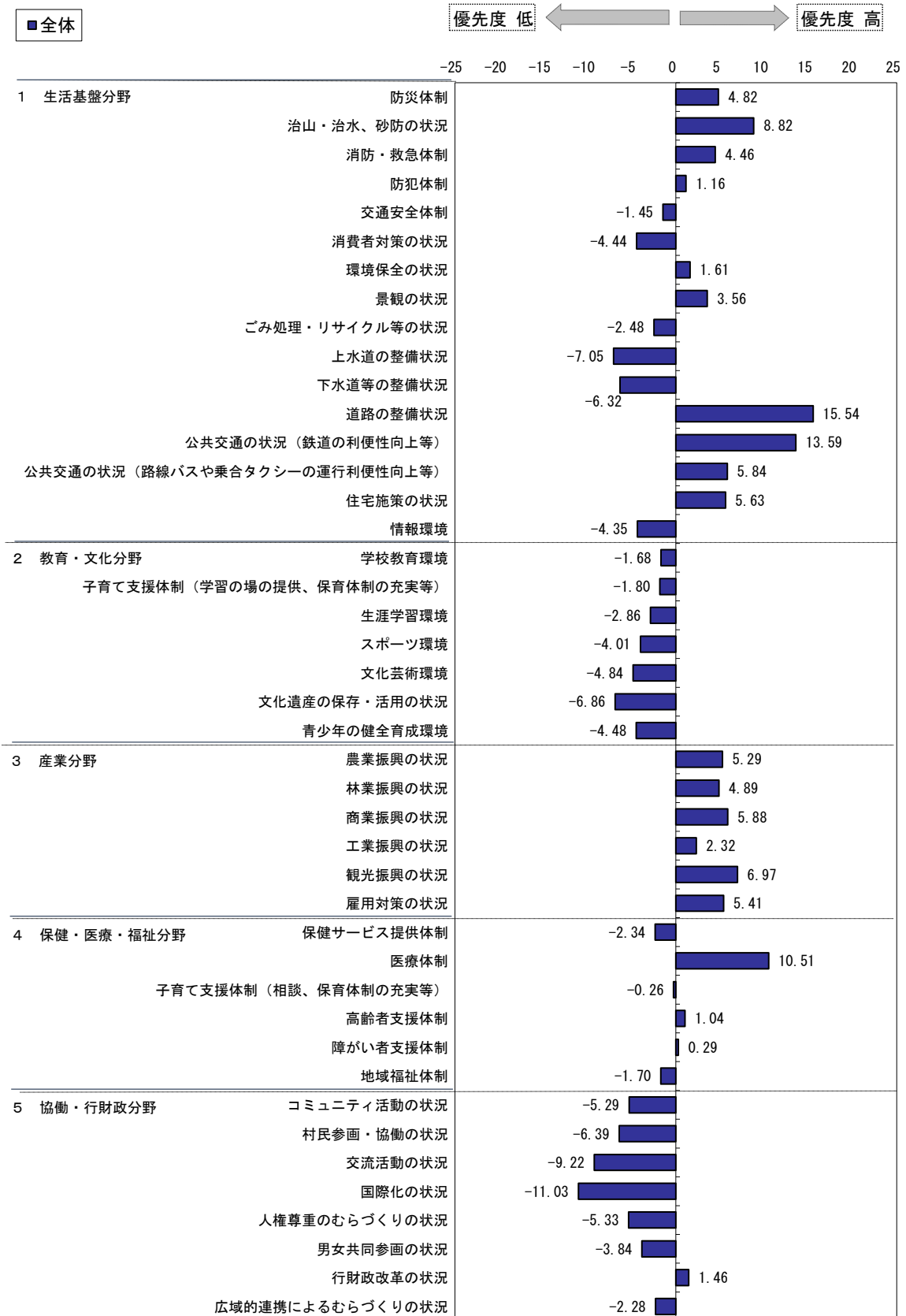
この結果をみると、優先度は、「道路の整備状況」（15.54点）が第1位となっており、次いで「公共交通の状況（鉄道の利便性向上等）」（13.59点）、「医療体制」（10.51点）、「治山・治水、砂防の状況」（8.82点）、「観光振興の状況」（6.97点）と続いています。

※優先度の算出方法

- ① 満足度偏差値・重要度偏差値を算出する。
例：「道路の整備状況」→満足度偏差値 30.0…、重要度偏差値 58.3…
- ② ①で算出した偏差値から平均（中心）からの距離を算出する。
例：「道路の整備状況」→ $21.64\dots = \sqrt{(30.0-50)^2 + (58.3-50)^2}$
- ③ 平均（中心）から「満足度評価最低・重要度評価最高」への線と平均（中心）から各項目への線の角度を求める。
例：「道路の整備状況」→22.57度
- ④ ③で求められた角度より修正指数を算出する（指数は下記のとおり設定し、左上隅の「満足度評価最低・重要度評価最高」に近づくほど得点が高くなる）。
例：「道路の整備状況」→ $0.7492 = (90-22.57) \times (1 \div 90)$
- ⑤ ②で算出された平均（中心）からの距離と③で算出された修正指数から優先度を算出する。
例：「道路の整備状況」→ $16.22 = 21.64\dots \times 0.7492\dots$

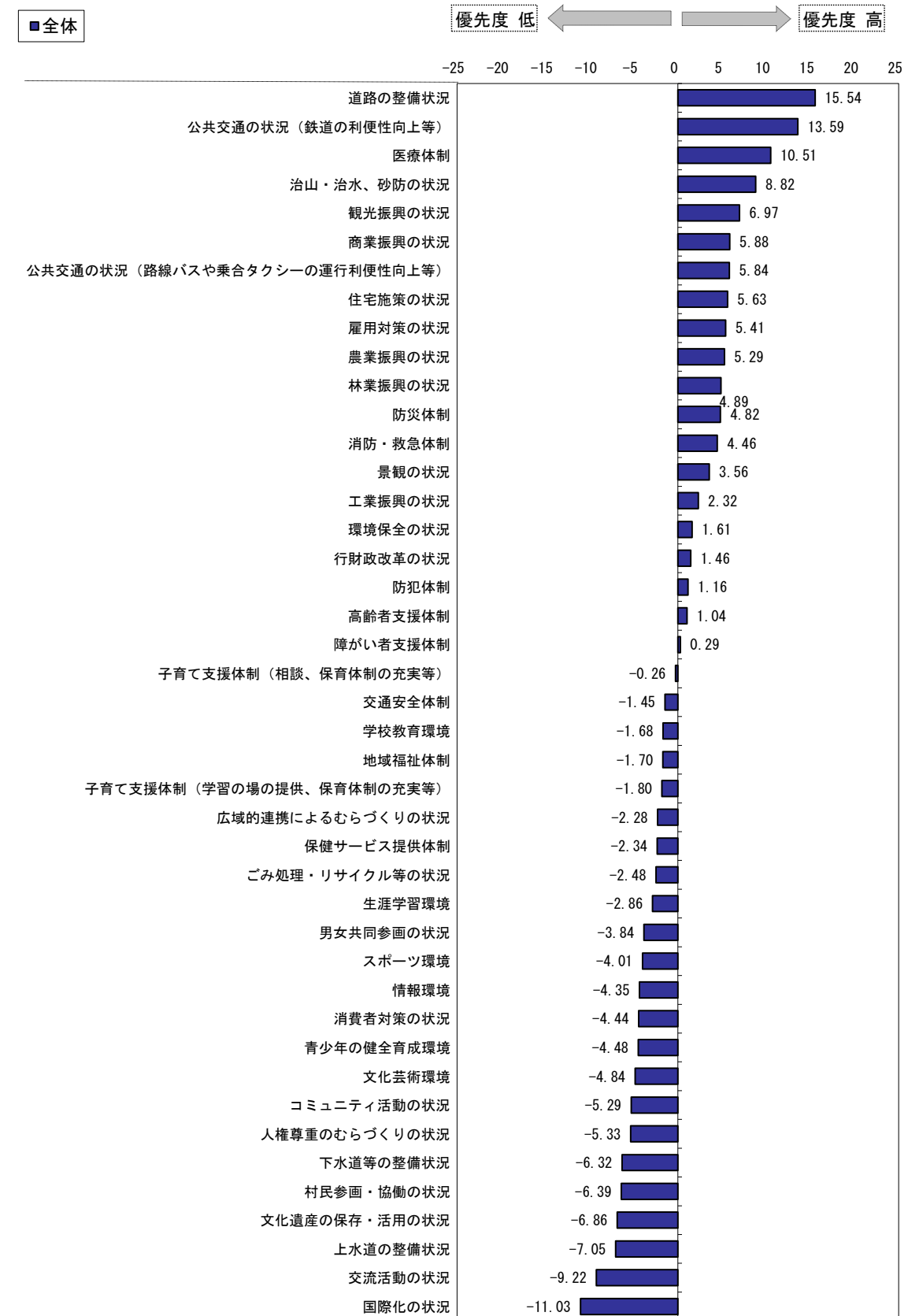
満足度と重要度の相関（全体／優先度）

（単位：評価点）



満足度と重要度の相関（全体／優先度・評価点順）

（単位：評価点）



(4) 今後のむらづくりの特色について

問6 あなたは、今後のむらづくりにおいて、大桑村をどのような特色のあるむらにすべきだと考えますか。【複数回答】



- 「健康・福祉のむら」が第1位。次いで「快適住環境のむら」、「子育て・教育のむら」、「環境保全のむら」の順。

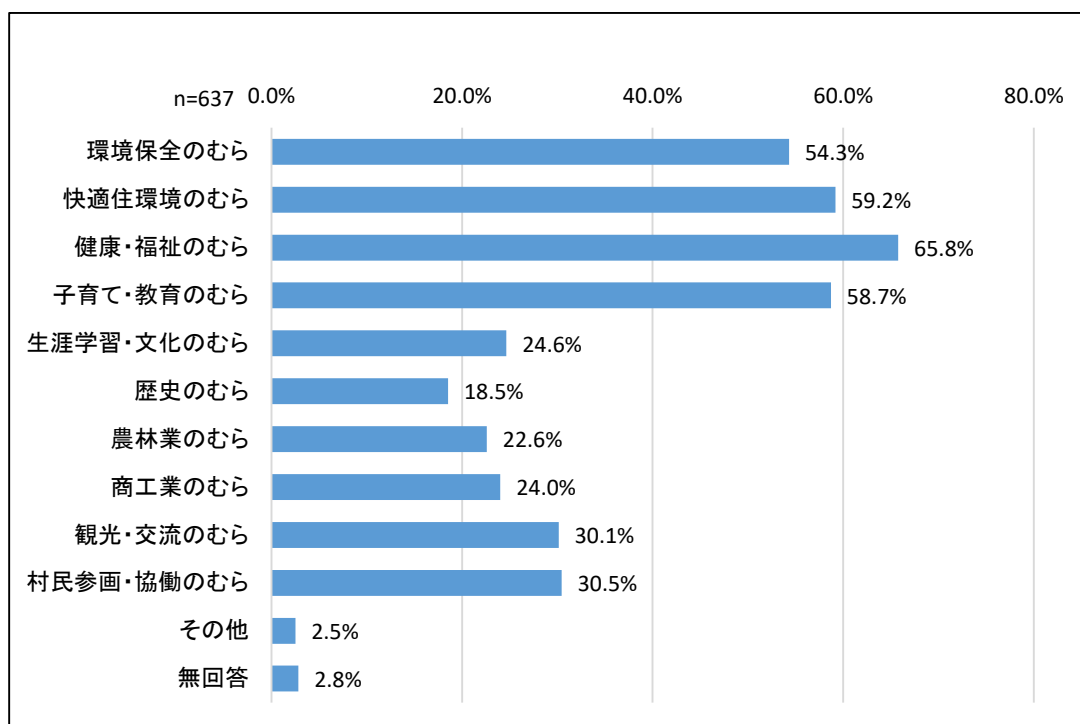
今後のむらづくりの特色については、「健康・福祉のむら」(65.8%)が第1位に挙げられ、次いで「快適住環境のむら」(59.2%)、「子育て・教育のむら」(58.7%)、「環境保全のむら」(54.3%)が続いています。

属性別でみると、性別では、男性・女性とも「健康・福祉のむら」(61.4%・69.6%)が第1位となっています。

年齢別で第1位の回答をみると、10代では「環境保全のむら」(64.5%)、20代・30代・40代では「子育て・教育のむら」(61.9%・76.1%・67.4%)、50代・60代・70歳以上では「健康・福祉のむら」(70.1%・68.2%・75.3%)となっており、年代によってむらづくりのニーズに違いがみられます。

居住地域別では、殿(和村地区含む)・須原・野尻では「健康・福祉のむら」(64.5%・67.5%・65.4%)が第1位となっていますが、長野(伊奈川地区含む)では「子育て・教育のむら」(68.7%)が第1位となっています。

今後のむらづくりの特色について(全体/複数回答)



今後のむらづくりの特色について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		健康・福祉のむら 65.8%	快適住環境のむら 59.2%	子育て・教育のむら 58.7%
性別	男性	健康・福祉のむら 61.4%	快適住環境のむら 58.0%	子育て・教育のむら 55.3%
	女性	健康・福祉のむら 69.6%	子育て・教育のむら 61.7%	快適住環境のむら 60.5%
年齢	10代	環境保全のむら 64.5%	子育て・教育のむら 61.3%	健康・福祉のむら 54.8%
	20代	子育て・教育のむら 61.9%	快適住環境のむら 57.1%	子育て・教育のむら 54.8%
	30代	子育て・教育のむら 76.1%	快適住環境のむら 63.4%	健康・福祉のむら 62.0%
	40代	子育て・教育のむら 67.4%	快適住環境のむら 59.3%	健康・福祉のむら 58.1%
	50代	健康・福祉のむら 70.1%	環境保全のむら/快適住環境のむら 57.8%	子育て・教育のむら 57.1%
	60代	健康・福祉のむら 68.2%	快適住環境のむら 63.6%	環境保全のむら 52.3%
	70歳以上	健康・福祉のむら 75.3%	環境保全のむら 61.6%	子育て・教育のむら/村民参画・協働のむら 58.9%
居住地域	殿	健康・福祉のむら 64.5%	環境保全のむら 60.5%	快適住環境のむら 56.6%
	須原	健康・福祉のむら 67.5%	快適住環境のむら 65.8%	子育て・教育のむら 59.6%
	長野	子育て・教育のむら 68.7%	健康・福祉のむら 66.5%	快適住環境のむら 63.1%
	野尻	健康・福祉のむら 65.4%	環境保全のむら 57.0%	快適住環境のむら 55.1%

3 防災体制について

(1) 今後、力を入れるべき防災対策について

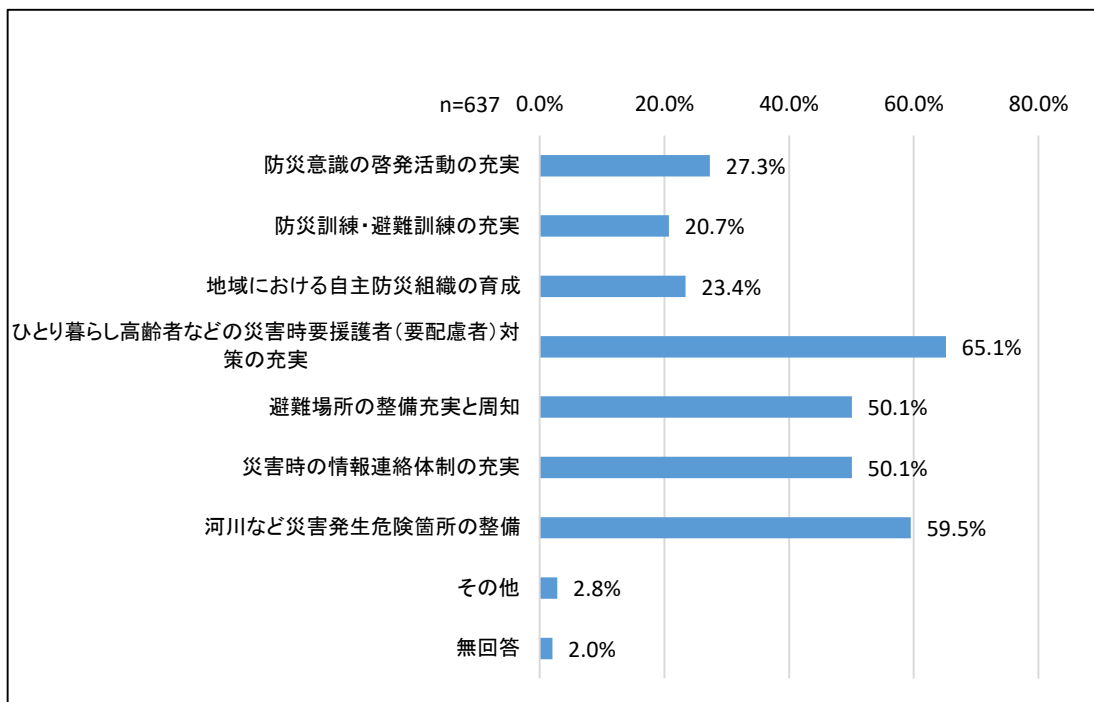
問7 あなたは、村の防災対策について、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。【複数回答】

- 「ひとり暮らし高齢者などの災害時要援護者（要配慮者）対策の充実」が第1位。次いで「河川など災害発生危険箇所の整備」、「避難場所の整備充実と周知」「災害時の情報連絡体制の充実」の順。

今後、力を入れるべき防災対策については、「ひとり暮らし高齢者などの災害時要援護者（要配慮者）対策の充実」（65.1%）が第1位に挙げられ、次いで「河川など災害発生危険箇所の整備」（59.5%）、「避難場所の整備充実と周知」「災害時の情報連絡体制の充実」（同率50.1%）、「防災意識の啓発活動の充実」（27.3%）と続いています。

属性別でも、「ひとり暮らし高齢者などの災害時要援護者（要配慮者）対策の充実」が概ね上位に挙げられています。

今後、力を入れるべき防災対策について（全体／複数回答）



今後、力を入れるべき防災対策について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 65.1%	河川など災害発生危険箇所の整備 59.5%	避難場所の整備充実と周知/災害時の情報連絡体制の充実 50.1%
性別	男性	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 64.7%	河川など災害発生危険箇所の整備 61.4%	災害時の情報連絡体制の充実 45.8%
	女性	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 65.5%	河川など災害発生危険箇所の整備 58.1%	避難場所の整備充実と周知 54.9%
年齢	10代	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 80.6%	河川など災害発生危険箇所の整備 61.3%	避難場所の整備充実と周知 58.1%
	20代	避難場所の整備充実と周知 54.8%	河川など災害発生危険箇所の整備 52.4%	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 45.2%
	30代	避難場所の整備充実と周知 63.4%	河川など災害発生危険箇所の整備 57.7%	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 54.9%
	40代	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 64.0%	河川など災害発生危険箇所の整備 59.3%	災害時の情報連絡体制の充実 50.0%
	50代	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 66.2%	河川など災害発生危険箇所の整備 60.0%	災害時の情報連絡体制の充実 53.9%
	60代	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 73.9%	河川など災害発生危険箇所の整備 60.2%	災害時の情報連絡体制の充実 51.1%
	70歳以上	河川など災害発生危険箇所の整備 60.3%	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 58.9%	災害時の情報連絡体制の充実 52.1%
居住地域	殿	河川など災害発生危険箇所の整備 64.5%	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 56.6%	避難場所の整備充実と周知 55.3%
	須原	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 73.7%	河川など災害発生危険箇所の整備 60.5%	避難場所の整備充実と周知 56.1%
	長野	河川など災害発生危険箇所の整備 64.8%	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 62.0%	避難場所の整備充実と周知/災害時の情報連絡体制の充実 46.9%
	野尻	災害時要援護者（要配慮者）対策の充実 66.5%	河川など災害発生危険箇所の整備 54.4%	災害時の情報連絡体制の充実 52.5%

4 参画・協働について

(1) 村民参画・協働のむらづくりの推進について

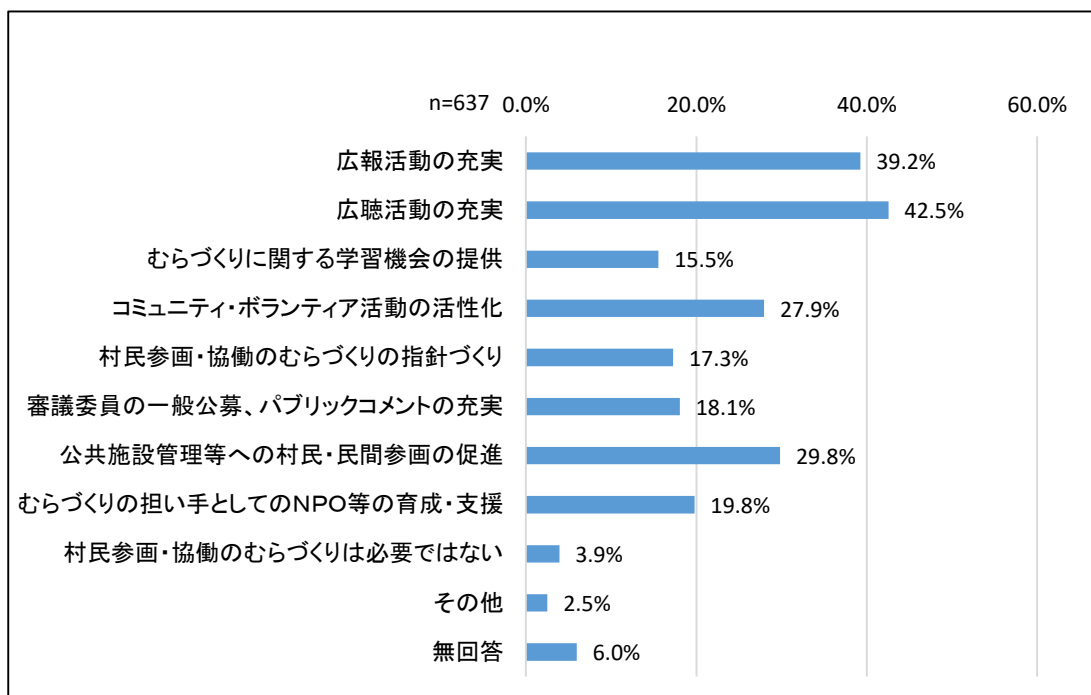
問8 これからのむらづくりにおいて、「村民参画・協働のむらづくり」を進めるために行政として必要なことはなんでしょうか。【複数回答】

- 「広聴活動の充実」が第1位。次いで「広報活動の充実」、「公共施設管理等への村民・民間参画の促進」の順。

村民参画・協働のむらづくりを進めるために必要なことについては、「広聴活動の充実」(42.5%)が第1位に挙げられ、次いで「広報活動の充実」(39.2%)、「公共施設管理等への村民・民間参画の促進」(29.8%)となっており、意見や要望を聞く機会の充実などが重視されています。

属性別で見ると、性・年齢・地域別のすべての層で「広聴活動の充実」、「広報活動の充実」が全体と同様に上位に挙げられています。

村民参画・協働のむらづくりの推進について（全体／複数回答）



村民参画・協働のむらづくりの推進について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		広聴活動の充実 42.5%	広報活動の充実 39.2%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 29.8%
性別	男性	広聴活動の充実 43.1%	広報活動の充実 38.6%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 30.8%
	女性	広聴活動の充実 41.9%	広報活動の充実 39.8%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 29.2%
年齢	10代	広聴活動の充実 54.8%	広報活動の充実 51.6%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 32.3%
	20代	広聴活動の充実 38.1%	広報活動の充実 31.0%	コミュニティ活動等の活性化 23.8%
	30代	広聴活動の充実 39.4%	広報活動の充実 36.6%	コミュニティ活動等の活性化 26.8%
	40代	広報活動の充実/広聴活動の充実 39.5%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 31.4%	コミュニティ活動等の活性化 26.7%
	50代	広報活動の充実/広聴活動の充実 39.0%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 29.9%	コミュニティ活動等の活性化 26.0%
	60代	広聴活動の充実 44.3%	広報活動の充実 38.1%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 33.5%
	70歳以上	広聴活動の充実 49.3%	広報活動の充実 43.8%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 30.1%
居住地域	殿	広報活動の充実 38.2%	広聴活動の充実 35.5%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 31.6%
	須原	広聴活動の充実 43.9%	広報活動の充実 42.1%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 34.2%
	長野	広聴活動の充実 39.7%	広報活動の充実 34.1%	コミュニティ活動等の活性化 32.4%
	野尻	広聴活動の充実 46.0%	広報活動の充実 42.2%	公共施設管理等への村民・民間参画の促進 29.3%

5 コミュニティ活動について

(1) コミュニティ活動等への参加状況・参加意向について

問9 あなたの現在のコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動への参加状況と、今後の参加意向についておたずねします。

- 現在“参加している”人が38.2%、“参加していない”人が56.5%。
- 今後“参加したい”人が54.2%、“参加したくない”人が40.5%。

コミュニティ活動・ボランティア活動の参加状況と今後の参加意向については、「現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない」（34.2%）と答えた人が最も多く、次いで「現在参加しており、今後も参加したい」（31.9%）、「現在参加していないが、今後は参加したい」（22.3%）、「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」（6.3%）の順となっています。

これを現在の参加状況で見ると、現在“参加している”人（「現在参加しており、今後も参加したい」と「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」の合計）が38.2%、一方、“参加していない”人（「現在参加していないが、今後は参加したい」と「現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない」の合計）が56.5%となっています。

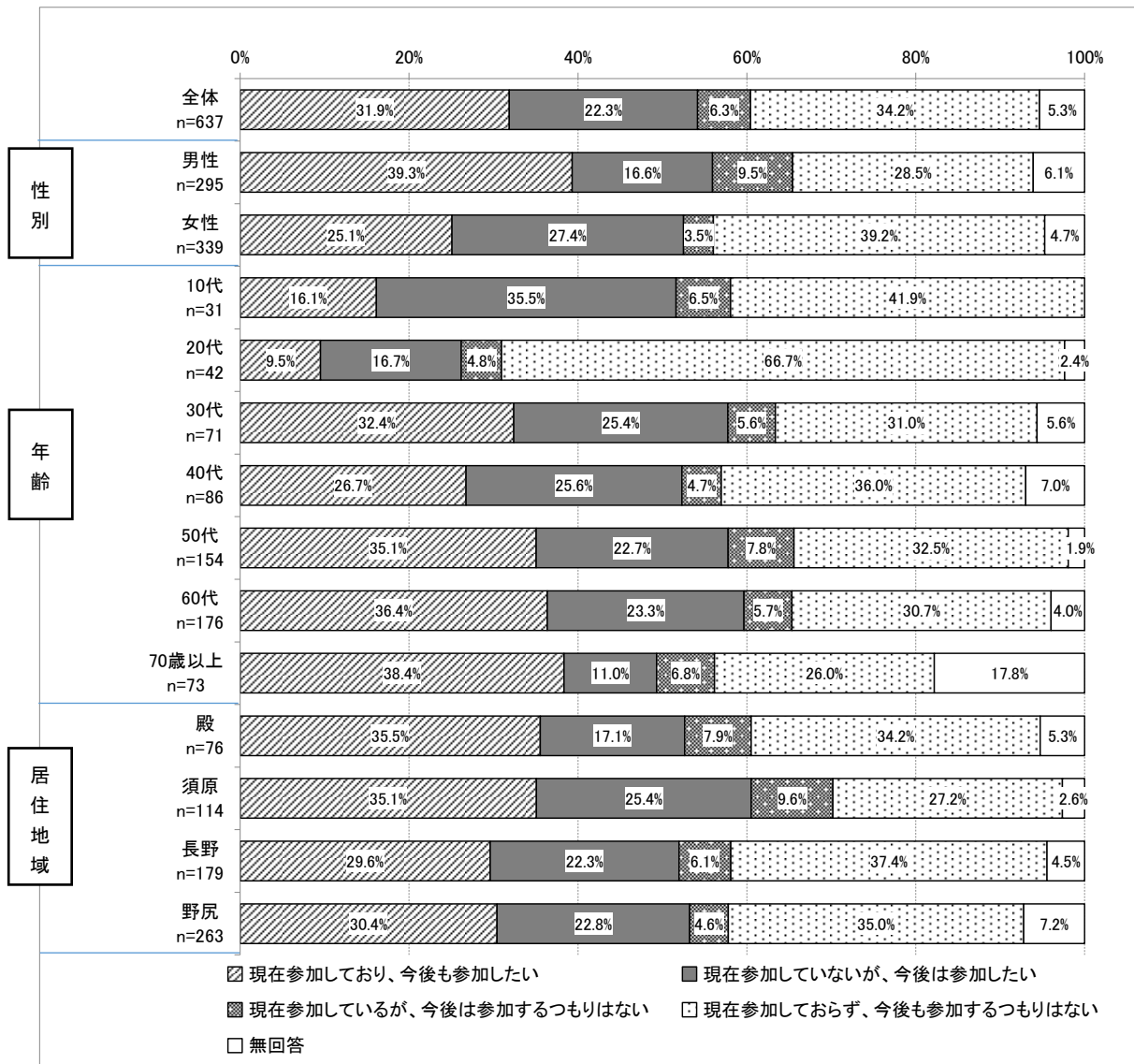
また、今後の参加意向で見ると、今後“参加したい”人（「現在参加しており、今後も参加したい」と「現在参加していないが、今後は参加したい」の合計）が54.2%、一方、“参加したくない”人（「現在参加しているが、今後は参加するつもりはない」と「現在参加しておらず、今後も参加するつもりはない」の合計）が40.5%となっており、コミュニティ活動等へ参加意向を持つ人が持っていない人を上回っています。

属性別で“参加したい”率をみると、性別では、男性で55.9%、女性で52.5%と男性のほうがやや上回っています。

年齢別で見ると、“参加したい”率は60代（59.7%）が最も多く、次いで50代・30代（57.8%）、40代（52.3%）、10代（51.6%）、70歳以上（49.4%）、20代（26.2%）となっています。

居住地域別で“参加したい”率をみると、須原で60.5%、野尻で53.2%、殿（和村地区含む）で52.6%、長野（伊奈川地区含む）で51.9%となっています。

コミュニティ活動等への参加状況・参加意向について（全体・性別・年齢・居住地域）



(2) 今後参加したい活動について

問9付問 あなたは、今後（今後とも）どのようなコミュニティ活動（地域活動）・ボランティア活動に参加したいと思いますか。（問9で“参加したい”と回答した人のみ）
【複数回答】



- 「自治組織の活動」が第1位に挙げられ、次いで「自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動」、「緑化や花づくりに関する活動」、「高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動」、「子育て支援に関する活動」の順。

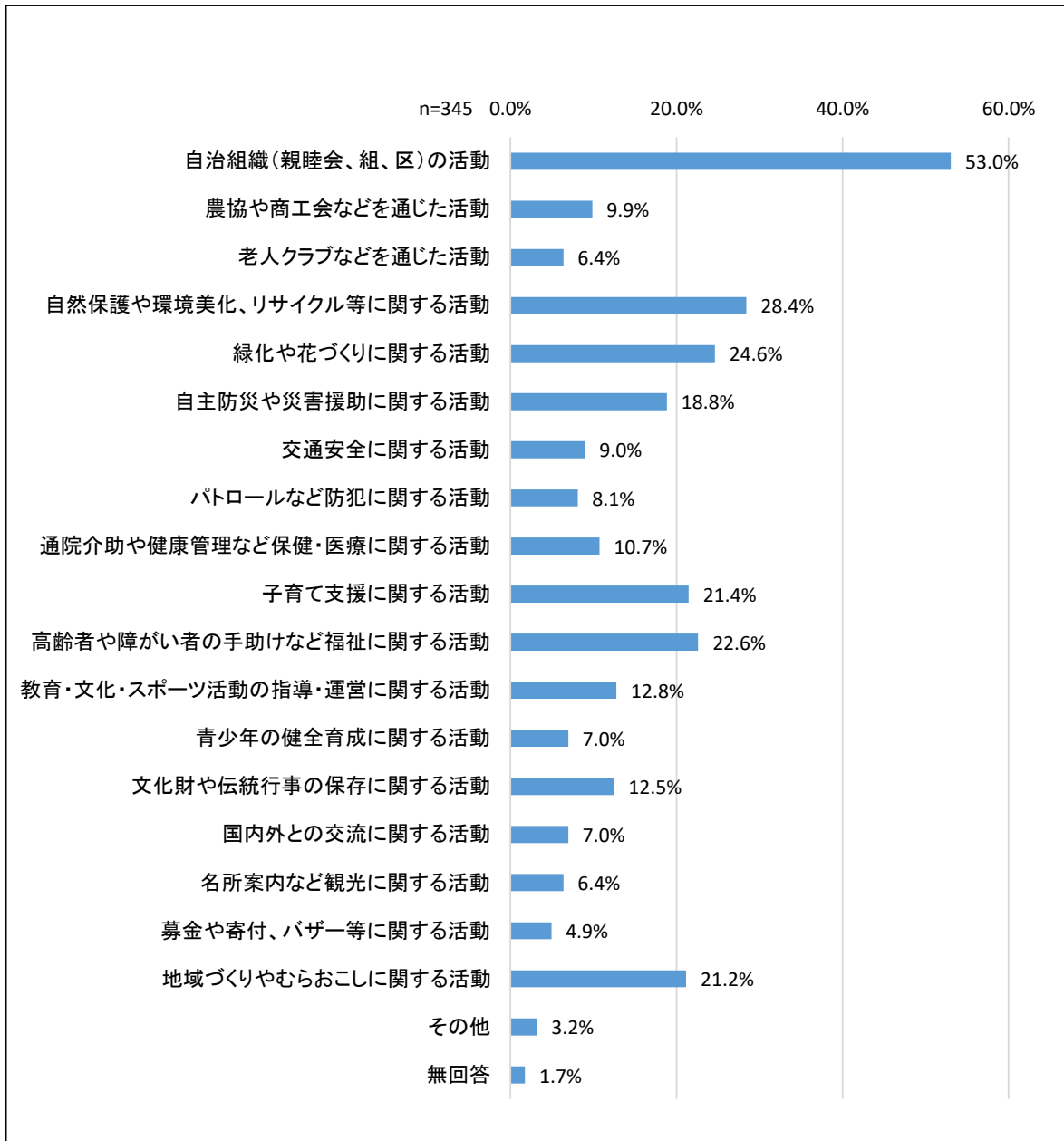
問9で“参加したい”と答えた345人(全体の54.2%)に、今後参加したいコミュニティ活動・ボランティア活動についてたずねたところ、「自治組織の活動」(53.0%)が第1位に挙げられ、次いで「自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動」(28.4%)、「緑化や花づくりに関する活動」(24.6%)、「高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動」(22.6%)、「子育て支援に関する活動」(21.4%)が続き、身近な自治組織での地域活動をはじめ、環境保全、福祉や子育て支援に関する活動に参加したいという人が多くなっています。

性別で見ると、男性、女性ともに「自治組織の活動」が第1位に挙げられ、男性67.3%、女性39.3%と男性のほうが大きく上回っています。

年齢別では、10代では「緑化や花づくりに関する活動」が第1位に挙げられ、20代以上では「自治組織の活動」が第1位となっています。

居住地域別で見ると、すべての地域で「自治組織の活動」が第1位となっています。

今後参加したい活動について（全体／複数回答）



今後参加したい活動について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		自治組織の活動 53.0%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 28.4%	緑化や花づくりに関する活動 24.6%
性別	男性	自治組織の活動 67.3%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 27.3%	地域づくりやむらおこしに関する活動 26.1%
	女性	自治組織の活動 39.3%	緑化や花づくりに関する活動 32.0%	福祉に関する活動 30.9%
年齢	10代	緑化や花づくりに関する活動 50.0%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 43.8%	子育て支援に関する活動 37.5%
	20代	自治組織の活動 63.6%	子育て支援に関する活動 27.3%	緑化や花づくりに関する活動/交通安全に関する活動/教育・文化・スポーツに関する活動 18.2%
	30代	自治組織の活動 48.8%	子育て支援に関する活動 34.1%	自主防災や災害援助に関する活動/自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 29.3%
	40代	自治組織の活動 46.7%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動/子育て支援に関する活動 28.9%	緑化や花づくりに関する活動/地域づくりやむらおこしに関する活動 22.0%
	50代	自治組織の活動 62.9%	福祉に関する活動 25.8%	自主防災や災害援助に関する活動 24.7%
	60代	自治組織の活動 50.5%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 34.3%	福祉に関する活動 29.5%
	70歳以上	自治組織の活動 61.1%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動/緑化や花づくりに関する活動 27.8%	地域づくりやむらおこしに関する活動 25.0%
居住地域	殿	自治組織の活動 47.5%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 35.0%	地域づくりやむらおこしに関する活動 25.0%
	須原	自治組織の活動 55.1%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 29.0%	子育て支援に関する活動 27.5%
	長野	自治組織の活動 57.0%	緑化や花づくりに関する活動 34.4%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 29.0%
	野尻	自治組織の活動 50.7%	自然保護や環境美化、リサイクル等に関する活動 25.7%	自主防災や災害援助に関する活動 25.0%

6 日頃の行動などについて(日常的に生活の中でやっていること)

(1) 健康増進のための取組について

問 10(1)-①あなたは、日頃、健康増進のための取組（食生活の改善や運動など）をしていますか。

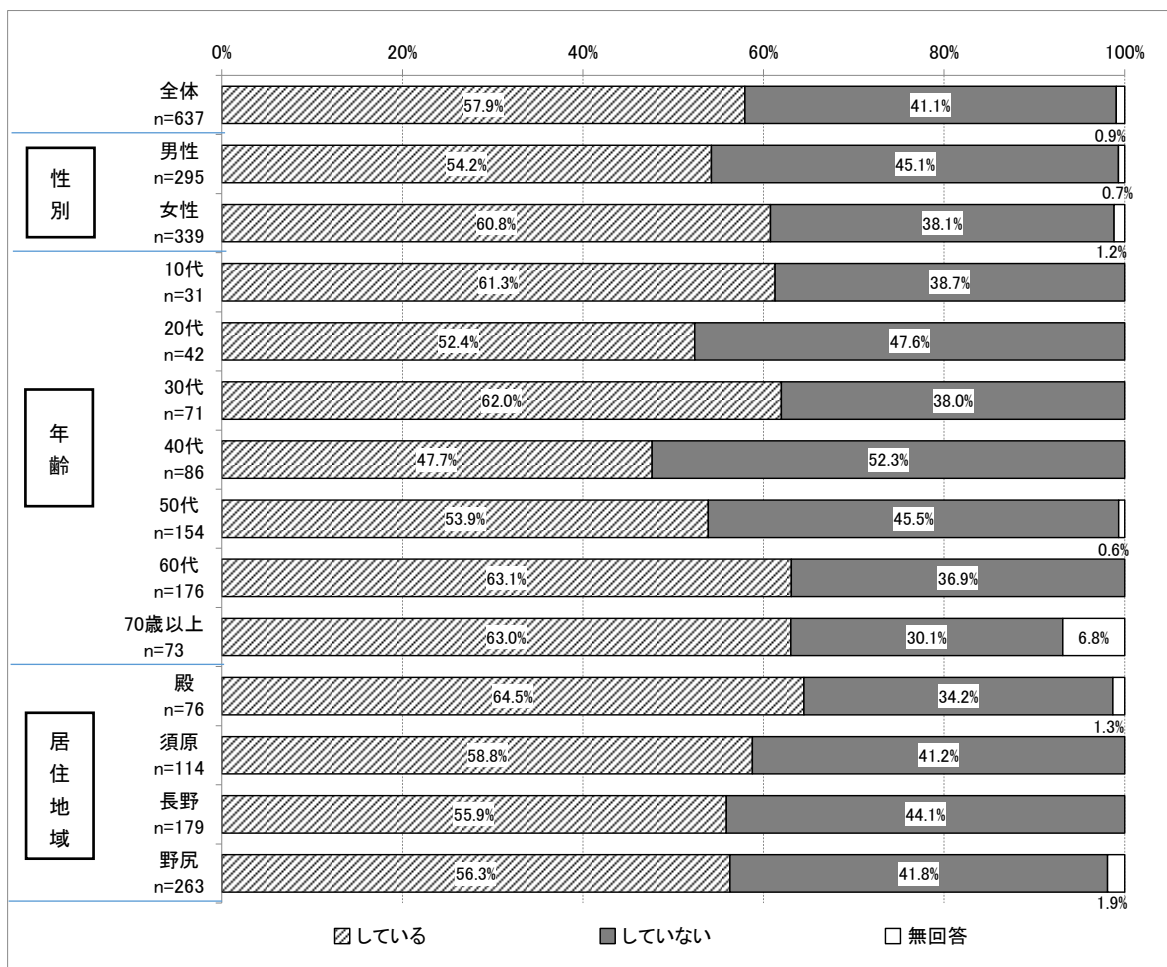
- 健康増進のための取組をしている人は 57.9%。

健康増進のための取組については、「している」と答えた人が 57.9%、「していない」と答えた人が 41.1%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性（60.8%）が男性（54.2%）を上回っています。

年齢別では、60代（63.1%）が最も高く、40代（47.7%）が最も低くなっています。居住地別では、殿（和村地区含む）（64.5%）が最も高くなっています。

健康増進のための取組について（全体・性別・年齢・居住地）



(2) 週1回以上のスポーツ活動について

問 10(1)-②あなたは、週1回以上、スポーツ活動をしていますか。

- 週1回以上、スポーツ活動をしている人は26.1%。

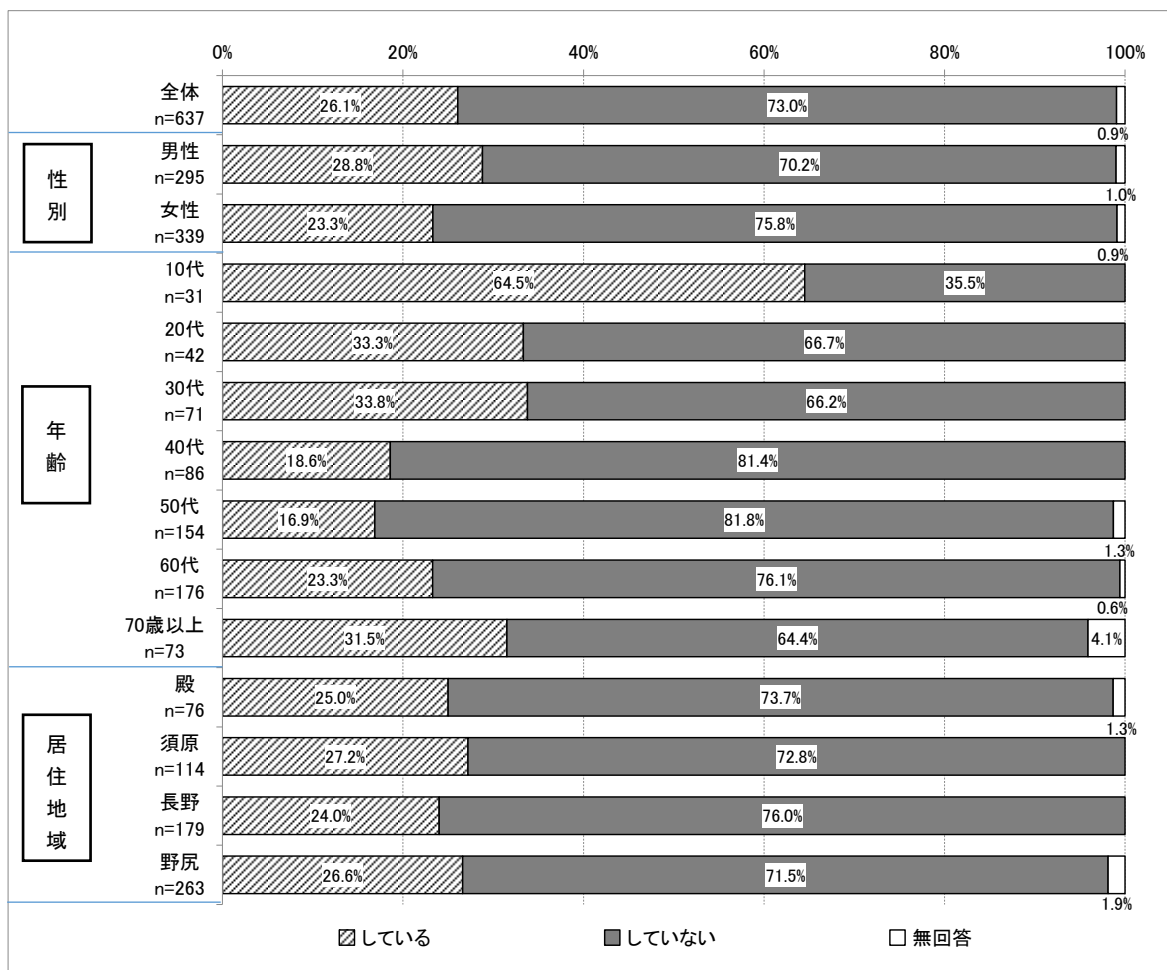
週1回以上のスポーツ活動については、「している」と答えた人が26.1%、「していない」と答えた人が73.0%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、男性(28.8%)が女性(23.3%)を上回っています。

年齢別では、10代(64.5%)が最も高く、他の年代を大きく上回っています。最も低かったのは50代(16.9%)でした。

居住地域別では、須原地域で「している」と答えた人(27.2%)が最も高くなっています。

週1回以上のスポーツ活動について(全体・性別・年齢・居住地域)



(3) 環境に配慮した生活について

問 10(1)-③あなたは、日頃、環境美化や水質浄化、省資源・省エネルギー、アイドリングストップなど、環境に配慮した生活をしていますか。



● 環境に配慮した生活をしている人は 70.5%。

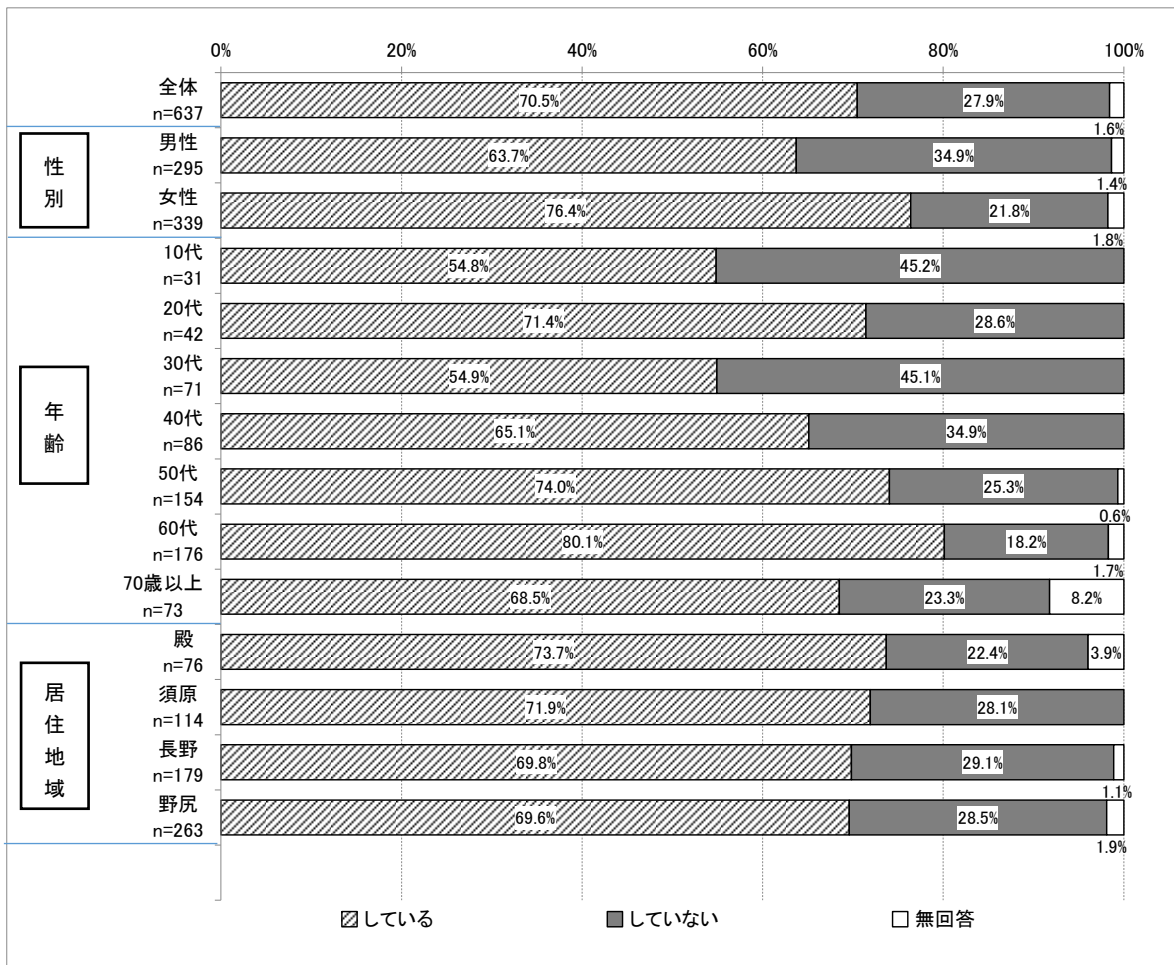
環境に配慮した生活については、「している」と答えた人が 70.5%、「していない」と答えた人が 27.9%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性が 76.4%と男性の 63.7%を上回っています。

年齢別では、60代が 80.1%と最も高くなっています。

居住地域別では、殿（和村地区含む）で 73.7%、須原で 71.9%、長野（伊奈川地区含む）で 69.8%、野尻で 69.6%と大きな差はみられませんでした。

環境に配慮した生活について（全体・性別・年齢・居住地域）



(4) ごみ減量化のための3R運動について

問 10(1)-④あなたは、日頃、ごみの減量化のため、3R運動（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生使用）をしていますか。

- ごみ減量化のための3R運動をしている人は83.0%。

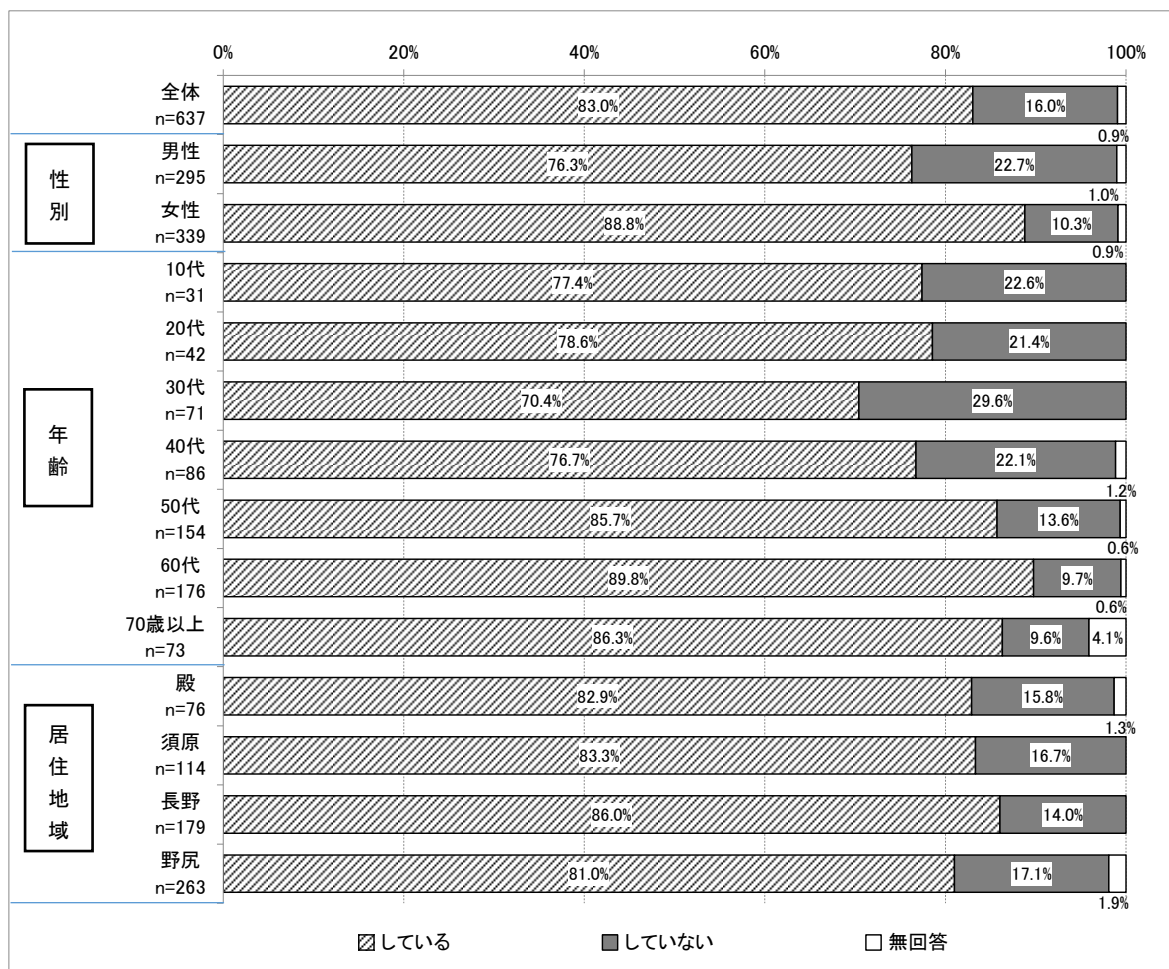
ごみ減量化のための3R運動については、「している」と答えた人が83.0%、「していない」と答えた人が16.0%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性が88.8%と男性の76.3%を上回っています。

年齢別では、60代（89.8%）が最も高く、30代（70.4%）が最も低くなっています。

居住地域別では、長野（伊奈川地区含む）で86.0%と最も高くなっています。

ごみ減量化のための3R運動について（全体・性別・年齢・居住地域）



(5) 村内の商店での買物について

問 10(1)-⑤あなたは、日頃、村内の商店で買物をしていますか。

- 村内の商店で買物をしている人は 80.2%。

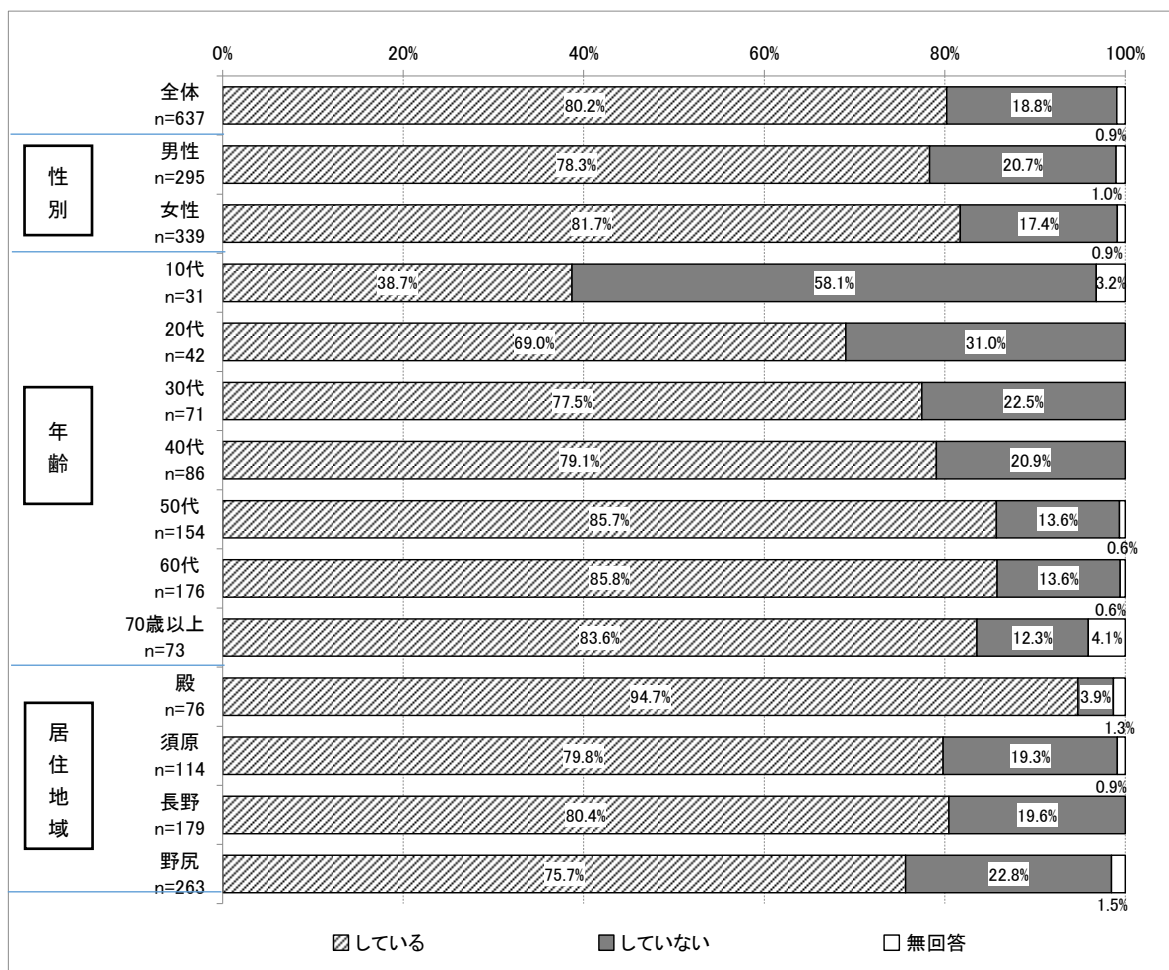
村内の商店での買物については、「している」と答えた人が 80.2%、「していない」と答えた人が 18.8%となっています。

属性別で「している」率をみると、性別では、女性が 81.7%と男性の 78.3%を上回っています。

年齢別では、概ね年齢層が上がるにつれて「している」率が上昇し、50代以上では8割を超えている一方で、10代では 38.7%にとどまっています。

居住地域別では、殿（和村地区含む）で 94.7%と最も高くなっています。

村内商店での買物について（全体・性別・年齢・居住地域）



(6) 災害時の避難場所について

問 10(1)-⑥あなたは、災害時の避難場所を知っていますか。

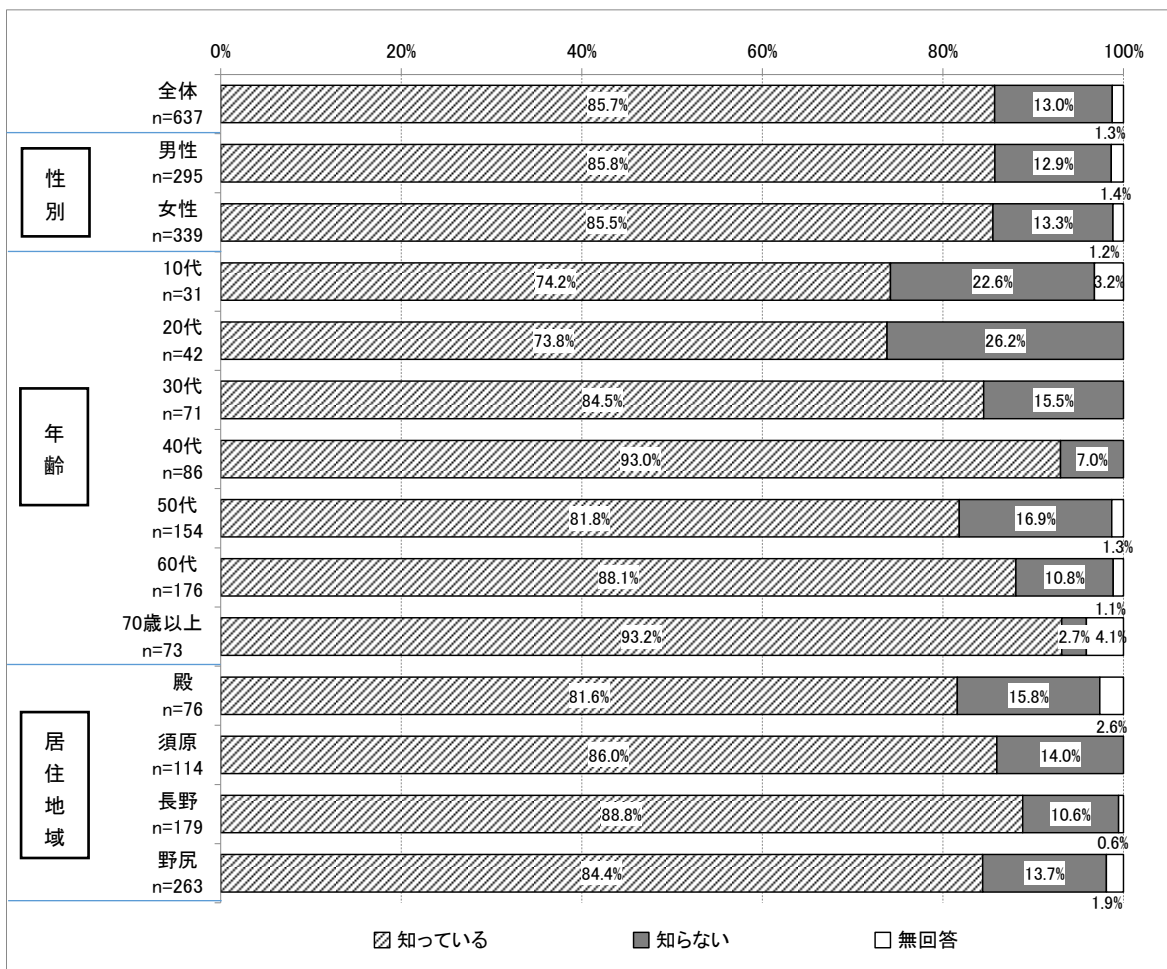
● 災害時の避難場所を知っている人は 85.7%。

災害時の避難場所については、「知っている」と答えた人が 85.7%、「知らない」と答えた人が 13.0%となっています。

属性別で「知っている」率をみると、性別では、男性・女性（85.8%・85.5%）で差はみられず、年齢別では、70 歳以上（93.2%）が最も高く、20 代（73.8%）が最も低くなっていますが、概ね、年代が高いほど「知っている」率が高くなる傾向があります。

居住地域別では、長野（伊奈川地区含む）で 88.8%と最も高くなっています。

災害時の避難場所について（全体・性別・年齢・居住地域）



(7) 「広報おおくわ」について

問 10(1)-⑦あなたは、「広報おおくわ」を読んでいますか。

- 「広報おおくわ」を“読んでいる”人は95.5%。

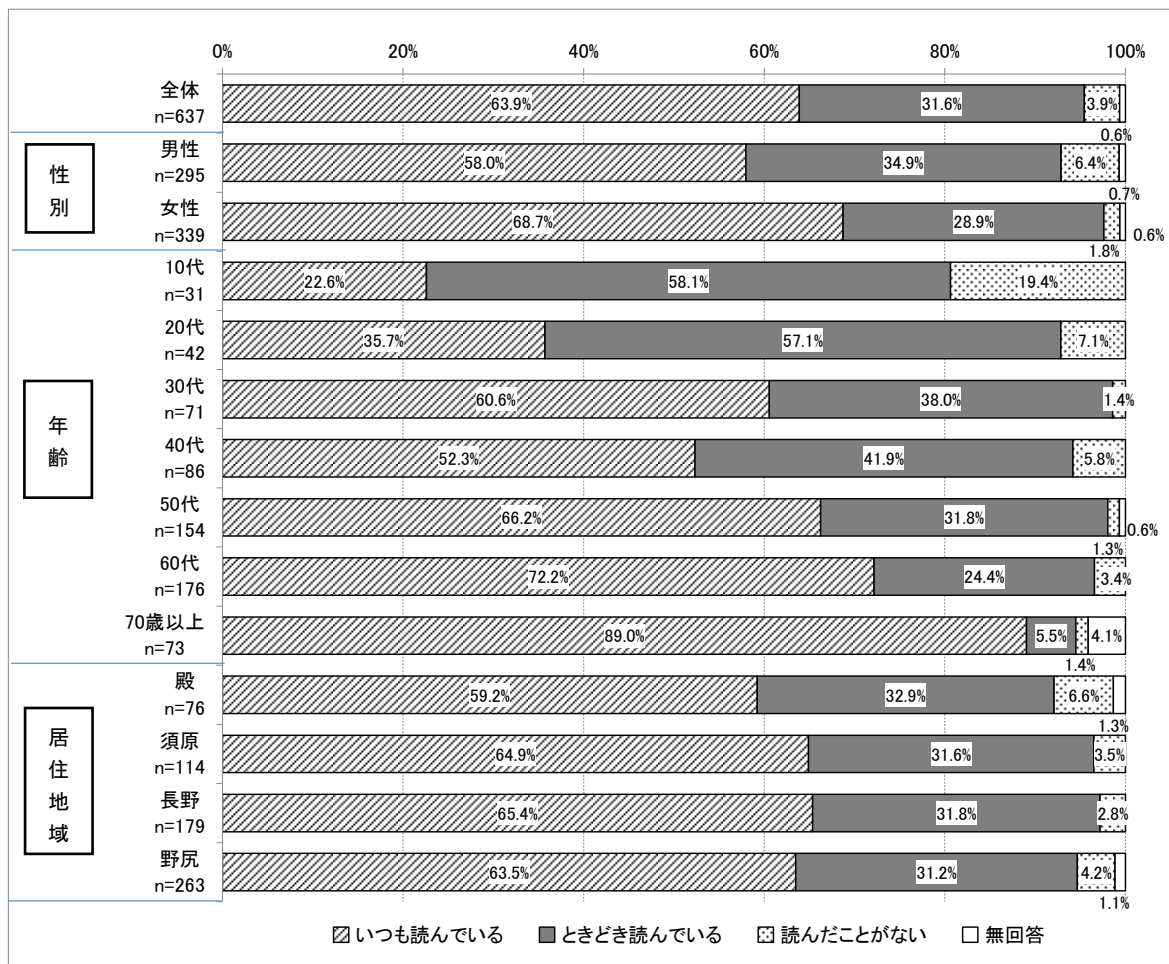
「広報おおくわ」については、「いつも読んでいる」と答えた人(63.9%)が最も多く、「ときどき読んでいる」(31.6%)が続き、これらをあわせた“読んでいる”という人が95.5%となっています。一方、「読んだことがない」と答えた人はわずか3.9%にとどまります。

属性別で“読んでいる”率をみると、性別では、女性で97.6%と男性の92.9%を上回っています。

年齢別では、20代以上で9割を超えており、“読んでいる”率が最も低い10代でも80.7%と8割を超えています。

居住地域別で“読んでいる”率をみると、すべての地域で9割を超えています。

「広報おおくわ」について（全体・性別・年齢・居住地域）



(8) 村のホームページについて

問 10(1)-⑧あなたは、村のホームページを見たことがありますか。

- 村のホームページを見たことがある人は 63.4%。

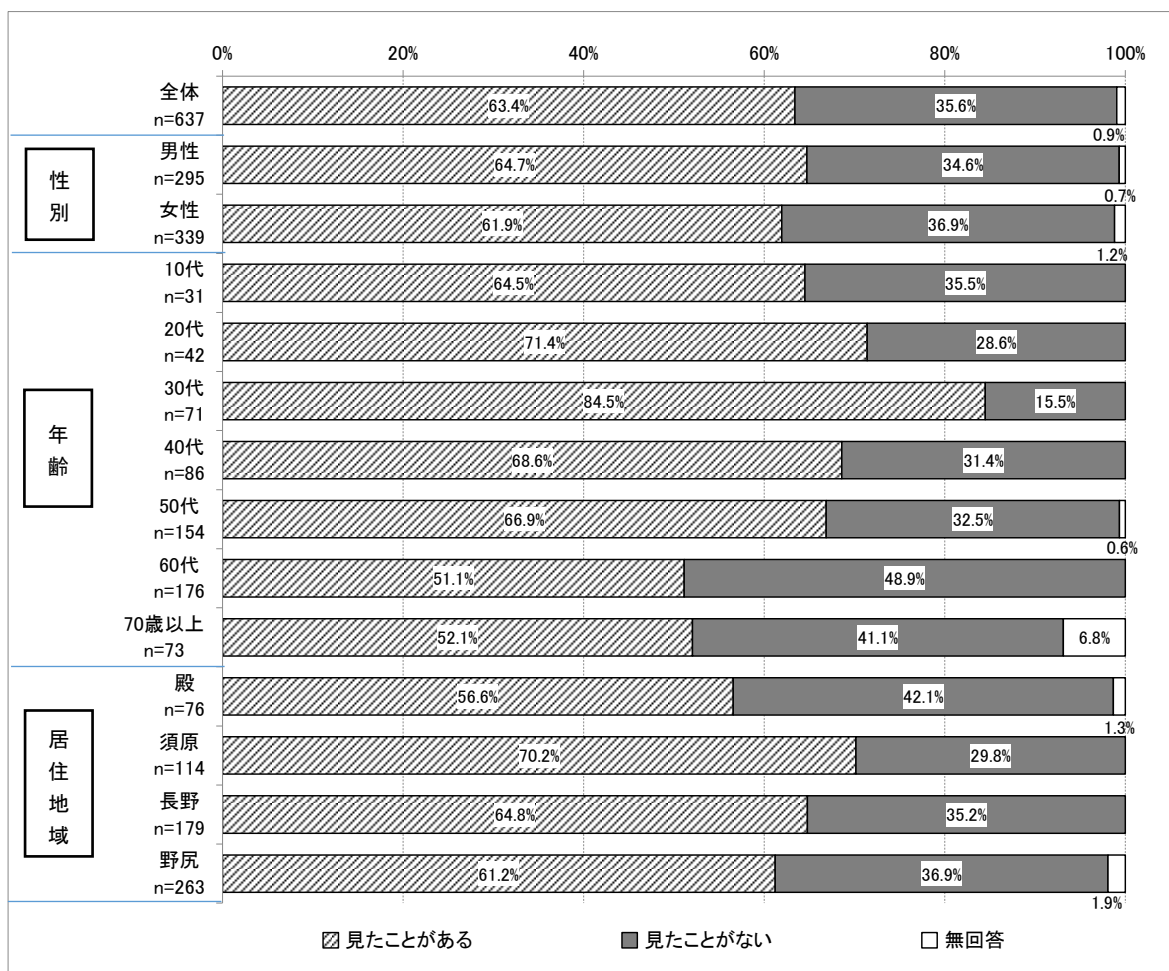
村のホームページについては、「見たことがある」と答えた人が 63.4%、「見たことがない」と答えた人が 35.6%となっています。

属性別で「見たことがある」率をみると、性別では、男性で 64.7%、女性が 61.9%と大きな差はみられません。

年齢別では、30代で 84.5%と最も高く、60代で 51.1%と最も低くなっています。

居住地域別では、須原(70.2%)が最も高くなっています。

村のホームページについて（全体・性別・年齢・居住地域）



7 日頃の行動などについて(定期的に参加している取組や活動など)

(1) 村の講座等による生涯学習活動について

問 10(2)-①あなたは、この1年間に、村の講座や教室等を利用した生涯学習活動をしましたか。[新型コロナウイルス感染症流行前(令和2(2020)年1月以前)の状況]

- 村の講座等による生涯学習活動をした人は17.3%。

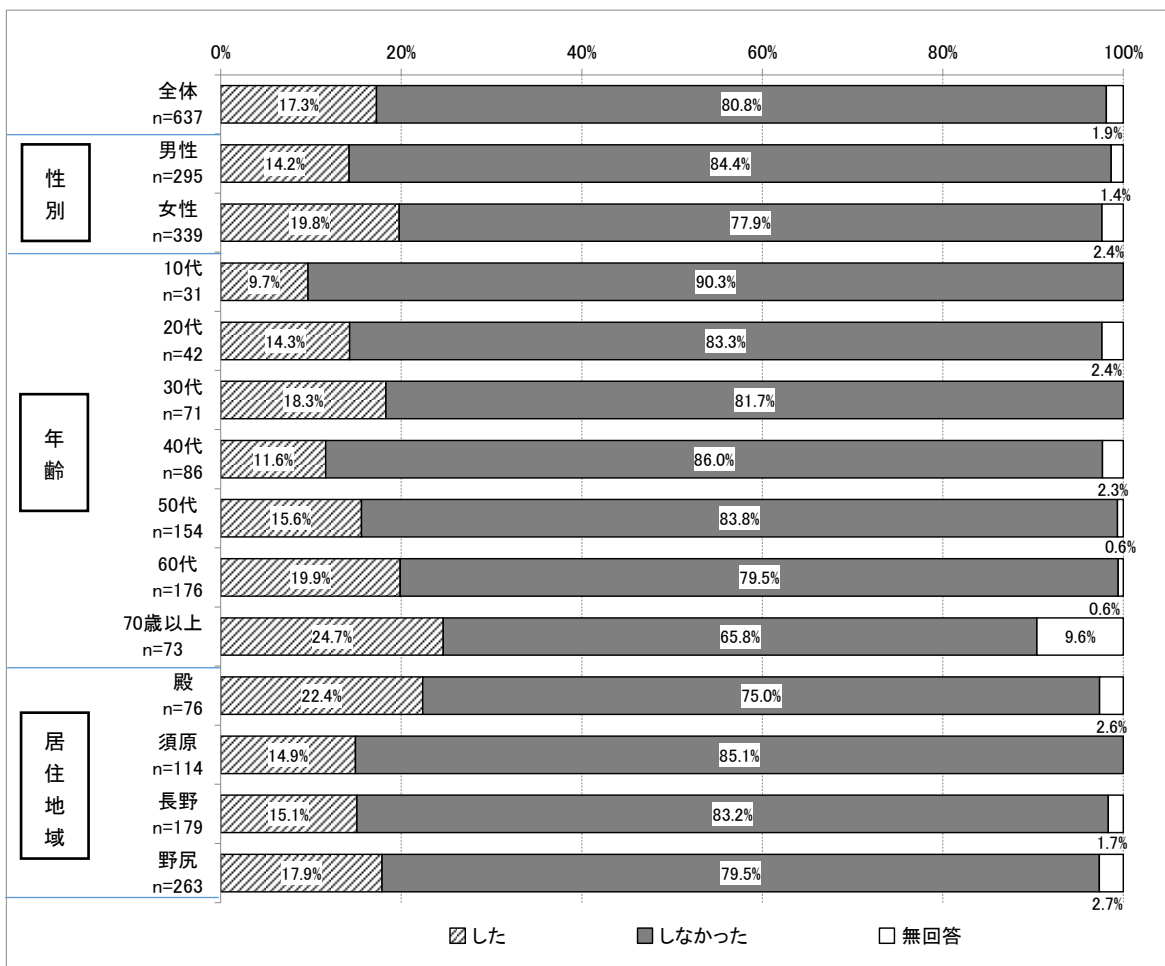
村の講座や教室等を利用した生涯学習活動については、「した」と答えた人が17.3%、「しなかった」と答えた人が80.8%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、女性(19.8%)が男性(14.2%)を上回っています。

年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて、「した」と答えた率が上昇し、70歳以上では24.7%となっています。

居住地域別では、殿(和村地区含む)で「した」と答えた率が22.4%と最も高くなっています。

村の講座等による生涯学習活動について(全体・性別・年齢・居住地域)



(2) 地域福祉活動への参加について

問 10(2)-②あなたは、この1年間に、身近な地域での見守り、支え合いなど、地域福祉活動に参加しましたか。[新型コロナウイルス流行前（令和2（2020）年1月以前）の状況]

● 地域福祉活動に参加した人は18.5%。

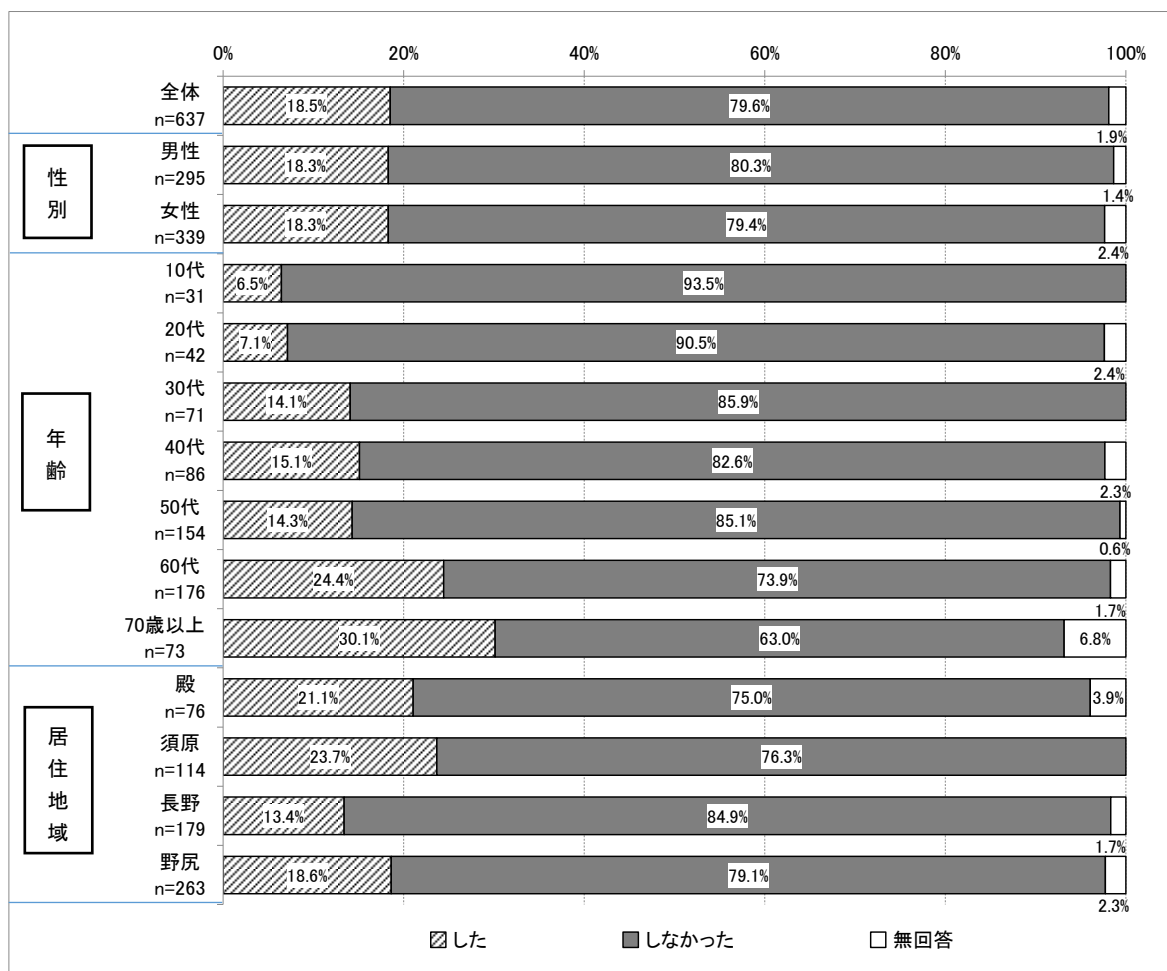
地域福祉活動への参加については、「した」と答えた人が18.5%、「しなかった」と答えた人が79.6%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、男性・女性ともに18.3%となっています。

年齢別では、70歳以上(30.1%)で「した」と答えた率が他の年代と比較して高くなっています。

居住地域別では、須原で「した」と答えた率が23.7%と最も高くなっています。

地域福祉活動への参加（全体・性別・年齢・居住地域）



(3) 防火・防災訓練への参加

問 10(2)-③あなたは、この1年間に、防火・防災訓練に参加しましたか。[新型コロナウイルス感染症流行前（令和2（2020）年1月以前）の状況]

- 防火・防災訓練に参加した人は 25.7%。

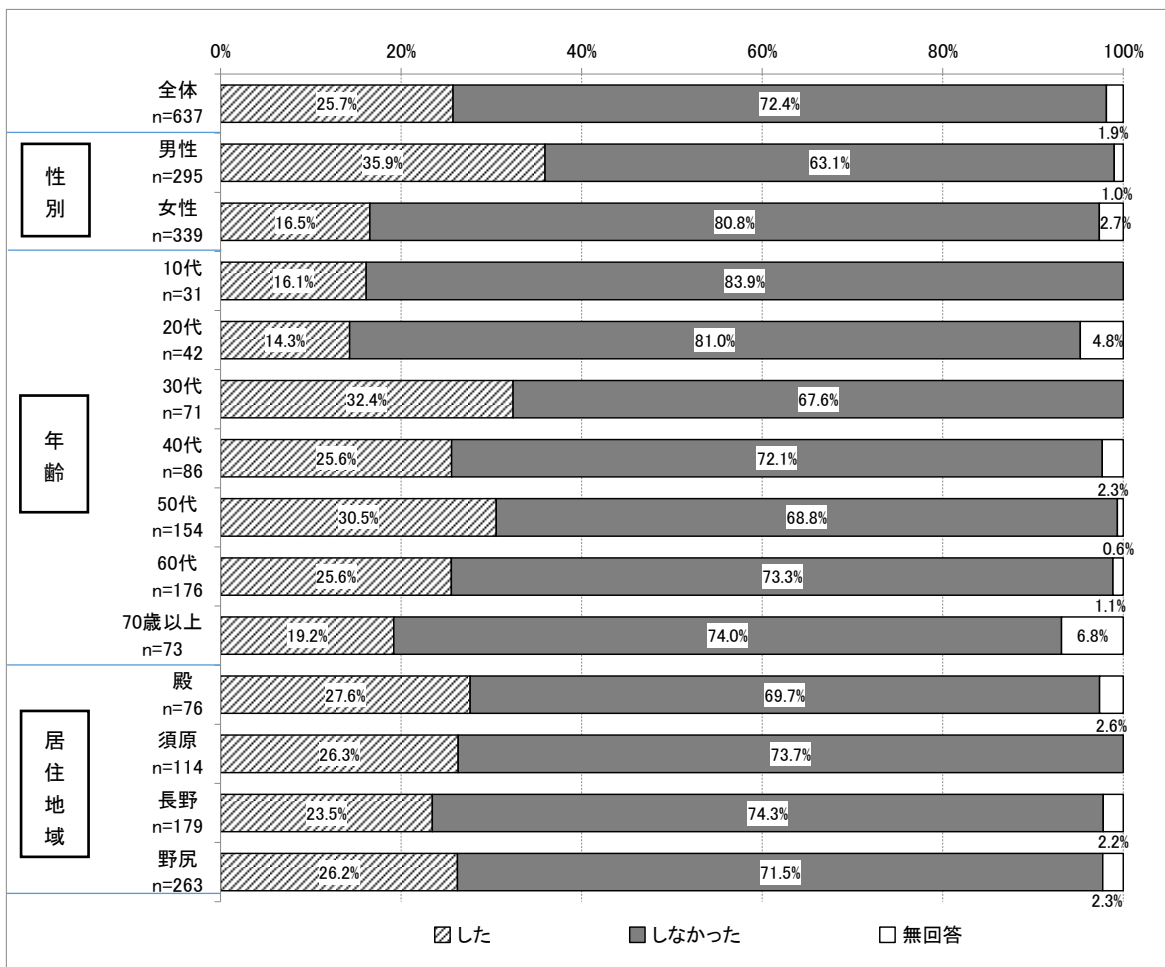
防火・防災訓練への参加については、「した」と答えた人が 25.7%、「しなかった」と答えた人が 72.4%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、男性が 35.9%と女性の 16.5%を大きく上回っています。

年齢別では、30代（32.4%）が最も高く、20代（14.3%）が最も低くなっています。

居住地域別では、殿（和村地区含む）が 27.6%と最も高くなっています。

防火・防災訓練への参加（全体・性別・年齢・居住地域）



(4) 身近な地域での防犯活動への参加について

問 10(2)-④あなたは、この1年間に、身近な地域での防犯活動・パトロール活動に参加しましたか。[新型コロナ感染症流行前（令和2（2020）年1月以前）の状況]

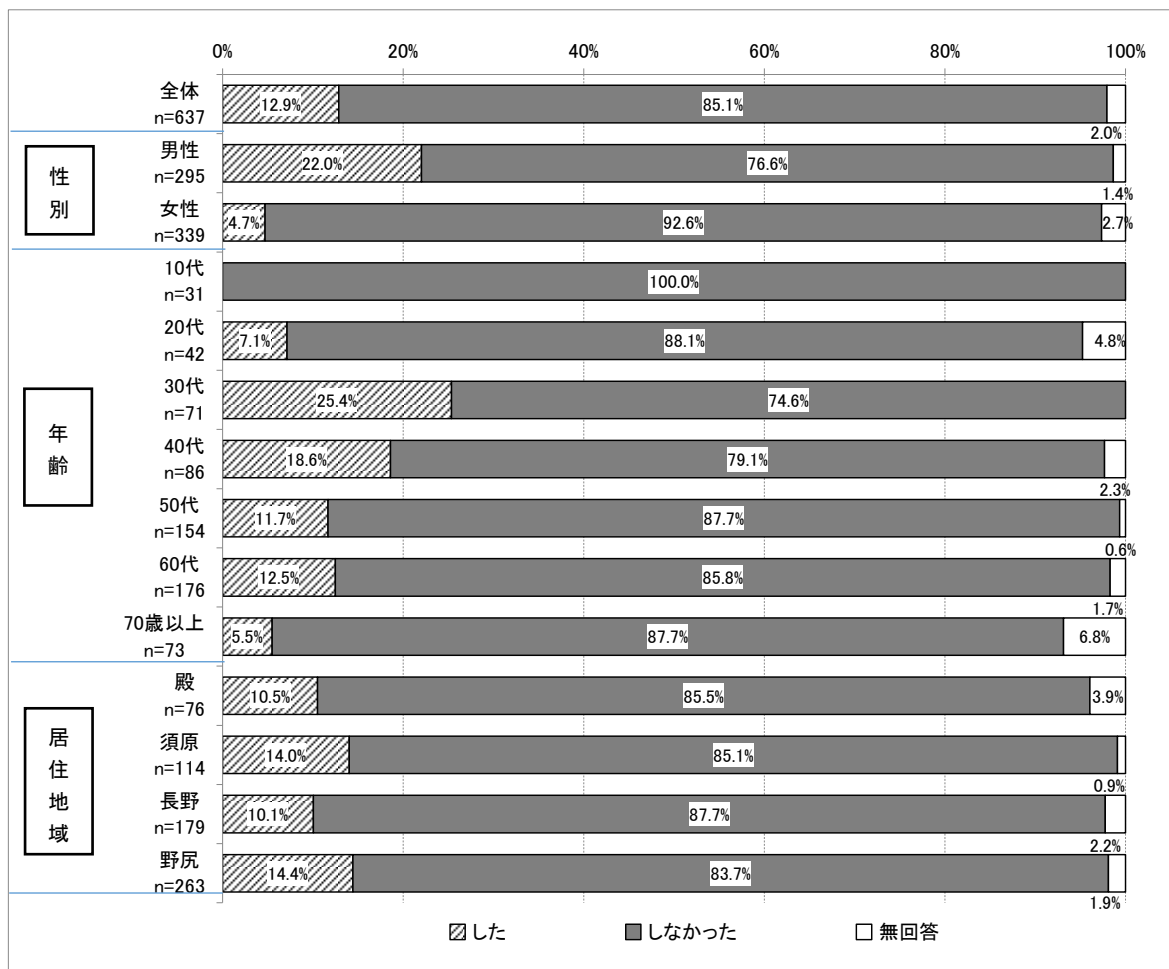
- 防犯活動・パトロール活動に参加した人は12.9%。

防犯活動への参加については、「した」と答えた人が12.9%、「しなかった」と答えた人が85.1%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、男性が22.0%と女性の4.7%を大きく上回っています。

年齢別では、30代（25.4%）が最も高く、10代（0.0%）が最も低くなっています。居住地別では、野尻で14.4%、須原で14.0%、殿（和村地区含む）で10.5%、長野（伊奈川地区含む）で10.1%と大きな差はみられませんでした。

身近な地域での防犯活動への参加について（全体・性別・年齢・居住地）



(5) 地元の道路・河川や公園などの維持管理について

問 10(2)-⑤あなたは、この1年間に、地元の道路・河川や公園などの維持管理（草刈りや清掃など）に参加しましたか。[新型コロナウイルス感染症流行前（令和2（2020）年1月以前）の状況]

● 地元の道路・河川や公園などの維持管理に参加した人は44.7%。

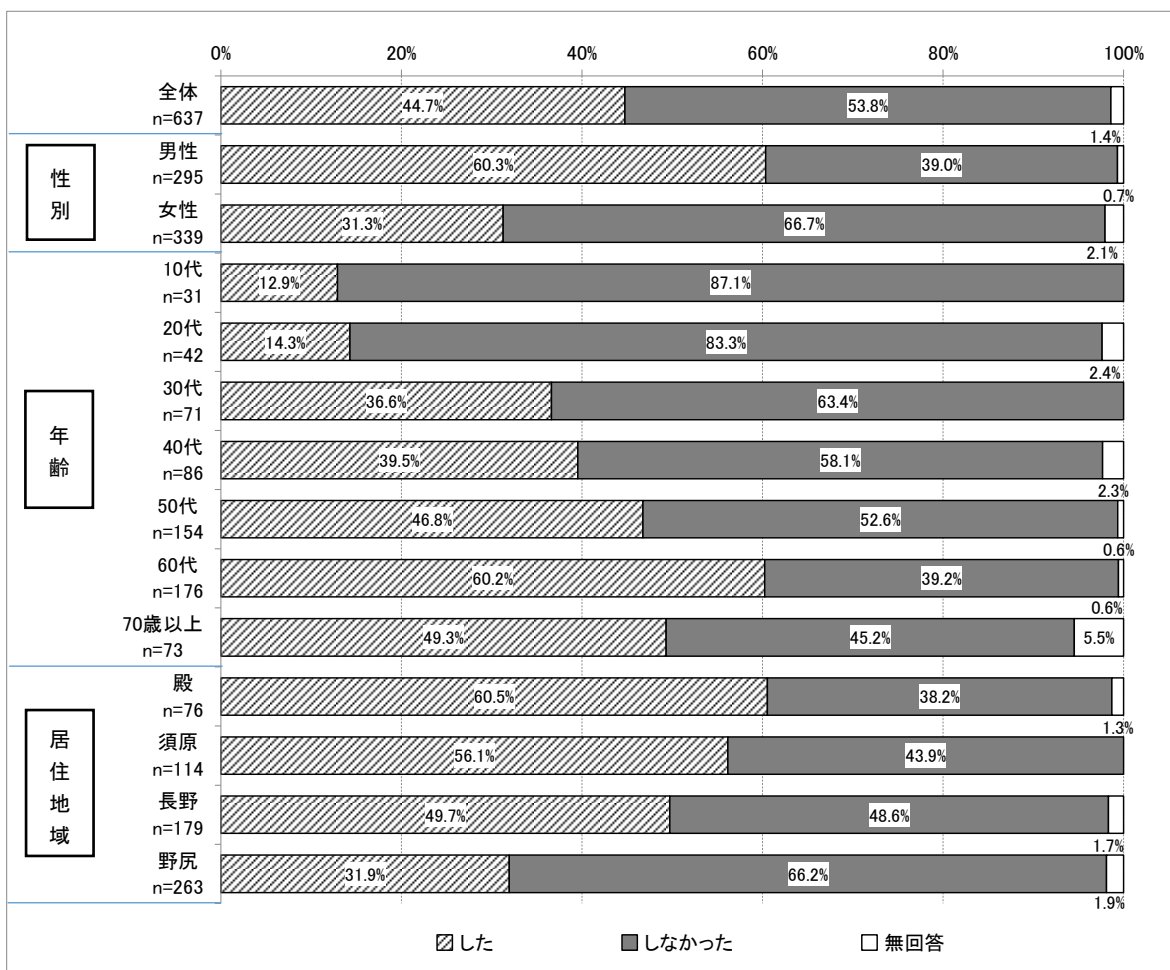
地元の道路・河川や公園などの維持管理（草刈りや清掃など）については、「した」と答えた人が44.7%、「しなかった」と答えた人が53.8%となっています。

属性別で「した」率をみると、性別では、男性が60.3%と女性の31.3%を大きく上回っています。

年齢別では、概ね年齢が上がるにつれて「した」率が上昇し、60代で60.2%と最も高くなっています。

居住地域別では、殿（和村地区含む）（60.5%）で最も高く、6割を超えています。野尻では31.9%と約3割にとどまっています。

地元の道路・河川や公園などの維持管理について（全体・性別・年齢・居住地域）



8 新型コロナウイルス感染症について

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと・心配ごとについて

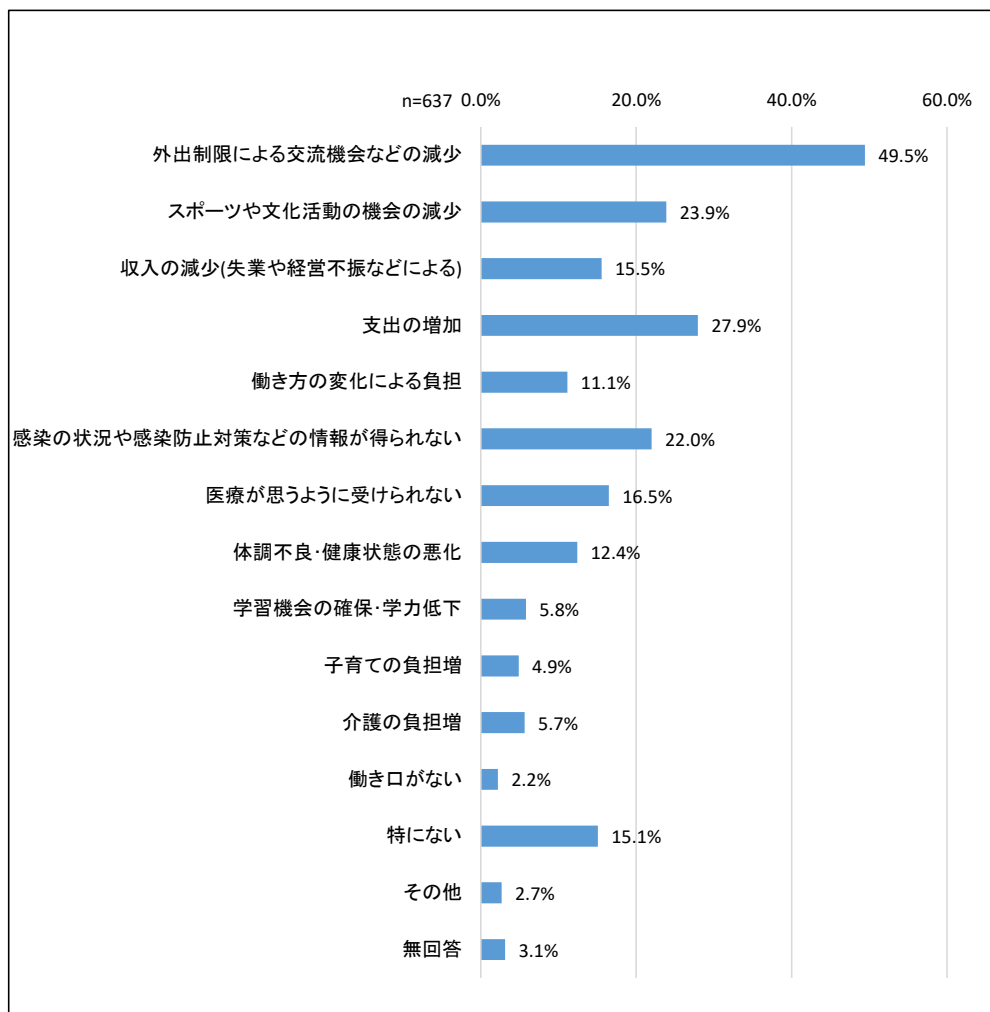
問11 あなたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、困っていること・心配と感じていることは何ですか。【複数回答】

- 「外出制限による交流機会などの減少」が第1位。次いで「支出の増加」、「スポーツや文化活動の機会の減少」の順。

新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと・心配ごとについてたずねたところ、「外出制限による交流機会などの減少」(49.5%)が第1位に挙げられ、次いで「支出の増加」(27.9%)、「スポーツや文化活動の機会の減少」(23.9%)と続いています。

属性別でも、すべての層で「外出制限による交流機会などの減少」が全体と同様に第1位に挙げられています。また、10代では「学習機会の確保・学力低下」(25.8%)が第3位となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと・心配ごとについて (全体/複数回答)



新型コロナウイルス感染症の影響による困りごと・心配ごとについて（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		外出制限による交流機会などの減少 49.5%	支出の増加 27.9%	スポーツや文化活動の機会の減少 23.9%
性別	男性	外出制限による交流機会などの減少 47.5%	支出の増加 31.2%	スポーツや文化活動の機会の減少 28.5%
	女性	外出制限による交流機会などの減少 51.3%	支出の増加 25.1%	感染の状況や感染防止対策などの情報不足 22.7%
年齢	10代	外出制限による交流機会などの減少 45.2%	スポーツや文化活動の機会の減少 29.0%	学習機会の確保・学力低下 25.8%
	20代	外出制限による交流機会などの減少 47.6%	支出の増加 23.8%	体調不良・健康状態の悪化 21.4%
	30代	外出制限による交流機会などの減少 54.9%	支出の増加 38.0%	スポーツや文化活動の機会の減少 26.8%
	40代	外出制限による交流機会などの減少 44.2%	支出の増加 29.1%	スポーツや文化活動の機会の減少 25.6%
	50代	外出制限による交流機会などの減少 50.6%	支出の増加 30.5%	スポーツや文化活動の機会の減少 26.0%
	60代	外出制限による交流機会などの減少 50.6%	感染の状況や感染防止対策などの情報不足 27.3%	支出の増加 26.7%
	70歳以上	外出制限による交流機会などの減少 47.9%	スポーツや文化活動の機会の減少/感染の状況や感染防止対策などの情報不足/特にない 24.7%	支出の増加 21.9%
居住地域	殿	外出制限による交流機会などの減少 47.4%	支出の増加 26.3%	感染の状況や感染防止対策などの情報不足 23.7%
	須原	外出制限による交流機会などの減少 52.6%	スポーツや文化活動の機会の減少 33.3%	感染の状況や感染防止対策などの情報不足 29.8%
	長野	外出制限による交流機会などの減少 48.0%	支出の増加 31.8%	スポーツや文化活動の機会の減少 20.7%
	野尻	外出制限による交流機会などの減少 50.2%	支出の増加 25.9%	スポーツや文化活動の機会の減少 22.8%

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響に関して、重点的に実施してほしい施策について

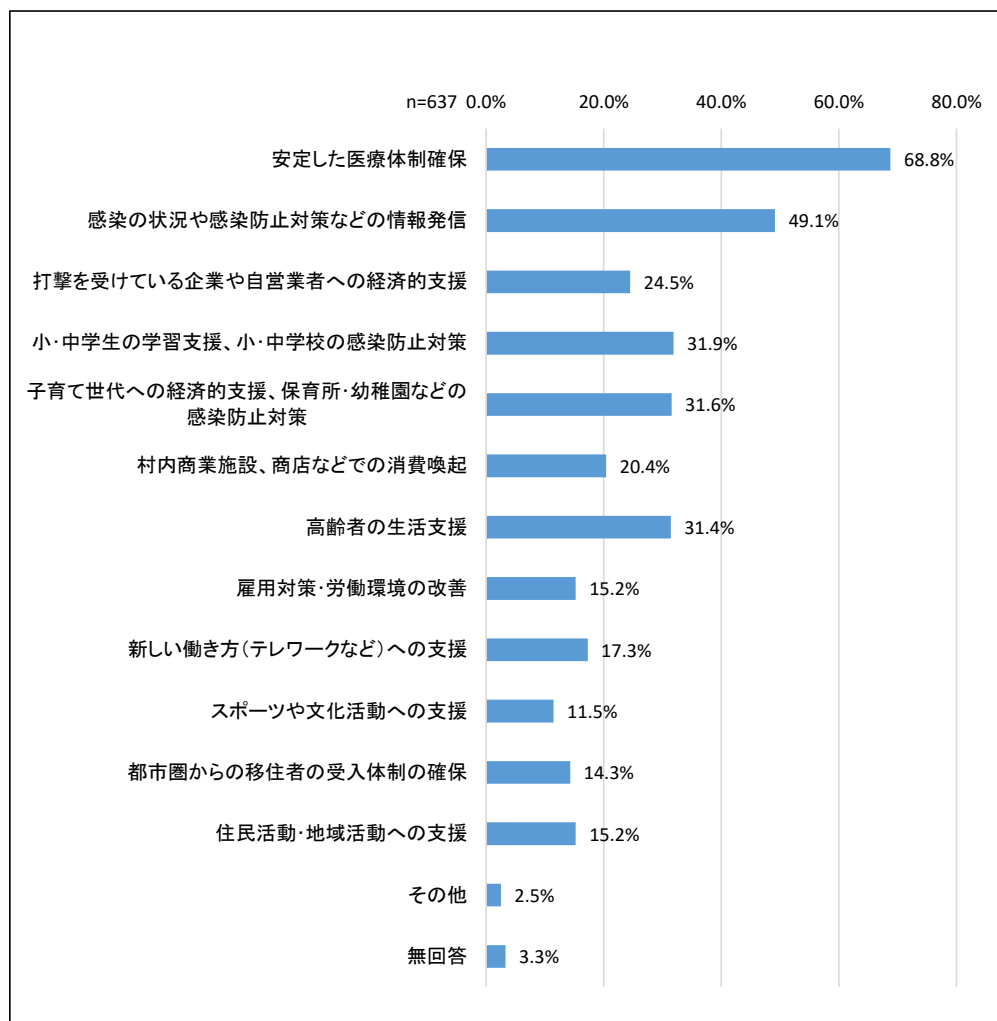
問 12 あなたが、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続いた場合に、重点的に実施してほしいと考える施策は何ですか。【複数回答】

- 「安定した医療体制確保」が第1位。次いで「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」、「小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策」の順。

新型コロナウイルス感染症の影響に関して、重点的に実施してほしい施策についてたずねたところ、「安定した医療体制確保」(68.8%)が第1位に挙げられ、次いで「感染の状況や感染防止対策などの情報発信」(49.1%)、「小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策」(31.9%)と続いています。

属性別でも、すべての層で「安定した医療体制確保」が全体と同様に第1位に挙げられています。

新型コロナウイルス感染症の影響に関して、重点的に実施してほしい施策について (全体/複数回答)



新型コロナウイルス感染症の影響に関して、重点的に実施してほしい施策について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		安定した医療体制確保 68.8%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 49.1%	小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策 31.9%
性別	男性	安定した医療体制確保 66.8%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 45.4%	子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策/高齢者の生活支援 30.2%
	女性	安定した医療体制確保 70.2%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 52.2%	小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策 33.6%
年齢	10代	安定した医療体制確保 58.1%	小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策 54.8%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 41.9%
	20代	安定した医療体制確保 52.4%	子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策 42.9%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 31.0%
	30代	安定した医療体制確保 64.8%	子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策 59.2%	新しい働き方（テレワークなど）への支援 42.3%
	40代	安定した医療体制確保 70.9%	小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策 46.5%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 43.0%
	50代	安定した医療体制確保 75.3%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 53.2%	高齢者の生活支援 29.2%
	60代	安定した医療体制確保 70.5%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 59.1%	高齢者の生活支援 42.0%
	70歳以上	安定した医療体制確保 65.8%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 58.9%	高齢者の生活支援 45.2%
居住地域	殿	安定した医療体制確保 75.0%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 51.3%	小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策 36.8%
	須原	安定した医療体制確保 75.4%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 47.4%	子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策 34.2%
	長野	安定した医療体制確保 70.4%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 47.5%	小・中学生の学習支援、小・中学校の感染防止対策/子育て世代への経済的支援、保育所・幼稚園などの感染防止対策 35.8%
	野尻	安定した医療体制確保 62.7%	感染の状況や感染防止対策などの情報発信 50.2%	高齢者の生活支援 35.4%

9 村のデジタル化の推進について

(1) 大桑村の行政情報の入手方法について

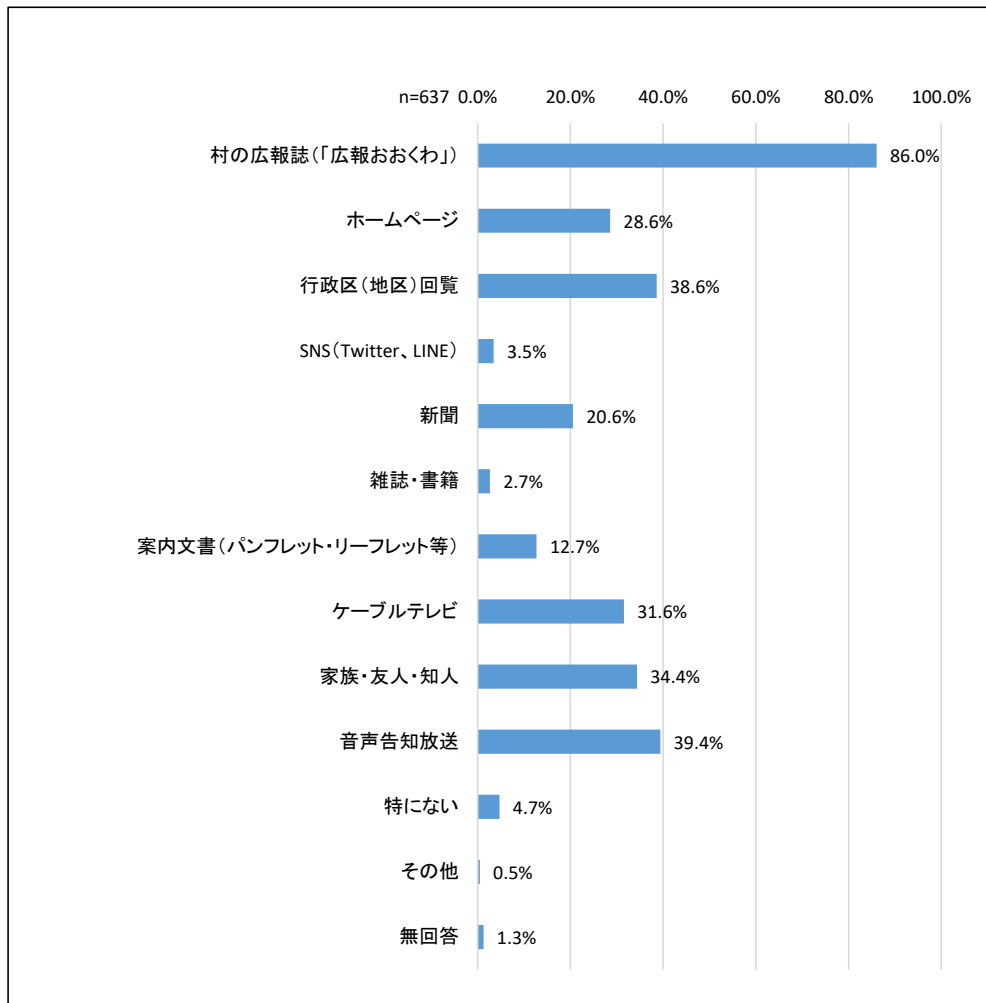
問 13 あなたは、大桑村の行政情報をどのように入手していますか。【複数回答】

- 「村の広報誌（「広報おおくわ」）」が第1位。次いで「音声告知放送」、「行政区（地区）回覧」の順。

村の行政情報の入手方法についてたずねたところ、「村の広報誌（「広報おおくわ」）」（86.0%）が第1位に挙げられ、次いで「音声告知放送」（39.4%）、「行政区（地区）回覧」（38.6%）と続いています。

属性別でも、すべての層で「村の広報誌（「広報おおくわ」）」が全体と同様に第1位に挙げられています。また、70歳以上では「新聞」（47.9%）も上位に挙げられています。

大桑村の行政情報の入手方法について（全体／複数回答）



大桑村の行政情報の入手方法について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		村の広報誌（「広報おおくわ」） 86.0%	音声告知放送 39.4%	行政区（地区）回覧 33.6%
性別	男性	村の広報誌（「広報おおくわ」） 80.7%	行政区（地区）回覧 39.0%	音声告知放送 36.6%
	女性	村の広報誌（「広報おおくわ」） 90.6%	音声告知放送 42.2%	家族・友人・知人 39.5%
年齢	10代	村の広報誌（「広報おおくわ」） 61.3%	家族・友人・知人 32.3%	音声告知放送 25.8%
	20代	村の広報誌（「広報おおくわ」） 76.2%	家族・友人・知人 59.5%	ホームページ 35.7%
	30代	村の広報誌（「広報おおくわ」） 84.5%	ホームページ 43.7%	家族・友人・知人 39.4%
	40代	村の広報誌（「広報おおくわ」） 86.0%	音声告知放送 45.3%	ケーブルテレビ 37.2%
	50代	村の広報誌（「広報おおくわ」） 90.3%	音声告知放送 42.9%	行政区（地区）回覧 35.7%
	60代	村の広報誌（「広報おおくわ」） 88.1%	行政区（地区）回覧 47.7%	音声告知放送 38.1%
	70歳以上	村の広報誌（「広報おおくわ」） 90.4%	行政区（地区）回覧 64.4%	新聞 47.9%
居住地域	殿	村の広報誌（「広報おおくわ」） 80.3%	音声告知放送 47.4%	行政区（地区）回覧 46.1%
	須原	村の広報誌（「広報おおくわ」） 88.6%	音声告知放送 48.2%	行政区（地区）回覧 40.4%
	長野	村の広報誌（「広報おおくわ」） 86.0%	音声告知放送 38.5%	行政区（地区）回覧 31.8%
	野尻	村の広報誌（「広報おおくわ」） 86.7%	行政区（地区）回覧 39.9%	家族・友人・知人 39.5%

(2) 行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待について

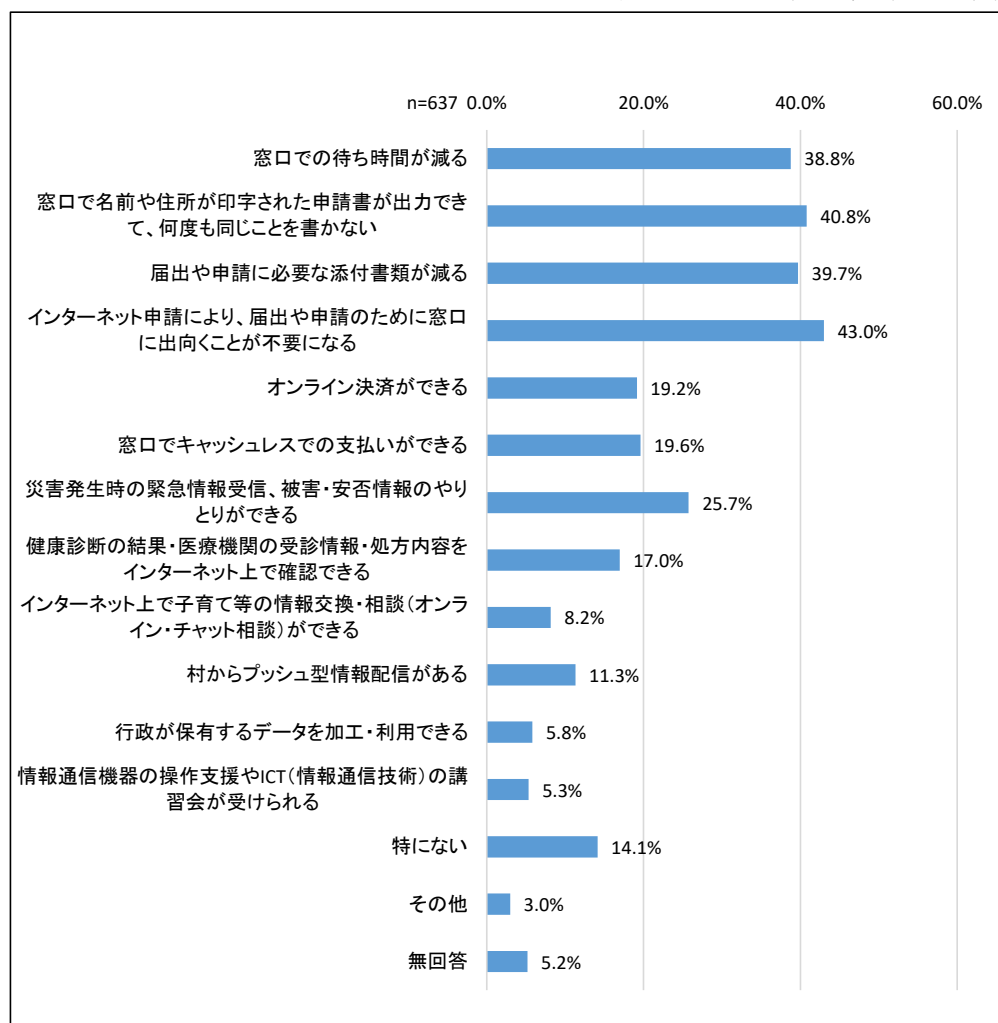
問 14 あなたは、行政手続きや行政サービスがデジタル化されることで、どのように良くなることを期待しますか。【複数回答】

- 「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」が第1位。次いで「窓口で名前や住所が印字された申請書が出力できて、何度も同じことを書かない」、「届出や申請に必要な添付書類が減る」の順。

行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待についてたずねたところ、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」(43.0%)が第1位に挙げられ、次いで「窓口で名前や住所が印字された申請書が出力できて、何度も同じことを書かない」(40.8%)、「届出や申請に必要な添付書類が減る」(39.7%)と続いています。

属性別でも、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」「窓口で名前や住所が印字された申請書が出力できて、何度も同じことを書かない」が上位に挙げられています。

行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待について（全体／複数回答）



行政手続きや行政サービスのデジタル化による期待について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 43.0%	申請書に何度も同じことを書かない 40.8%	届出や申請に必要な添付書類が減る 39.7%
性別	男性	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 48.5%	窓口での待ち時間が減る 42.4%	申請書に何度も同じことを書かない 42.0%
	女性	届出や申請に必要な添付書類が減る 40.1%	申請書に何度も同じことを書かない 39.5%	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 37.8%
年齢	10代	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる/窓口での待ち時間が減る 35.5%	特にな 32.3%	申請書に何度も同じことを書かない/届出や申請に必要な添付書類が減る 29.0%
	20代	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる/届出や申請に必要な添付書類が減る 47.6%	窓口での待ち時間が減る 45.2%	申請書に何度も同じことを書かない 40.5%
	30代	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 57.7%	届出や申請に必要な添付書類が減る 49.3%	申請書に何度も同じことを書かない 46.5%
	40代	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 59.3%	届出や申請に必要な添付書類が減る 53.5%	申請書に何度も同じことを書かない 47.7%
	50代	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 46.8%	申請書に何度も同じことを書かない 44.2%	窓口での待ち時間が減る 40.9%
	60代	申請書に何度も同じことを書かない 39.8%	窓口での待ち時間が減る 35.8%	届出や申請に必要な添付書類が減る 34.7%
	70歳以上	窓口での待ち時間が減る 32.9%	申請書に何度も同じことを書かない 27.4%	届出や申請に必要な添付書類が減る 24.7%
居住地域	殿	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 48.7%	申請書に何度も同じことを書かない 44.7%	届出や申請に必要な添付書類が減る 43.4%
	須原	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 45.6%	届出や申請に必要な添付書類が減る 41.2%	申請書に何度も同じことを書かない 39.5%
	長野	届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる 44.1%	申請書に何度も同じことを書かない 40.2%	窓口での待ち時間が減る 39.1%
	野尻	窓口での待ち時間が減る 41.1%	申請書に何度も同じことを書かない 40.7%	届出や申請に必要な添付書類が減る 39.9%

(3) マイナンバーカードの取得について

問 15 あなたは、マイナンバーカードを持っていますか。または交付申請しましたか。

- 「持っているまたは交付申請中」が第1位。次いで「持っていないが、取得する予定である」、「持っておらず、取得する予定もない」の順。

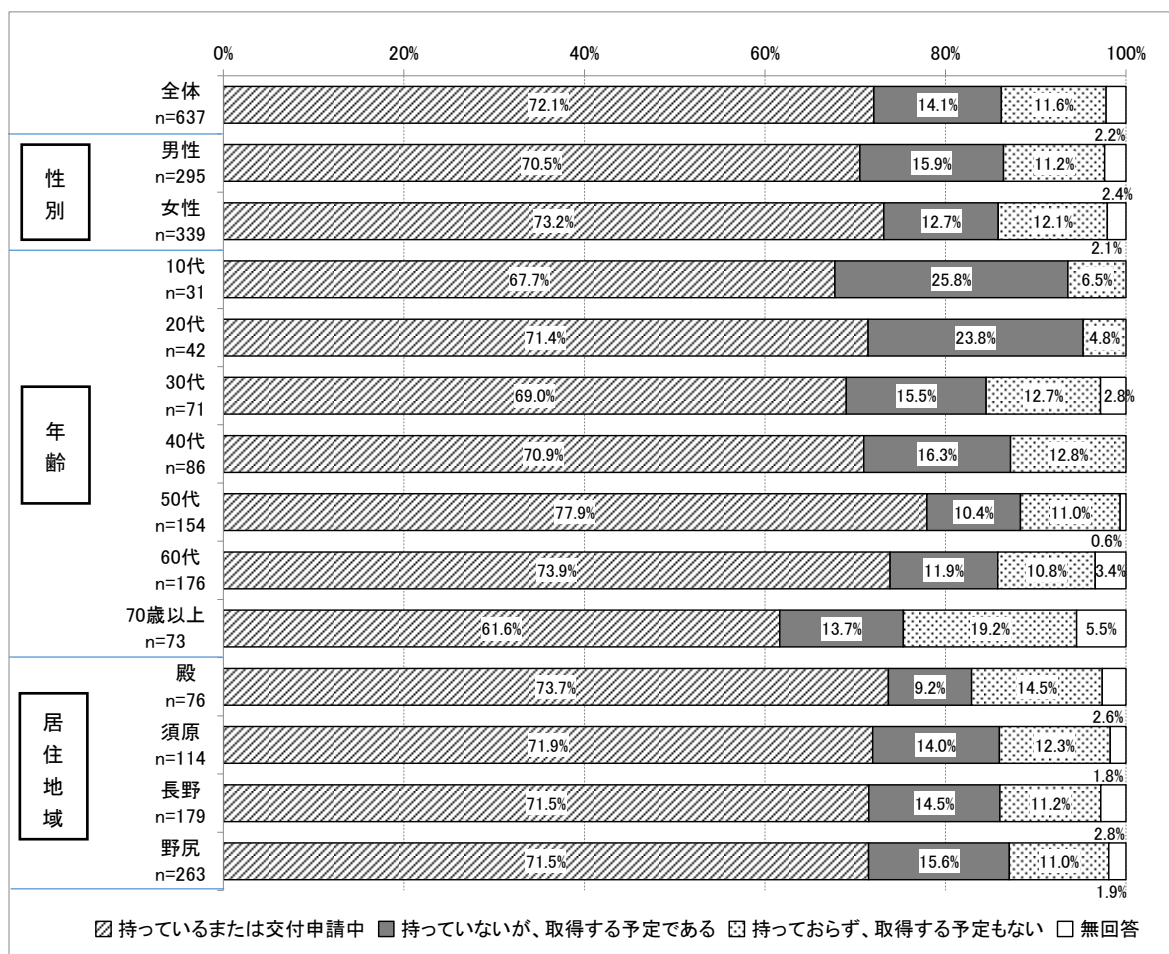
マイナンバーカードの取得については、「持っているまたは交付申請中」と答えた人が72.1%、「持っていないが、取得する予定である」と答えた人が14.1%、「持っておらず、取得する予定もない」と答えた人が11.6%となっています。

属性別で「持っているまたは交付申請中」の割合をみると、性別では、女性が73.2%と男性（70.5%）をわずかに上回っています。

年齢別では、50代（77.9%）が最も高く、70歳以上（61.6%）が最も低くなっています。

居住地域別では、殿（和村地区含む）が73.7%、須原が71.9%、長野（伊奈川地区含む）・野尻が71.5%と大きな差はみられませんでした。

マイナンバーカードの取得について（全体・性別・年齢・居住地域）



(4) マイナンバーカード利用への期待について

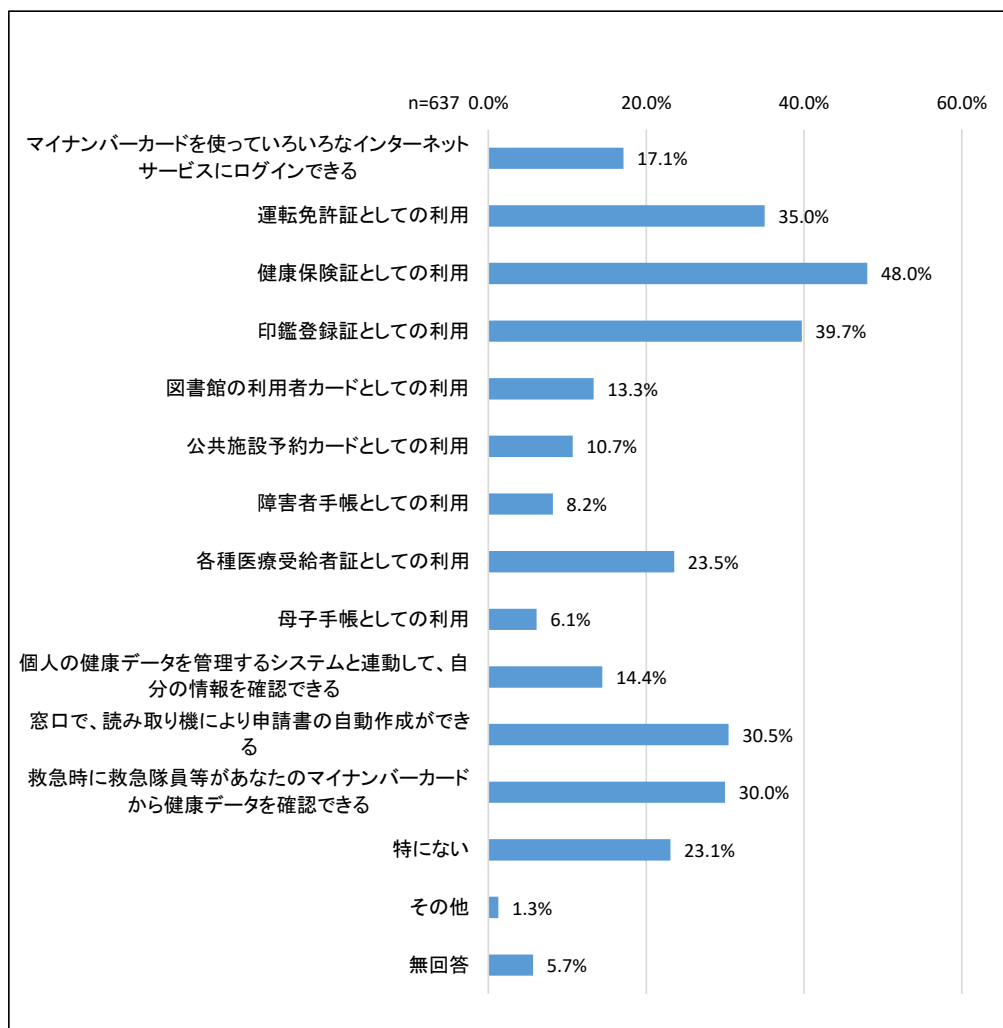
問 16 あなたは、マイナンバーカードで何ができることに期待しますか。【複数回答】

- 「健康保険証としての利用」が第1位。次いで「印鑑登録証としての利用」、「運転免許証としての利用」の順。

マイナンバーカード利用への期待についてたずねたところ、「健康保険証としての利用」(48.0%)が第1位に挙げられ、次いで「印鑑登録証としての利用」(39.7%)、「運転免許証としての利用」(35.0%)と続いています。

属性別でも、すべての層で「健康保険証としての利用」が全体と同様に第1位に挙げられています。また、10代では「救急時に救急隊員等があなたのマイナンバーカードから健康データを確認できる」「マイナンバーカードを使っていろいろなインターネットサービスにログインできる」が上位に挙げられています。

マイナンバーカードの利用への期待について (全体/複数回答)



マイナンバーカードの利用への期待について（全体・性別・年齢・居住地域－上位第3位／複数回答）

		第1位	第2位	第3位
全体		健康保険証としての利用 48.0%	印鑑登録証としての利用 39.7%	運転免許証としての利用 35.0%
性別	男性	健康保険証としての利用 52.5%	印鑑登録証としての利用 46.1%	運転免許証としての利用 41.7%
	女性	健康保険証としての利用 44.2%	印鑑登録証としての利用 33.9%	運転免許証としての利用 29.2%
年齢	10代	健康保険証としての利用 45.2%	救急隊員等が健康データを 確認できる 41.9%	いろいろなインターネットサービスに ログインできる 38.7%
	20代	健康保険証としての利用 38.1%	運転免許証としての利用 35.7%	印鑑登録証としての利用 33.3%
	30代	健康保険証としての利用 45.1%	印鑑登録証としての利用 43.7%	運転免許証としての利用 39.4%
	40代	健康保険証としての利用 47.7%	運転免許証としての利用 40.7%	印鑑登録証としての利用 38.4%
	50代	健康保険証としての利用 50.6%	印鑑登録証としての利用 40.3%	運転免許証としての利用 32.5%
	60代	健康保険証としての利用 53.4%	印鑑登録証としての利用 43.8%	運転免許証としての利用 38.6%
	70歳以上	健康保険証としての利用 39.7%	印鑑登録証としての利用 37.0%	特にな い 28.8%
居住地域	殿	健康保険証としての利用 57.9%	印鑑登録証としての利用 48.7%	運転免許証としての利用 42.1%
	須原	健康保険証としての利用 49.1%	印鑑登録証としての利用 39.5%	読み取り機により申請書の自動作成ができる 35.1%
	長野	健康保険証としての利用 48.0%	印鑑登録証としての利用 36.3%	運転免許証としての利用 35.2%
	野尻	健康保険証としての利用 45.2%	印鑑登録証としての利用 39.5%	運転免許証としての利用 33.8%

(5) デジタル化の進展による影響について

問 17 あなたは、デジタル化が進展することによって生じる影響について、どのようにお考えですか。



デジタル化の進展に対する意識を探るため、以下の12の項目についてたずね、「そう思う」「ややそう思う」「わからない」「あまり思わない」「思わない」の中から1つを選んでもらいました。

1. 「必要な情報が入手しやすくなる」に対し“そう思う”が67.3%、“思わない”が6.6%。

「そう思う」と答えた人(33.9%)が最も多く、これに「ややそう思う」(33.4%)をあわせた“そう思う”という人が67.3%となっています。これに対し、“思わない”という人(「あまり思わない」5.3%と「思わない」1.3%の合計)は6.6%にとどまります。

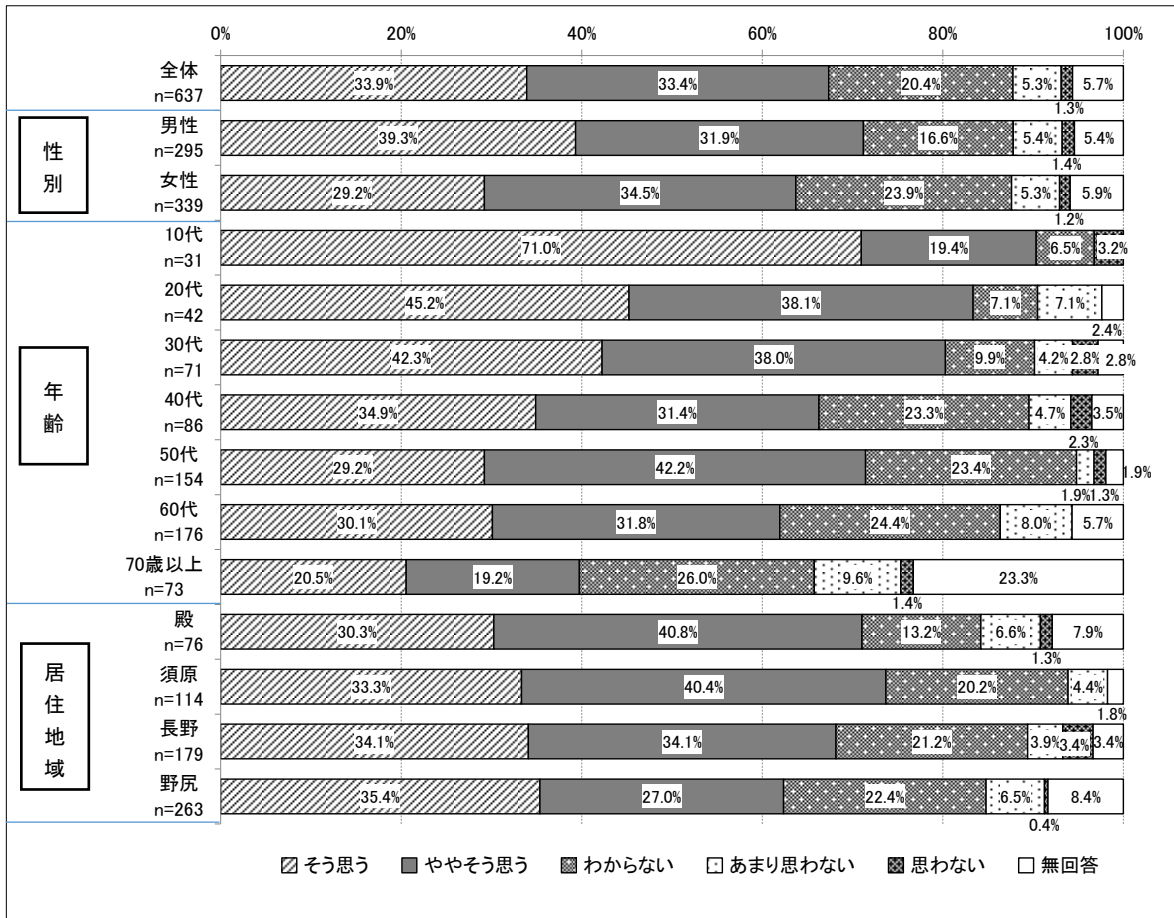
属性別で“そう思う”率をみると、性別では、男性(71.2%)が女性(63.7%)を上回っています。

年齢別では、年齢層が高くなるにつれて“そう思う”率が低くなる傾向があり、10代では9割を超えているのに対し、70歳以上では39.7%と4割を下回っています。

居住地域別では、須原(73.7%)が最も高く、次いで殿(和村地区含む)が71.1%、長野(伊奈川地区含む)が68.2%、野尻が62.4%となっています。

デジタル化が進展することで、「必要な情報が入手しやすくなる」

(全体・性別・年齢・居住地域)



3. 「生活に時間的な余裕が増える」に対し“そう思う”が33.1%、“思わない”が22.9%。

「わからない」(38.0%)と答えた人が最も多い結果となっています。

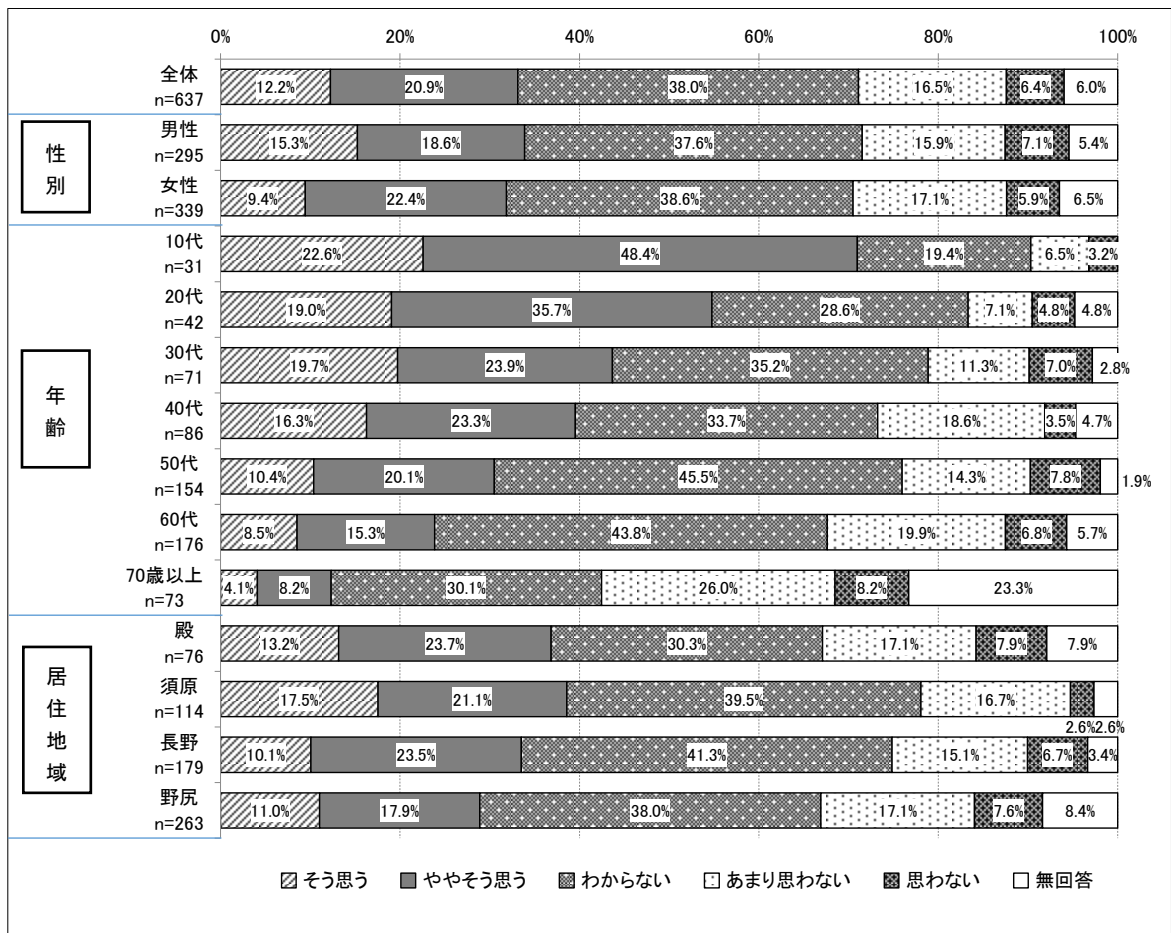
「そう思う」(12.2%)と「ややそう思う」(20.9%)をあわせた“そう思う”という人が33.1%となり、“思わない”という人(「あまり思わない」16.5%と「思わない」6.4%の合計)は22.9%となっています。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、男性(33.9%)が女性(31.8%)をわずかに上回っています。

年齢別では、年齢層が高くなるにつれて“そう思う”率が低くなる傾向があり、10代では7割を超えているのに対し、70歳以上では12.3%と2割を下回っています

居住地域別では、須原(38.6%)が最も高く、次いで殿(和村地区含む)が36.9%、長野(伊奈川地区含む)が33.6%、野尻が28.9%となっています。

デジタル化が進展することで、「生活に時間的な余裕が増える」
(全体・性別・年齢・居住地域)



4. 「人と人との交流が多くなる」に対し“そう思う”が10.4%、“思わない”が42.9%。

「わからない」(41.1%)と答えた人が最も多い結果となっています。

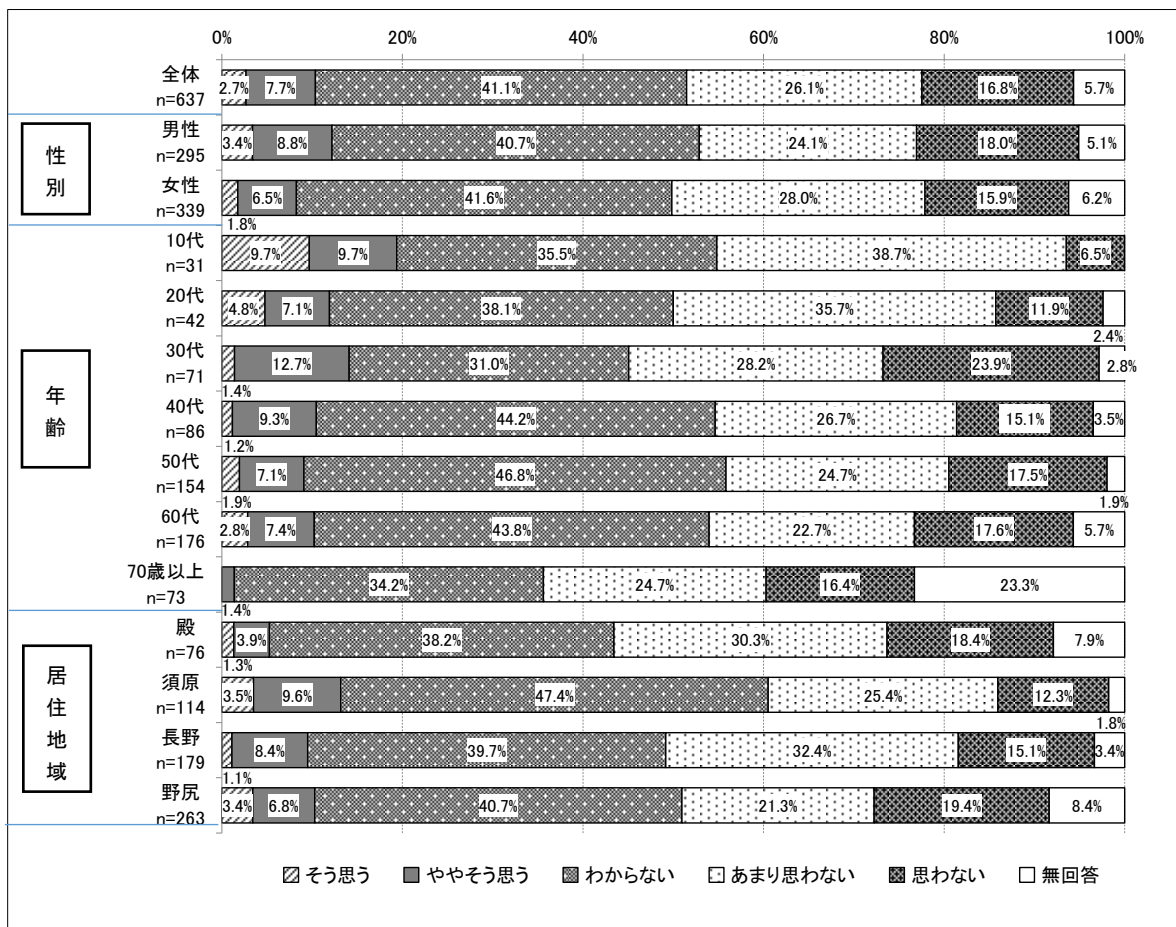
「そう思う」(2.7%)と「ややそう思う」(7.7%)をあわせた“そう思う”という人が10.4%となり、“思わない”という人(「あまり思わない」26.1%と「思わない」16.8%の合計)は42.9%となっています。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、男性(12.2%)が女性(8.3%)を上回っています。

年齢別では、10代の19.4%が最も高く、70歳以上の1.4%が最も低くなっています。

居住地域別では、須原(13.1%)が最も高く、次いで野尻が10.2%、長野(伊奈川地区含む)が9.5%、殿(和村地区含む)が5.2%となっています。

デジタル化が進展することで、「人と人との交流が多くなる」
(全体・性別・年齢・居住地域)



5. 「仕事がしやすくなる」に対し“そう思う”が27.5%、“思わない”が22.5%。

「わからない」(44.4%)と答えた人が最も多い結果となっています。

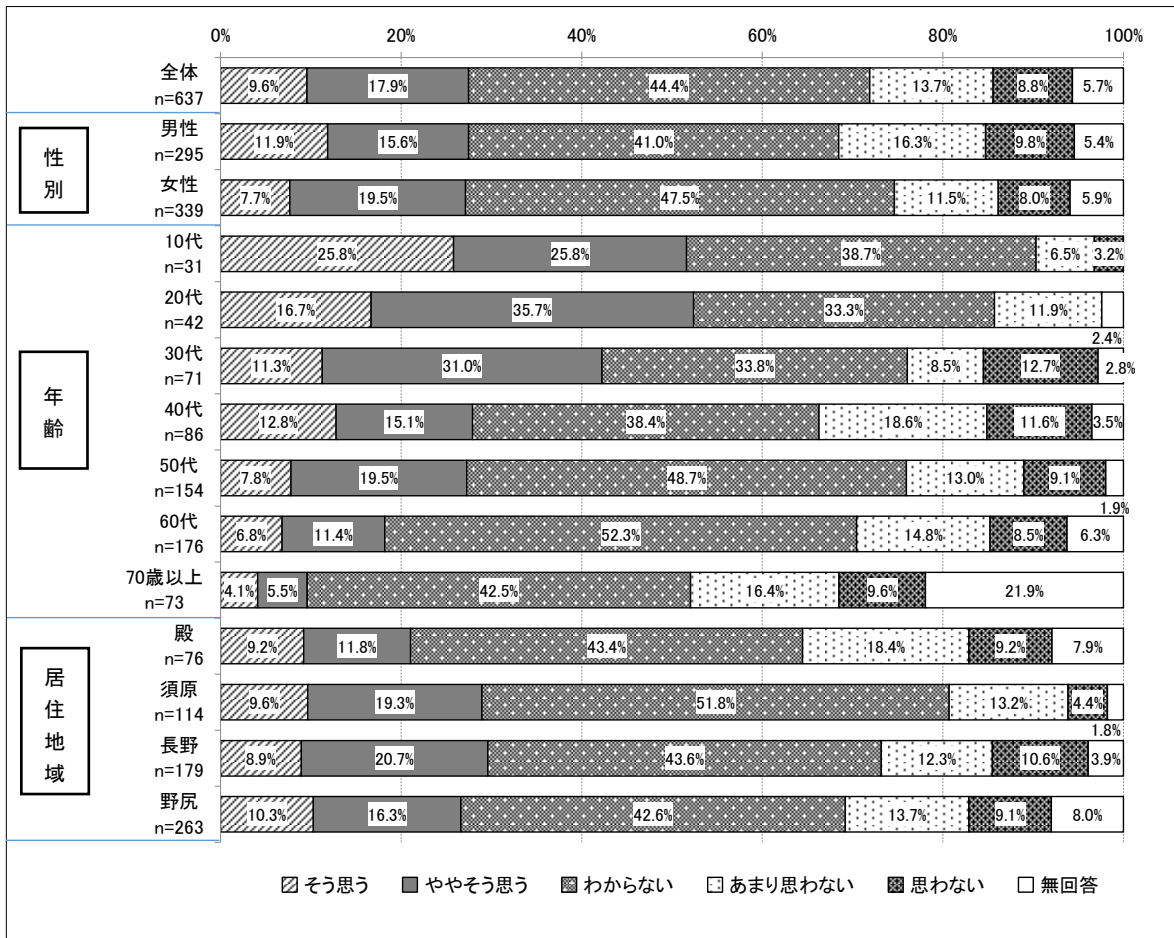
「そう思う」(9.6%)と「ややそう思う」(17.9%)をあわせた“そう思う”という人が27.5%となり、“思わない”という人(「あまり思わない」13.7%と「思わない」8.8%の合計)は22.5%となっています。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、男性(27.5%)と女性(27.2%)で差はみられませんでした。

年齢別では、概ね年齢層が高くなるにつれて“そう思う”率が低くなる傾向があり、20代(52.4%)が最も高く、70歳以上(9.6%)が最も低くなっています。

居住地域別では、長野(伊奈川地区含む)(29.6%)が最も高く、次いで須原が28.9%、野尻が26.6%、殿(和村地区含む)が21.0%となっています。

デジタル化が進展することで、「仕事がしやすくなる」
(全体・性別・年齢・居住地域)



6. 「地域経済が豊かになる」に対し“そう思う”が14.3%、“思わない”が29.0%。

「わからない」(50.2%)と答えた人が最も多い結果となっています。

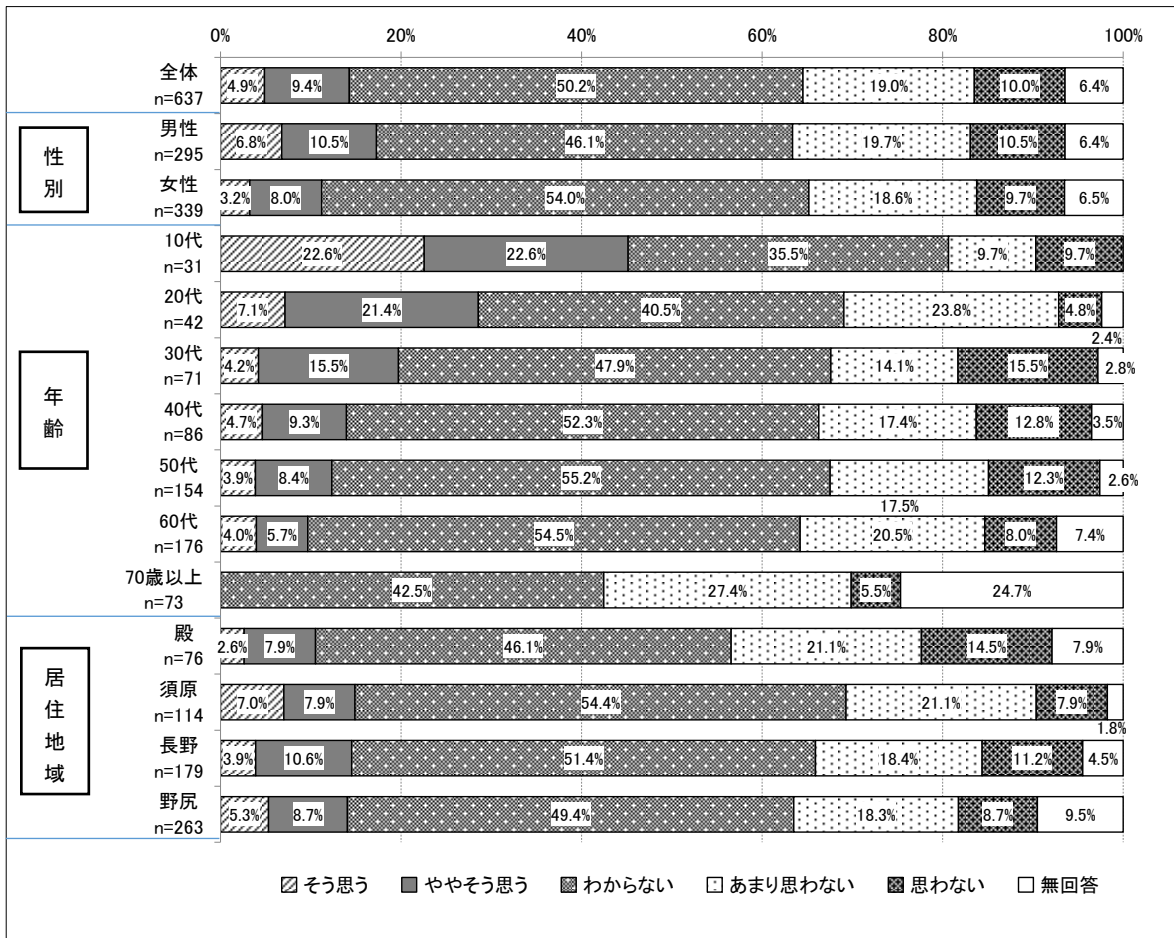
「そう思う」(4.9%)と「ややそう思う」(9.4%)をあわせた“そう思う”という人が14.3%となり、“思わない”という人(「あまり思わない」19.0%と「思わない」10.0%の合計)は29.0%となっています。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、男性(17.3%)が女性(11.2%)を上回っています。

年齢別では、年齢層が高くなるにつれて“そう思う”率が低くなる傾向があり、10代では4割を超えているのに対し、70歳以上では0.0%となっています。

居住地域別では、須原(14.9%)が最も高く、次いで長野(伊奈川地区含む)が14.5%、野尻が14.0%、殿(和村地区含む)が10.5%となっています。

デジタル化が進展することで、「地域経済が豊かになる」
(全体・性別・年齢・居住地域)



7. 「人と人との接触を減らすことができる」に対し“そう思う”が55.5%、“思わない”が7.7%。

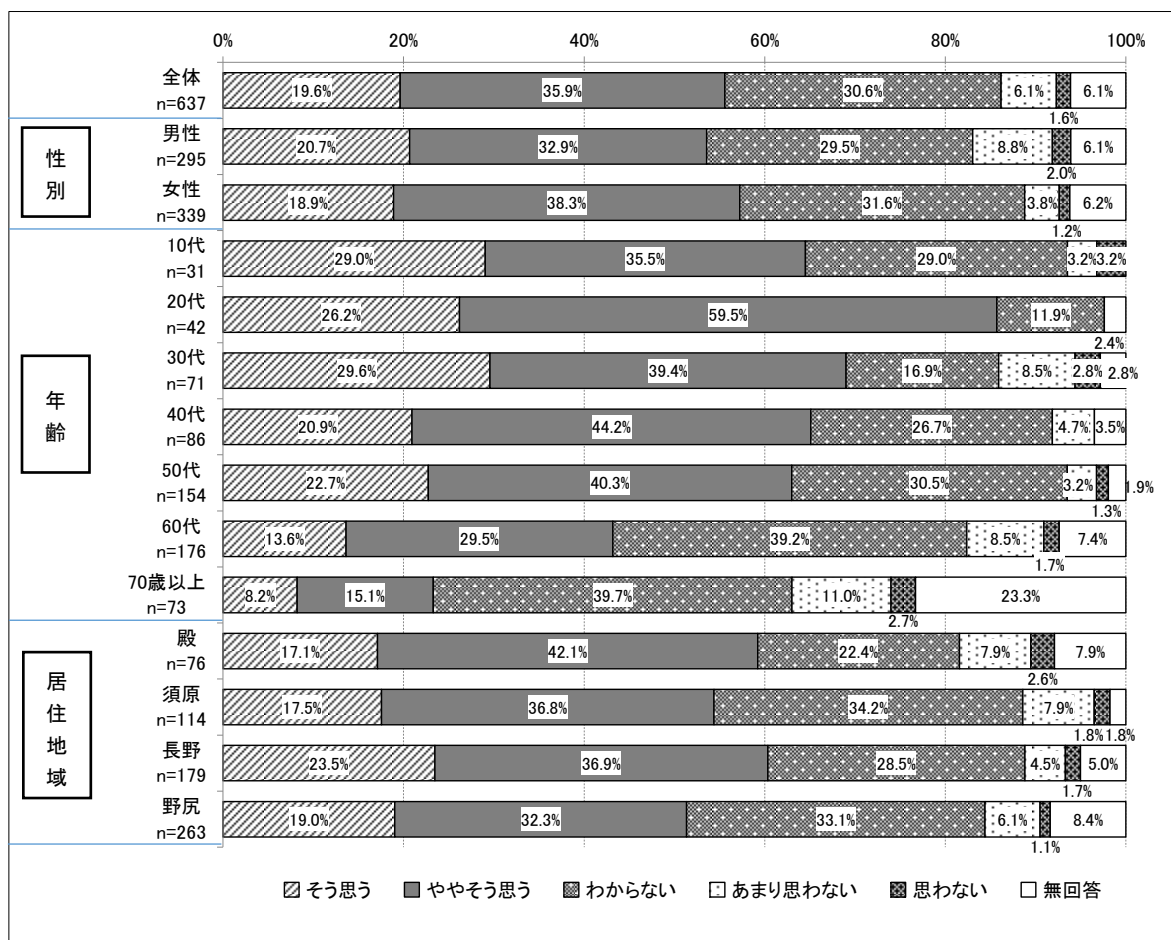
「ややそう思う」(35.9%)と答えた人が最も多く、これに「そう思う」(19.6%)をあわせた“そう思う”という人が55.5%となっています。これに対し、“思わない”という人(「あまり思わない」6.1%と「思わない」1.6%の合計)は7.7%にとどまります。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、女性(57.2%)が男性(53.6%)を上回っています。

年齢別では、20代(85.7%)が最も高く、70歳以上(23.3%)が最も低くなっています。

居住地域別では、長野(伊奈川地区含む)(60.4%)が最も高く、次いで殿(和村地区含む)が59.2%、須原が54.3%、野尻が51.3%となっています。

デジタル化が進展することで、「人と人との接触を減らすことができる」
(全体・性別・年齢・居住地域)



8. 「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる」に対し
 “そう思う” が74.1%、“思わない” が3.0%。

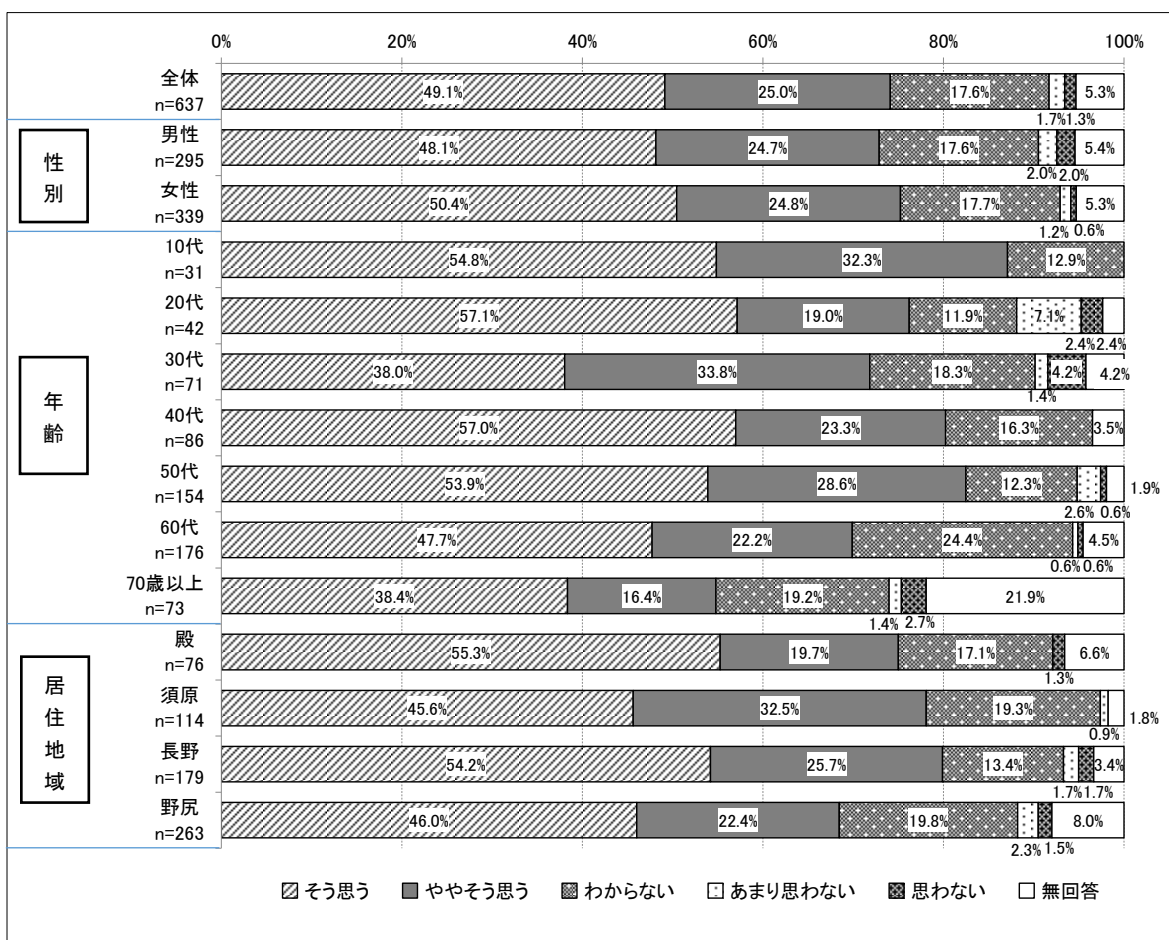
「そう思う」(49.1%)と答えた人が最も多く、これに「ややそう思う」(25.0%)をあ
 わせた“そう思う”という人が74.1%となっています。これに対し、“思わない”とい
 う人(「あまり思わない」1.7%と「思わない」1.3%の合計)は3.0%にとどまります。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、女性(75.2%)が男性(72.8%)をわずか
 に上回っています。

年齢別では、10代が最も高く(87.1%)、70歳以上(54.8%)が最も低くなっていま
 す。

居住地域別では、長野(伊奈川地区含む)(79.9%)が最も高く、次いで須原が78.1%、
 殿(和村地区含む)が75.0%、野尻が68.4%となっています。

デジタル化が進展することで、
 「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に格差が生じる」
 (全体・性別・年齢・居住地域)



9. 「情報が氾濫し、取捨選択が困難になる」に対し“そう思う”が51.1%、“思わない”が8.7%。

「わからない」(34.2%)と答えた人が最も多い結果となっています。

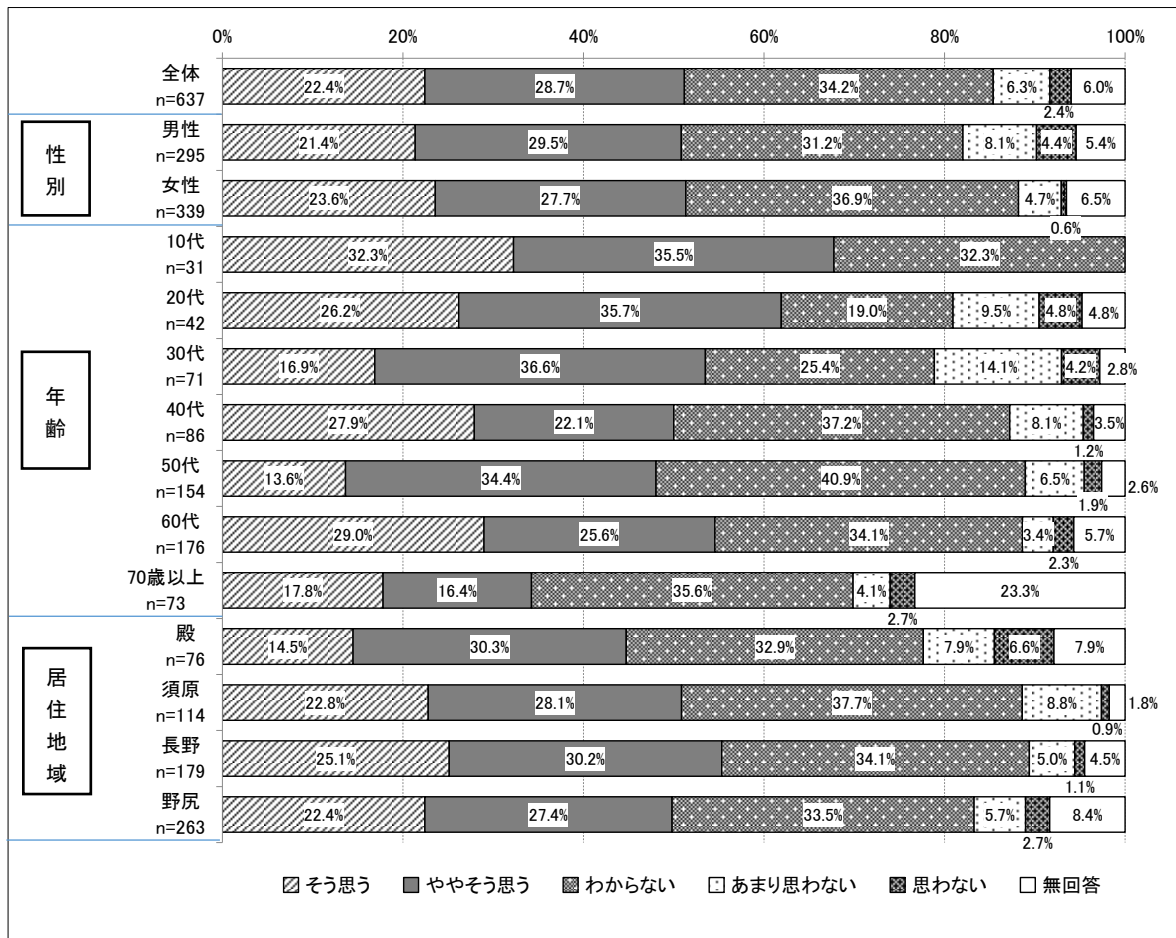
「そう思う」(22.4%)と「ややそう思う」(28.7%)をあわせた“そう思う”という人が51.1%となり、“思わない”という人(「あまり思わない」6.3%と「思わない」2.4%の合計)は8.7%にとどまります。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、女性(51.3%)が男性(50.9%)をわずかに上回っています。

年齢別では、10代が最も高く、10代と20代で6割を超えているのに対し、70歳以上では34.2%と最も低くなっています。

居住地域別では、長野(伊奈川地区含む)(55.3%)が最も高く、次いで須原が50.9%、野尻が49.8%、殿(和村地区含む)が44.8%となっています。

デジタル化が進展することで、「情報が氾濫し、取捨選択が困難になる」
(全体・性別・年齢・居住地域)



10. 「機器の購入や通信費などの経済的負担が増加する」に対し“そう思う”が53.9%、“思わない”が7.2%。

「わからない」(33.1%)と答えた人が最も多い結果となっています。

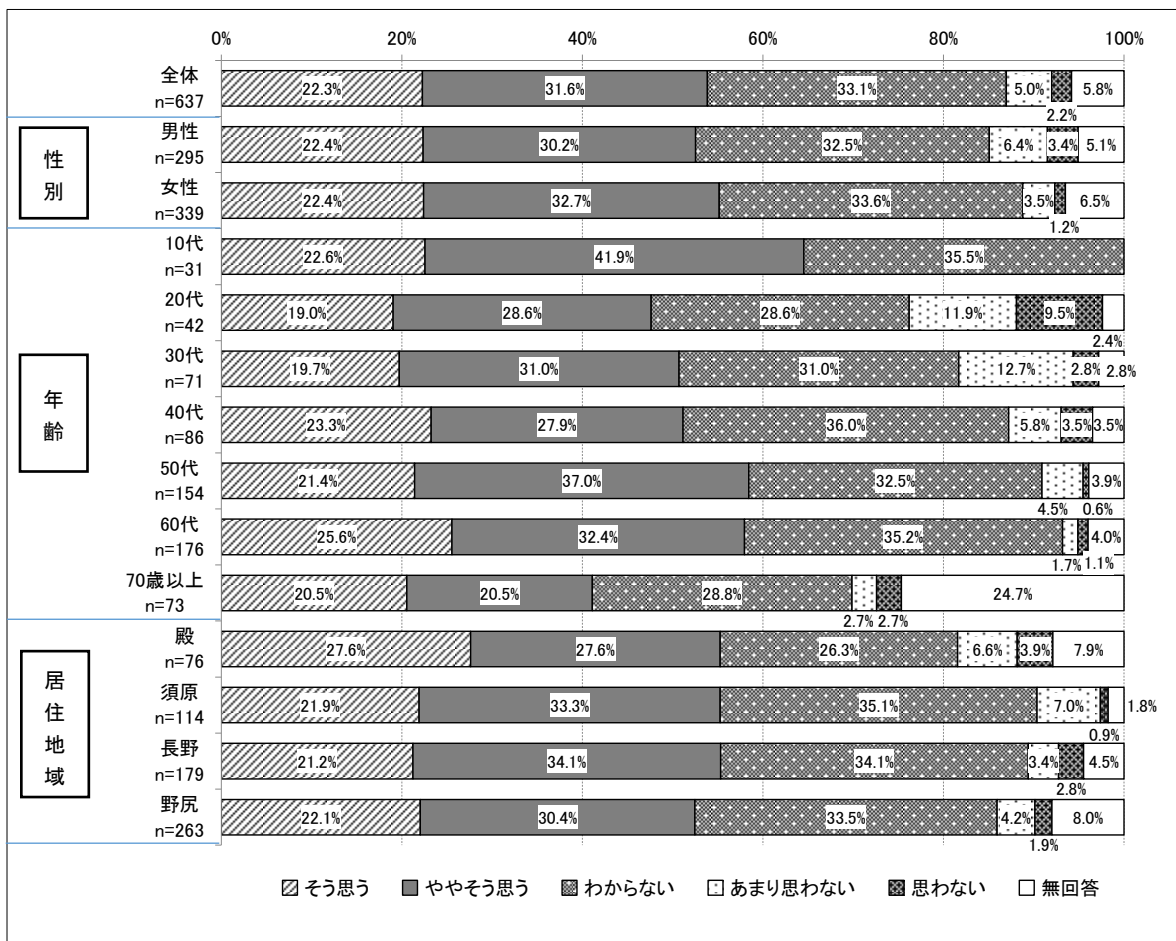
「そう思う」(22.3%)と「ややそう思う」(31.6%)をあわせた“そう思う”という人が53.9%となり、“思わない”という人(「あまり思わない」5.0%と「思わない」2.2%の合計)は7.2%にとどまります。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、女性(55.1%)が男性(52.6%)を上回っています。

年齢別では、10代が最も高く6割を超えており、70歳以上では41.0%と最も低くなっています。

居住地域別では、長野(伊奈川地区含む)が55.3%、殿(和村地区含む)、須原が同率55.2%、野尻が52.5%と、大きな差はみられませんでした。

デジタル化が進展することで、「機器の購入や通信費などの経済的負担が増加する」
(全体・性別・年齢・居住地域)



11. 「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険性がある」に対し“そう思う”が73.6%、“思わない”が4.3%。

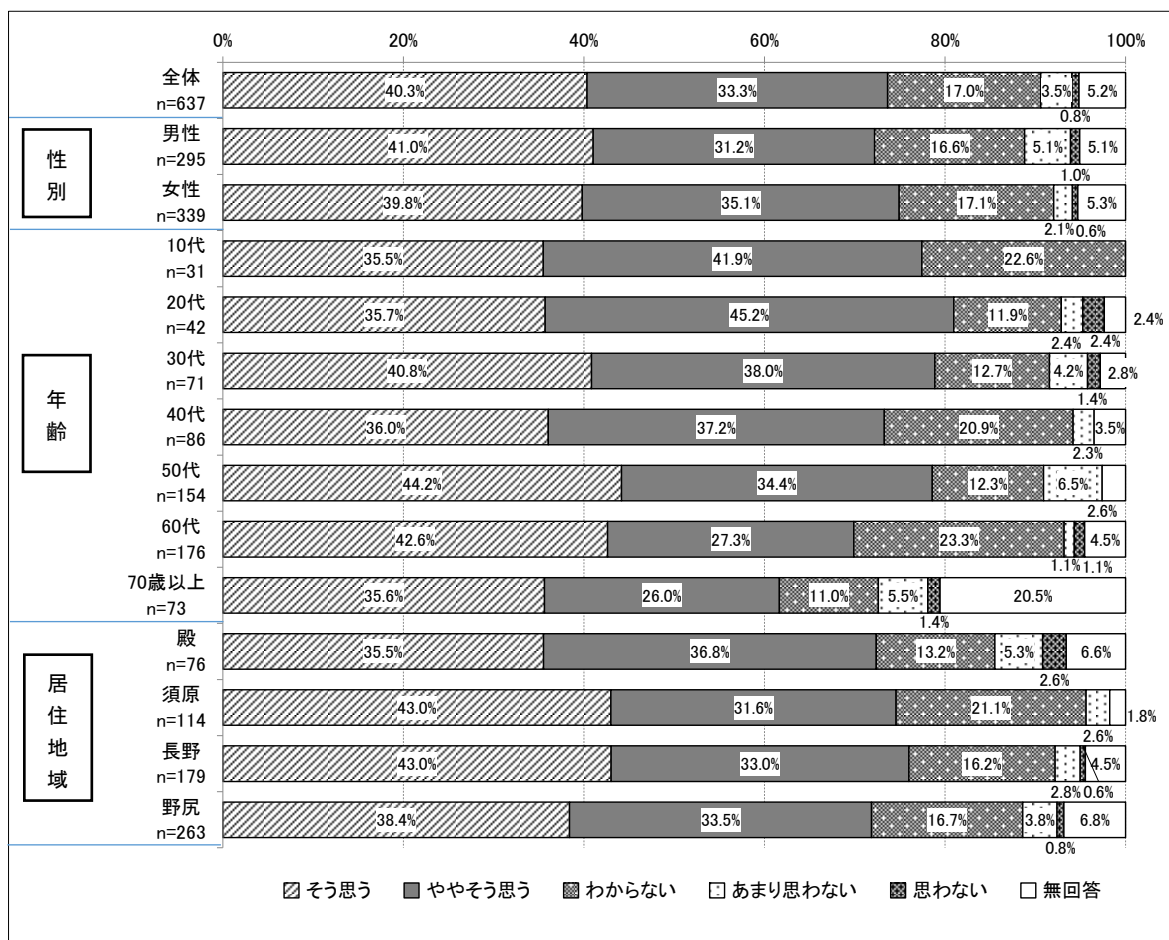
「そう思う」(40.3%)と答えた人が最も多く、これに「ややそう思う」(33.3%)をあわせた“そう思う”という人が73.6%となっています。これに対し、“思わない”という人(「あまり思わない」3.5%と「思わない」0.8%の合計)は4.3%にとどまります。

属性別で“そう思う”率をみると、性別では、女性(74.9%)が男性(72.2%)をわずかに上回っています。

年齢別では、20代が最も高く8割を超えており、70歳以上が61.6%と最も低くなっています。

居住地域別では、長野(伊奈川地区含む)が76.0%、須原が74.6%、殿(和村地区含む)が72.3%、野尻が71.9%と、大きな差はみられませんでした。

デジタル化が進展することで、
「個人情報の流出やプライバシーの侵害などの危険性がある」
(全体・性別・年齢・居住地域)



10 SDGsについて

(1) SDGsの認知について

問 18 あなたは、SDGsをご存じですか。

- 「知っている」が第1位。次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」、「知らない」の順。

「知っている」(59.2%)と答えた人が最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(24.2%)、「知らない」(12.9%)の順となっています。

属性別で「知っている」率をみると、性別では、男性(60.3%)が女性(57.8%)をわずかに上回っています。

年齢別では、年齢層が高くなるにつれて「知っている」率が低くなる傾向があり、10代が最も高く、8割を超えているのに対し、70歳以上では39.7%となっています。

居住地域別では、須原(67.5%)が最も高く、次いで長野(伊奈川地区含む)が60.3%、殿(和村地区含む)が57.9%、野尻が55.1%となっています。

SDGsの認知について (全体・性別・年齢・居住地域)

